

京田辺市
健康に関する市民意識調査
調査結果報告書
(概要版)

平成 29 年 3 月

京 田 辺 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査期間	1
3	調査方法・回収状況	1
4	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	健康状態や意識について	2
	（1）親子（1歳から5歳児）	2
	（2）小中学生	5
	（3）成 人	8
2	栄養・食生活について	13
	（1）親子（1歳から5歳児）	13
	（2）小中学生	22
	（3）成 人	30
3	運動について	40
	（1）親子（1歳から5歳児）	40
	（2）小中学生	41
	（3）成 人	44
4	休養・こころの健康について	51
	（1）親子（1歳から5歳児）	51
	（2）小中学生	58
	（3）成 人	63
5	歯の健康について	69
	（1）親子（1歳から5歳児）	69
	（2）小中学生	71
	（3）成 人	73
6	たばこについて	77
	（1）親子（1歳から5歳児）	77
	（2）小中学生	80
	（3）成 人	82

7	アルコールについて	87
	(1) 親子（1歳から5歳児）	87
	(2) 小中学生	88
	(3) 成人	89
8	薬物について	94
	(1) 小中学生	94
9	健康管理について	96
	(1) 親子（1歳から5歳児）	96
	(2) 小中学生	101
	(3) 成人	102

I 調査の概要

1 調査の目的

京田辺市健康増進計画・食育推進計画の中間評価及び計画の見直しの資料とするために、市民の健康観や健康づくり、生活習慣、さらに食育に関する現状を把握し、本市における課題や市民ニーズの変化を掴みます。


2 調査期間

平成 28 年 7 月 11 日から平成 28 年 7 月 25 日まで

3 調査方法・回収状況

	調査方法	配布数	回収数	回収率
親子 (1 歳から 5 歳児)	郵送による回収 もしくは健診時回収	562 件	277 件	49.3%
小中学生	学校を通じて 配布・回収	511 件 小学 6 年生：230 件 中学 3 年生：281 件	472 件 小学 6 年生：230 件 中学 3 年生：238 件 その他学年不明：4 件	92.4%
成人 (20 歳以上)	住民基本台帳による 無作為抽出、郵送に よる配布・回収	2,200 件	880 件	40.0%
合計		3,273 件	1,629 件	49.8%

4 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数（N）が一桁のものについては、回答に誤差が大きい可能性があるため、コメントを控えています。
- ・「その他学年不明」は、調査表に学年を記載していない回答です。

Ⅱ 調査結果

1 健康状態や意識について

親子（1歳から5歳児）

- ・母親の有職率が2割増えている。（P. 3-問5）

小中学生

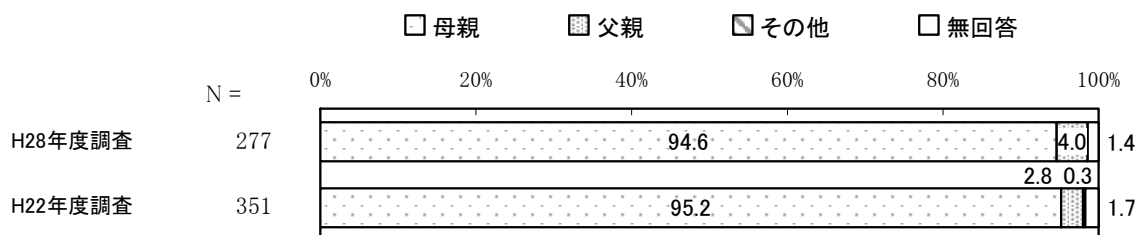
- ・自分を太っていると思っている人が減少し、「ふつう」の割合が増えている。（P. 6-問5）
- ・自分は健康と思う人が、1割増加し、7割近くとなっている。（P. 6-問6）

成人（20歳以上）

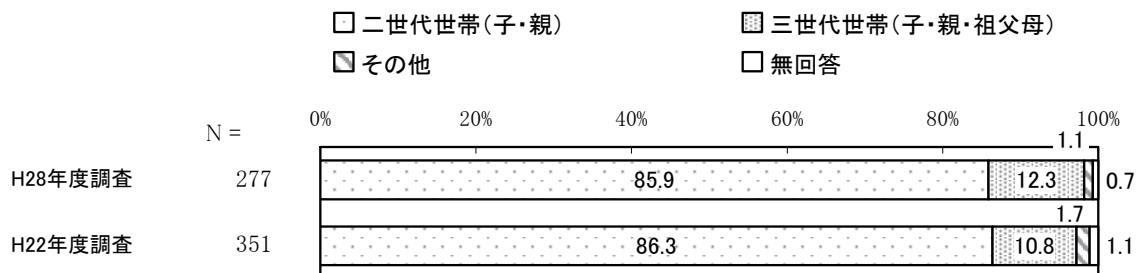
- ・自分の健康状態について、健康だと思う人は4割半ば。（P. 10-問8）
- ・女性の20歳代での痩身志向は改善しているが、40歳代以下で、適正体重を本来の適正体重よりも少なく捉えている人が多く、痩身志向が強い。（P. 11～12-問9）

（1）親子（1歳から5歳児）

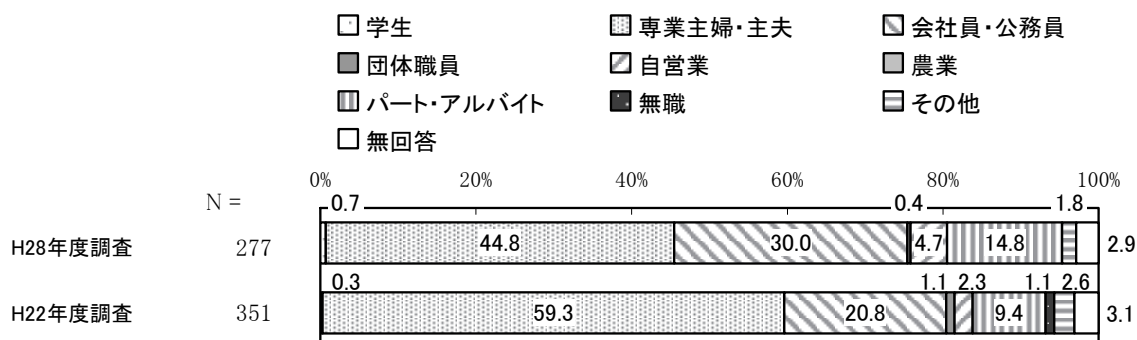
問1 お子さんからみた、あなたとの関係をお答えください。（ひとつに○）



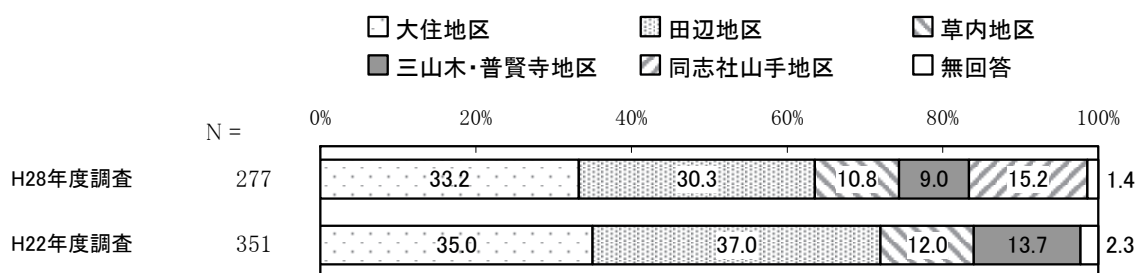
問2 お子さんからみた、家族構成はどのようになっていますか。（ひとつに○）



問3 お子さんの主な保育者のご職業は何ですか。（もっともあてはまるものひとつに○）

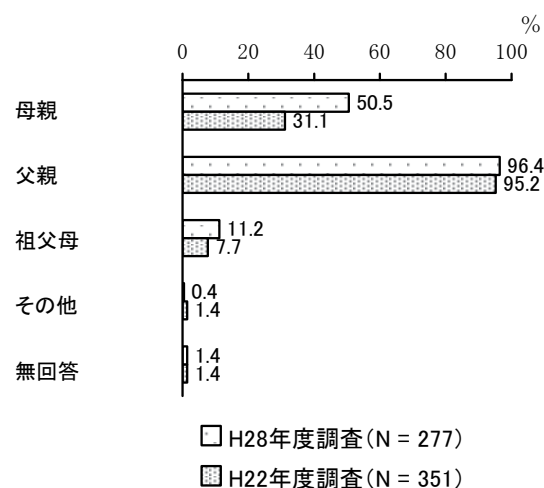


問4 あなたのお住まいの郵便番号を記入してください。

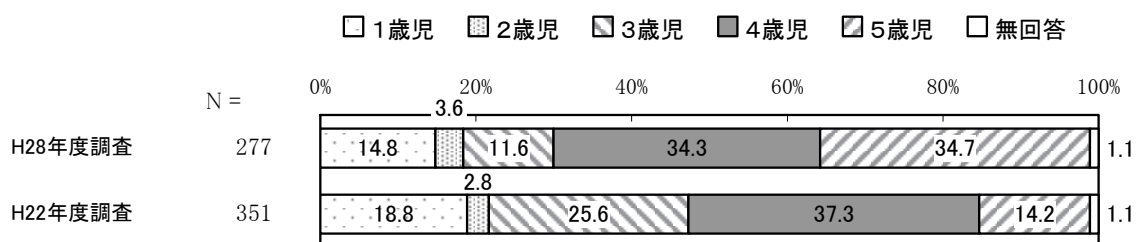


※平成22年度は、同志社山手地区は三山木・普賢寺地区に含まれています。
 ※郵便番号をもとに地区の割り振りをしています。

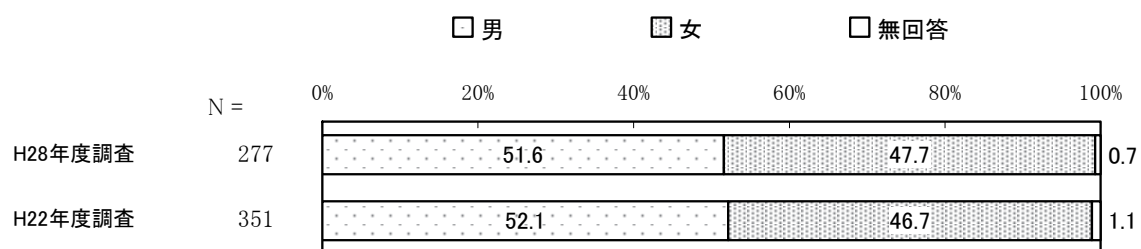
問5 就労している方はどなたですか。(パート・アルバイトを含みます)
 (あてはまるものすべてに○)



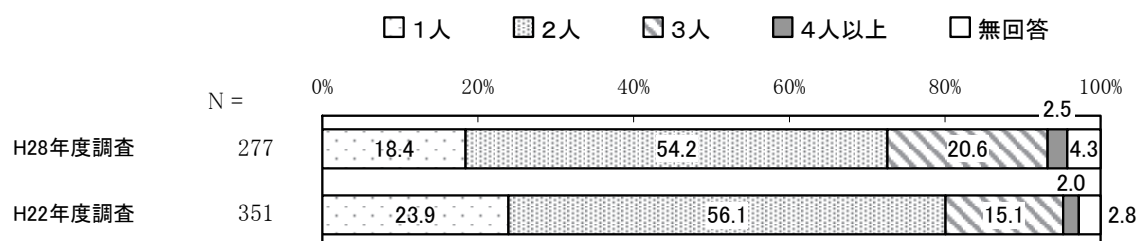
問6 宛名のお子さんの年齢はおいくつですか。



問7 宛名のお子さんの性別はどちらですか。(どちらかに○)

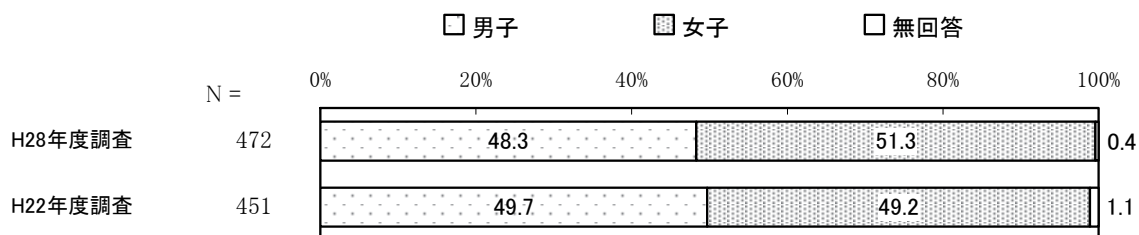


問8 何人兄弟・姉妹ですか。

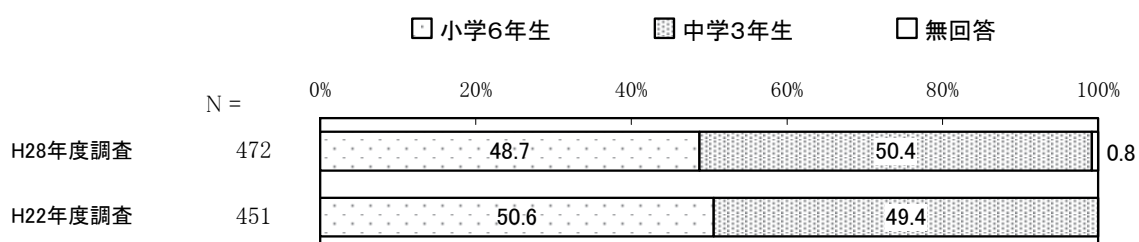


(2) 小中学生

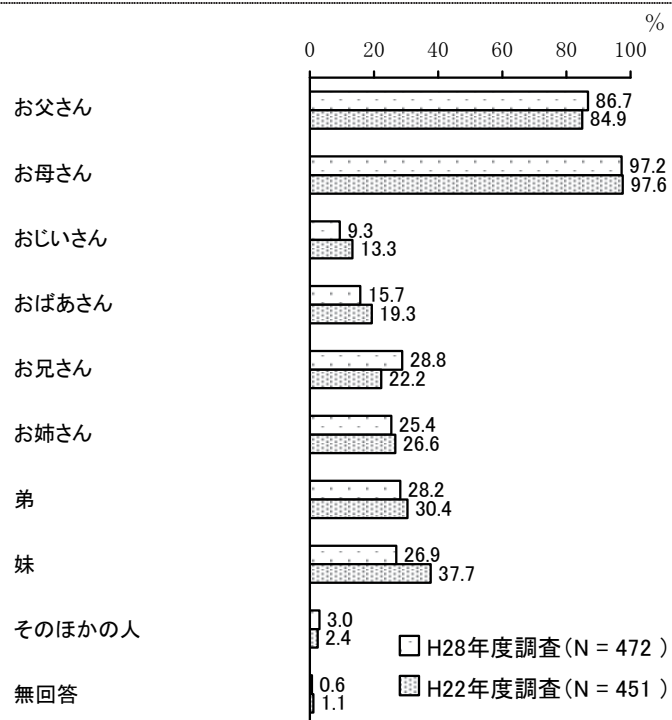
問1 性別はどちらですか。(どちらかに○)



問2 学年はどちらですか。(どちらかに○)



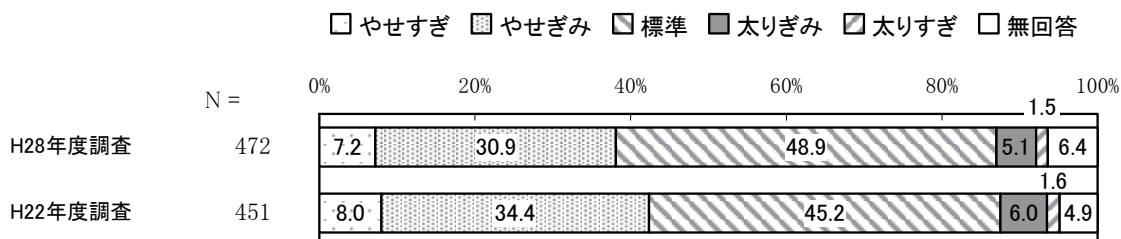
問3 一緒に住んでいる人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)



問4 あなたの身長、体重はいくらですか。

【ローレル指数※】

「標準」の割合が48.9%と最も高く、次いで「やせぎみ」の割合が30.9%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

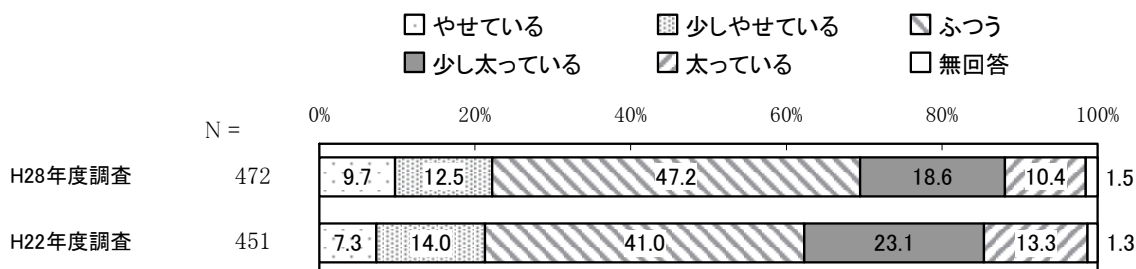


※ローレル指数：児童・生徒の肥満の程度を表す指数のひとつ。体重[kg]÷身長[cm]³×1000000[kg/cm³]で算出します。
ローレル指数が100未満は「やせすぎ」、100以上115未満は「やせぎみ」、115以上145未満は「標準」、
145以上160未満は「太りすぎ」、160以上は「太りすぎ」とされています。

問5 あなたは、自分が太っていると思いますか、やせていると思いますか。 (ひとつに○)

「やせている」と「少しやせている」を合わせた“やせている”の割合が22.2%、「ふつう」が47.2%、「少し太っている」と「太っている」を合わせた“太っている”の割合が29.0%となっています。

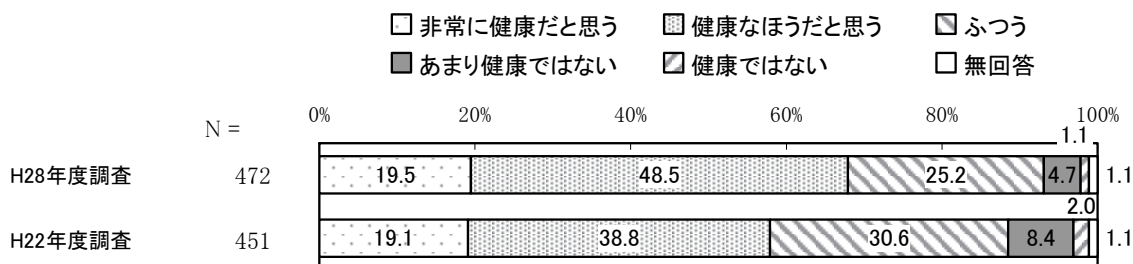
平成22年度調査と比較すると、「ふつう」の割合が6.2ポイント増加しています。



問6 あなたは、健康だと思いますか。(ひとつに○)

「非常に健康だと思う」と「健康なほうだと思う」を合わせた“健康”の割合が68.0%、「ふつう」が25.2%、「あまり健康ではない」と「健康ではない」を合わせた“健康ではない”の割合が5.8%となっています。

平成22年度調査と比較すると、“健康”の割合が10.1ポイント増加しています。

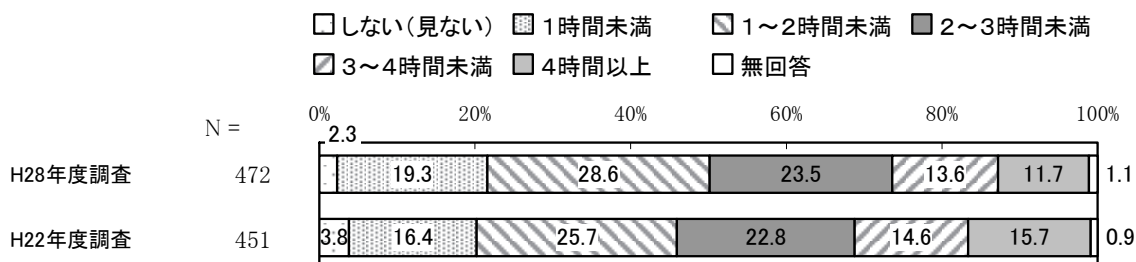


問7 あなたは、家で、パソコンやゲーム、テレビ、ビデオ、携帯電話を1日に何時間しますか（見ますか）。（ひとつに○）

①平日

「1時間未満」と「1～2時間未満」、「2～3時間未満」、「3～4時間未満」、「4時間以上」を合わせた“する（見る）”の割合が96.7%、「しない（見ない）」の割合が2.3%となっています。

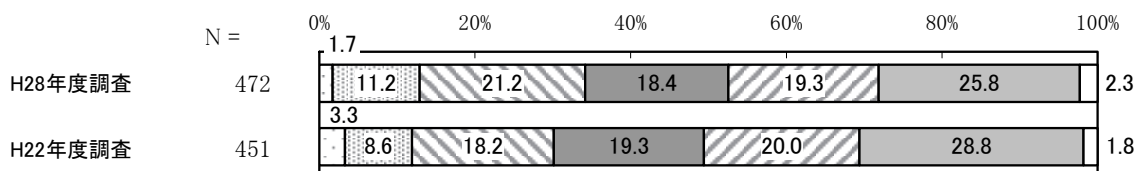
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②休日

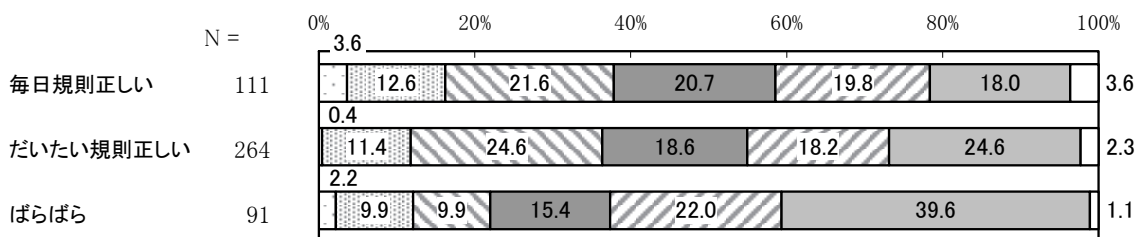
「1時間未満」と「1～2時間未満」、「2～3時間未満」、「3～4時間未満」、「4時間以上」を合わせた“する（見る）”の割合が95.9%、「しない（見ない）」の割合が1.7%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



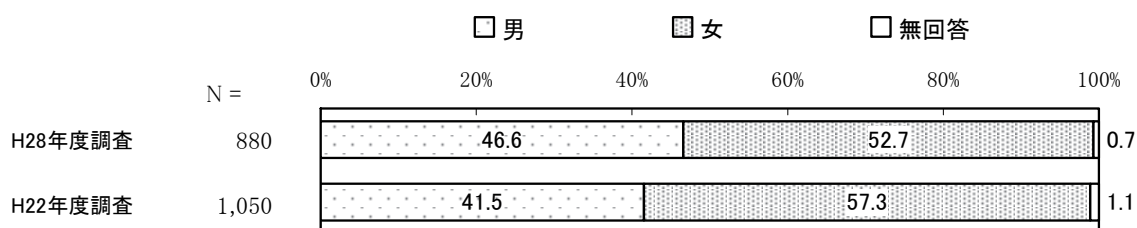
【生活の規則正しさ別】

生活の規則正しさ別でみると、他に比べ、ばらばらで「4時間以上」（39.6%）の割合が高くなっています。

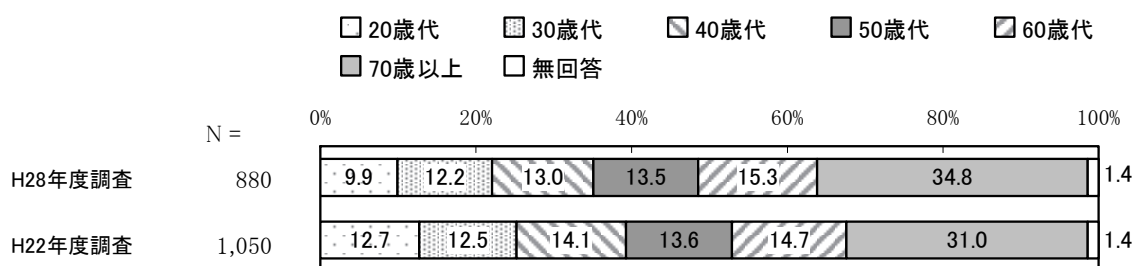


(3) 成 人

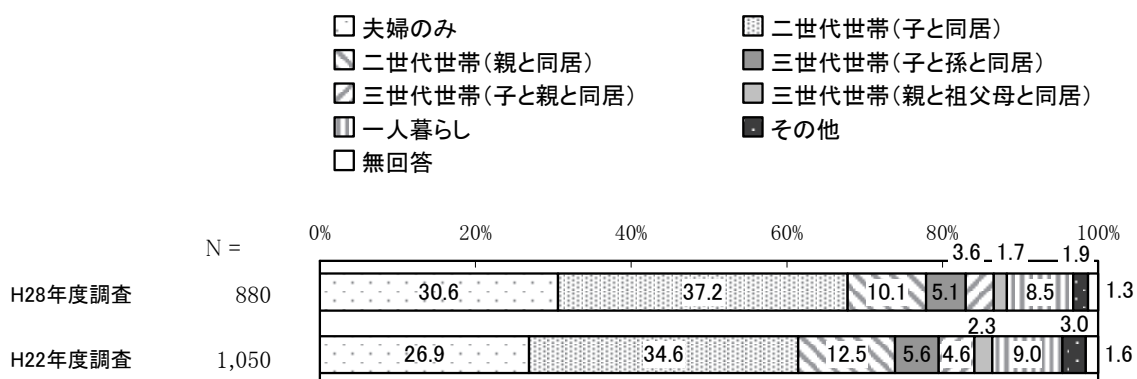
問1 性別はどちらですか。(どちらかに○)



問2 年齢はおいくつですか。



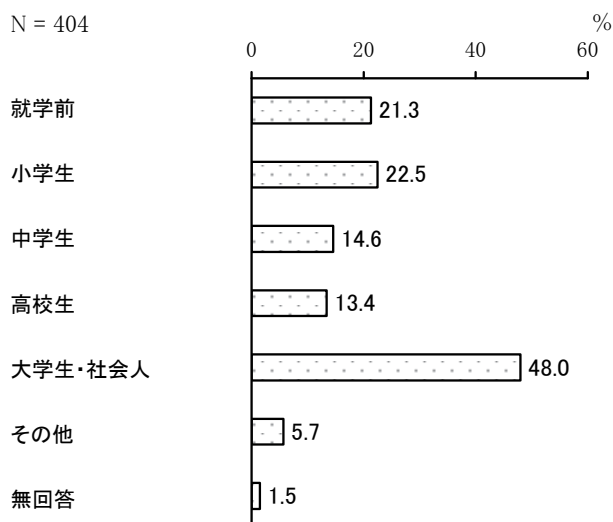
問3 あなたご自身からみた家族構成はどのようになっていますか。(ひとつに○)



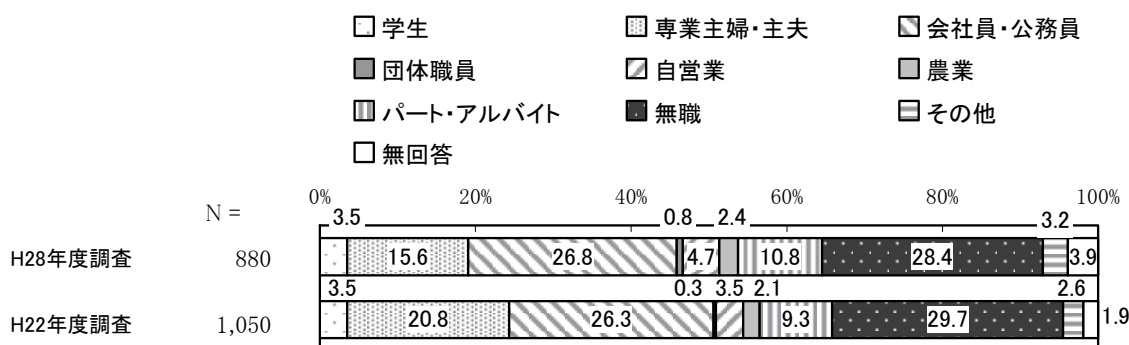
問3で「2. 二世帯世帯（子と同居）」「4. 三世帯世帯（子と孫と同居）」「5. 三世帯世帯（子と親と同居）」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問3-1 どの年代のお子さんですか。（あてはまるものすべてに○）

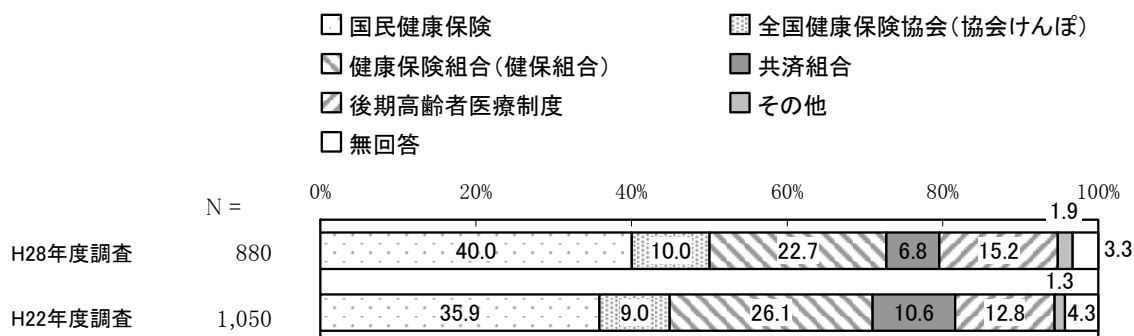
「大学生・社会人」の割合が48.0%と最も高く、次いで「小学生」の割合が22.5%、「就学前」の割合が21.3%となっています。



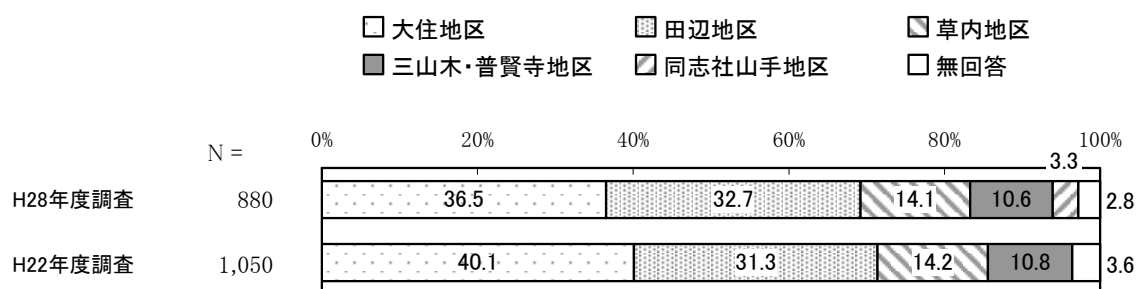
問4 主な職業は何ですか。（ひとつに○）



問5 加入している医療保険は何ですか。（ひとつに○）



問6 あなたのお住まいの郵便番号を記入してください。

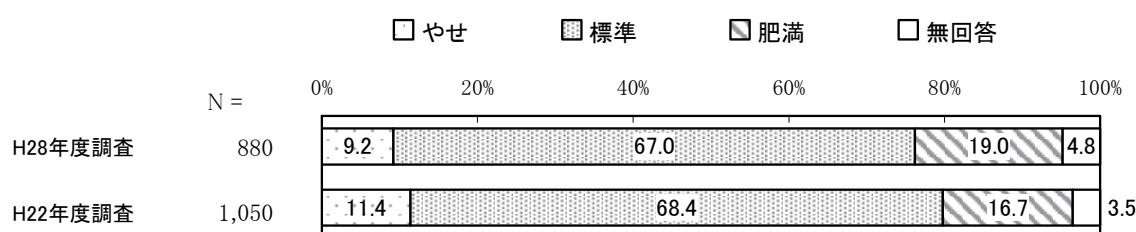


※平成22年度は、同志社山手地区は三山木・普賢寺地区に含まれています。
 ※郵便番号をもとに地区の割り振りをしています。

問7 身長及び体重、腹囲を教えてください。

BMI※

「標準」の割合が67.0%と最も高く、次いで「肥満」の割合が19.0%となっています。
 平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

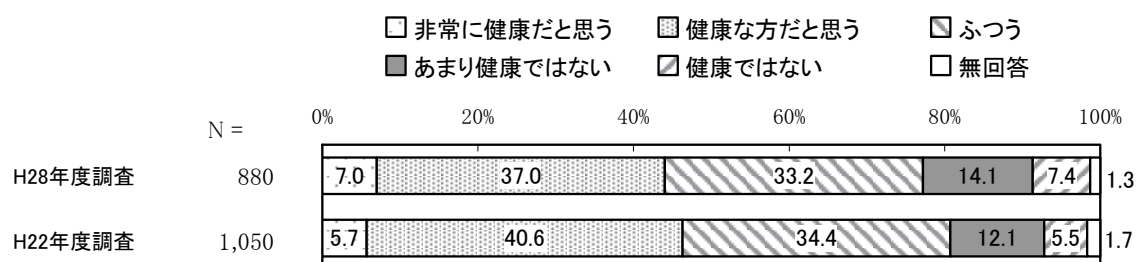


※BMI：身長からみた体重の割合を示す体格指標のひとつ。体重[kg]÷身長[m]²で算出します。BMIが18.5未満は「やせ」、18.5以上25未満は「標準」、25以上は「肥満」とされています。

問8 現在、ご自身は健康であると思いますか。（ひとつに○）

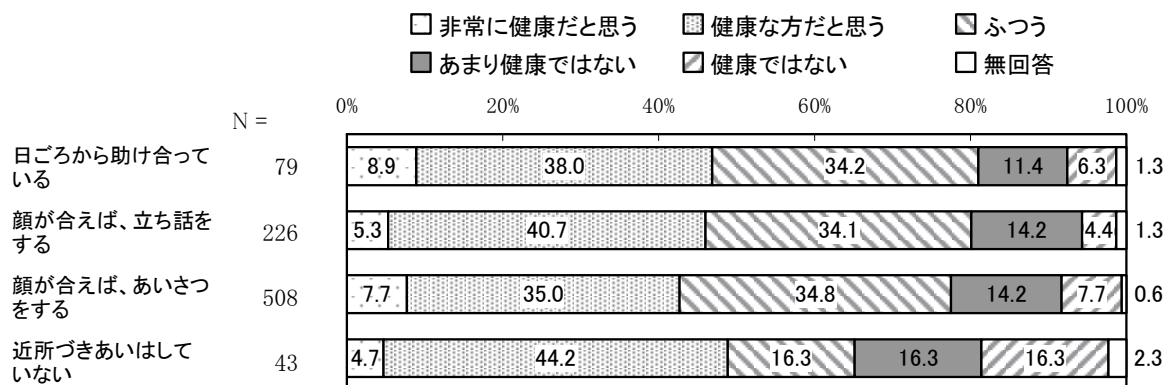
「非常に健康だと思う」と「健康なほうだと思う」を合わせた「健康」の割合が44.0%、「ふつう」が33.2%、「あまり健康ではない」と「健康ではない」を合わせた「健康ではない」の割合が21.5%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【近所付き合いの程度別】

近所付き合いの程度別でみると、近所付き合いの程度が薄くなるにつれ“健康ではない”の割合が高くなっています。

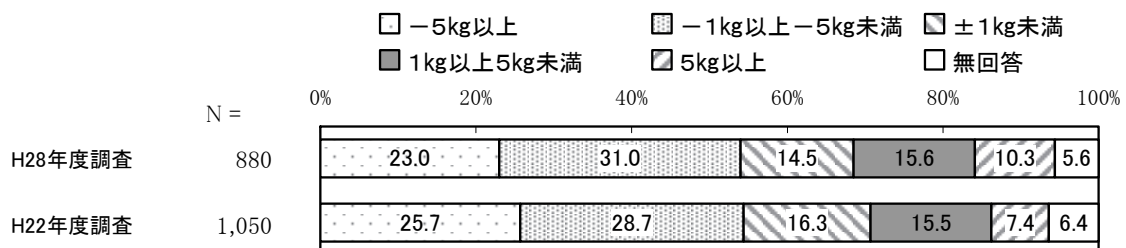


問9 自分の適した体重は何 kg だと思いますか。

BMI から算出した適正体重と、認識している適正体重の差
(認識している適正体重－BMI から算出した適正体重)

「－1 kg 以上－5 kg 未満」の割合が 31.0%と最も高く、次いで「－5 kg 以上」の割合が 23.0%、「1 kg 以上 5 kg 未満」の割合が 15.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



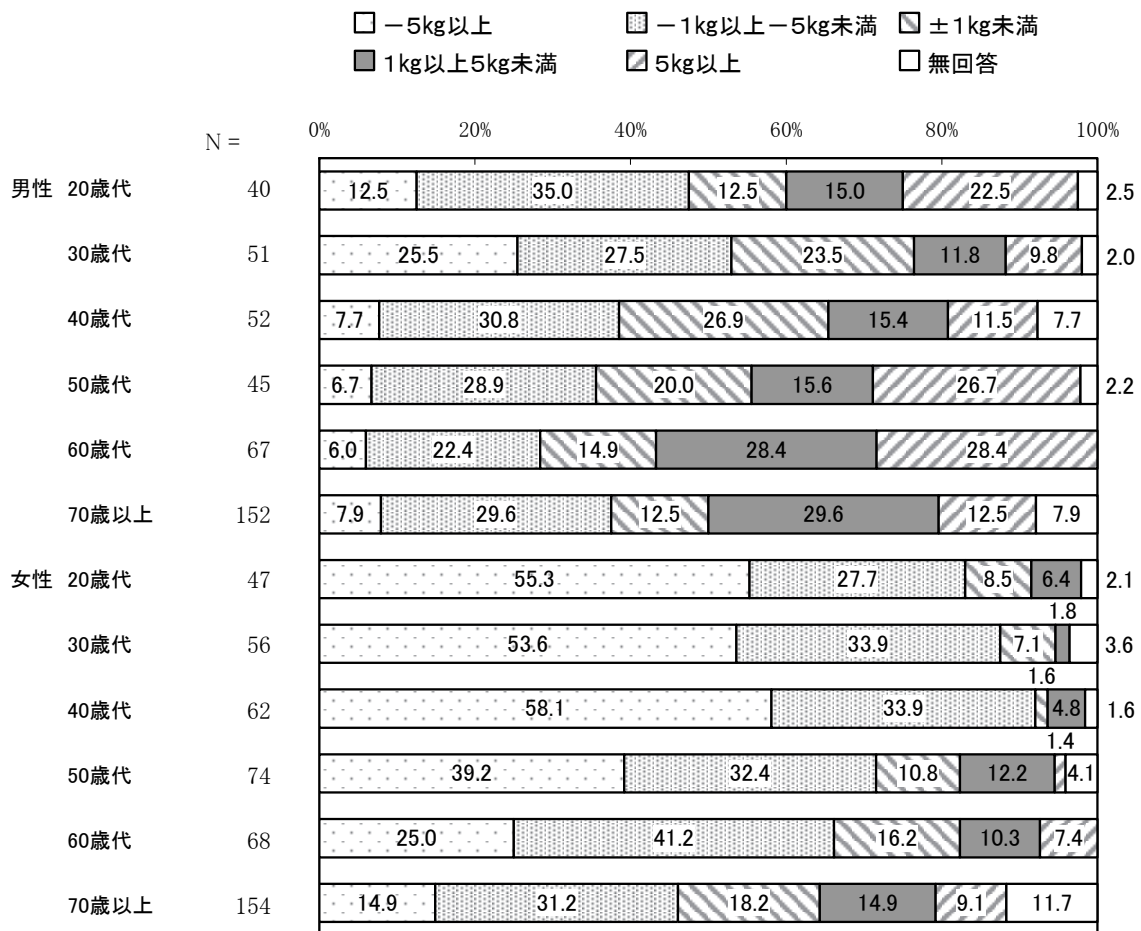
【性年齢別】

性年齢別でみると、他に比べ、女性の20～40歳代で、自分の適正体重を5kg以上少なくみる割合が高くなっています。

男性のなかでは、30歳代で自分の適正体重を5kg以上少なくみる割合（25.5%）が高くなっています。

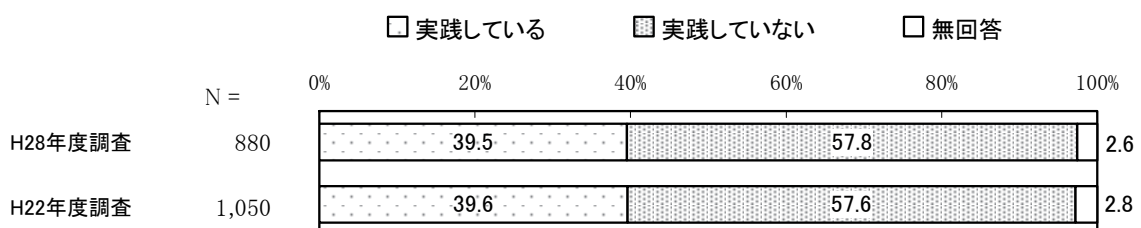
一方、50歳代以上の男性は、自分の適正体重を多くみる傾向があります。

平成22年度調査と比較すると、女性の20歳代で自分の適正体重を5kg以上少なくみる割合が減少している一方、男性の30歳代で増加しています。



問 10 あなたは、自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践していますか。
(どちらかに○)

「実践している」の割合が39.5%、「実践していない」の割合が57.8%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



2 栄養・食生活について

親子（1歳から5歳児）

- ・食育に関する話をする人ほど家族と一緒に食事をしている割合が高い。(P. 14～16-問 12)
- ・食育の日を知っている人の割合は1割半ば。(P. 19-問 19)
- ・食品の安全に関する知識がある人は5割半ば。(P. 20-問 22)
- ・地産地消の認知度が増加している。(P. 20-問 23)
- ・子育て世代は、食に関する情報をインターネットで入手している割合が平成 22 年度と比較して約2倍。(P. 21-問 24)

小中学生

- ・朝食を欠食する人は約1割。(P. 23-問 10)
- ・小中学生の家族が朝食を欠食する割合は3割未満。(P. 24-問 11)
- ・買った弁当やおかず、インスタント食品を利用する人の割合が約1割減少。(P. 26-問 14)
- ・ダイエットをしたことがない女子が約1割増加。(P. 27-問 17)
- ・小学6年生の食育に関心がある人が、1割以上増加。(P. 28-問 18)
- ・食育の日を知っている人の割合は約1割。(P. 28-問 19)
- ・地産地消の認知度は約9割となっており言葉も意味も知っている人は、5割増加。(P. 29-問 20)

成人（20歳以上）

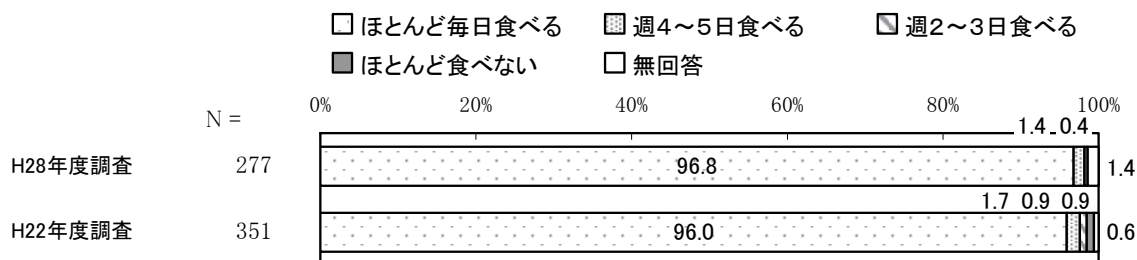
- ・男性の20歳代、30歳代で朝食欠食者が多い。(P. 30-問 11)
- ・食生活で「食事は毎日3回規則正しく食べる」ことを心がけている人が約7割。(P. 32-問 12)
- ・食育に関する話をする人ほど家族と一緒に食事をしている割合が高い。(P. 33-問 13)
- ・栄養成分表示を参考にしている人は4割半ばで、参考にしていない人よりも少ない。(P. 34-問 14)
- ・中食の利用者が6割以上。(P. 34-問 15)
- ・食育への関心は、女性、特に子育て世代である30歳代、40歳代で高く、8割以上。(P. 35-問 16)
- ・食育の日を知っている人の割合は約1割。(P. 39-問 23)

（1）親子（1歳から5歳児）

問9 お子さんは、朝食を食べますか。（ひとつに○）

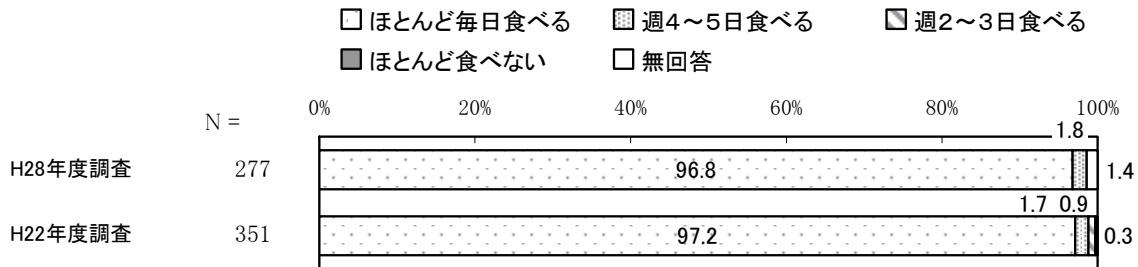
「ほとんど毎日食べる」の割合が96.8%と最も高くなっています。一方、「週4～5日食べる」と「週2～3日食べる」、「ほとんど食べない」を合わせた“朝食を欠食する”の割合は、1.8%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



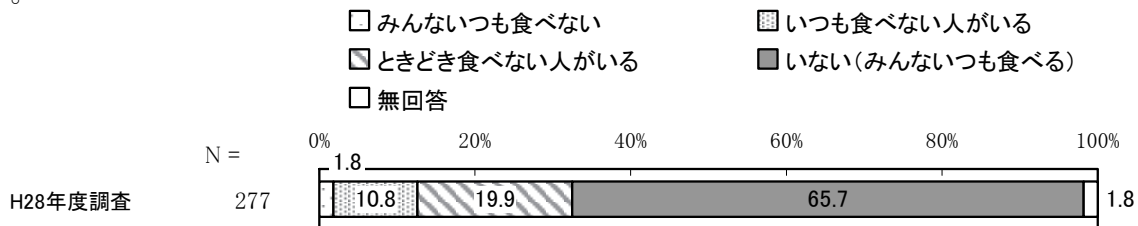
問 10 お子さんは、食事を1日3回規則正しく食べますか。(ひとつに○)

「ほとんど毎日食べる」の割合が96.8%と最も高くなっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 11 あなたの家族に、朝ごはんを食べない人はいますか(ひとつに○)

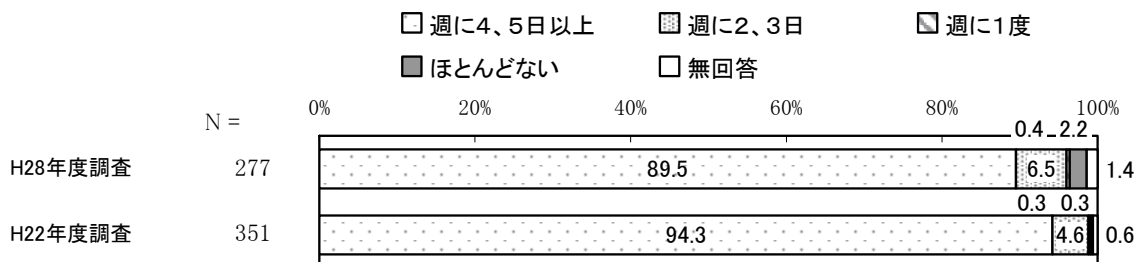
「みんないつも食べない」と「いつも食べない人がいる」、「ときどき食べない人がいる」を合わせた“いる”の割合が32.5%、「いない(みんないつも食べる)」の割合が65.7%となっています。



問 12 お子さんは、家族の誰かと食事を一緒に食べますか。 (それぞれの項目について、該当するものひとつに○)

①朝食

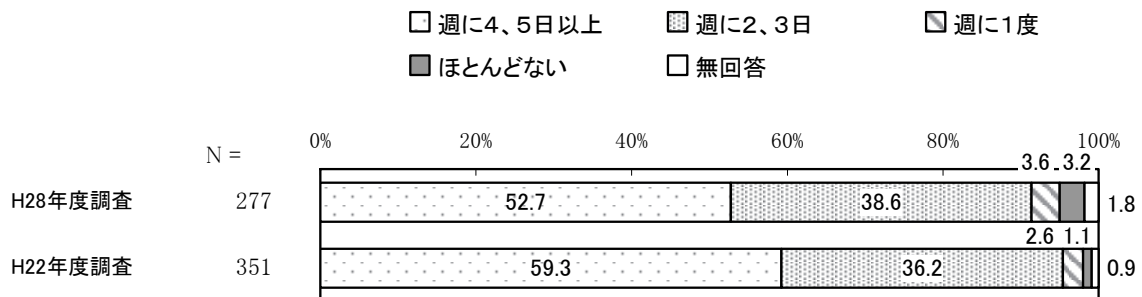
「週に4、5日以上」の割合が89.5%と最も高くなっています。一方、「週に2、3日」が6.5%、「週に1度」が0.4%、「ほとんどない」が2.2%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②昼食

「週に4、5日以上」の割合が52.7%と最も高くなっています。一方、「週に2、3日」が38.6%、「週に1度」が3.6%、「ほとんどない」が3.2%となっています。

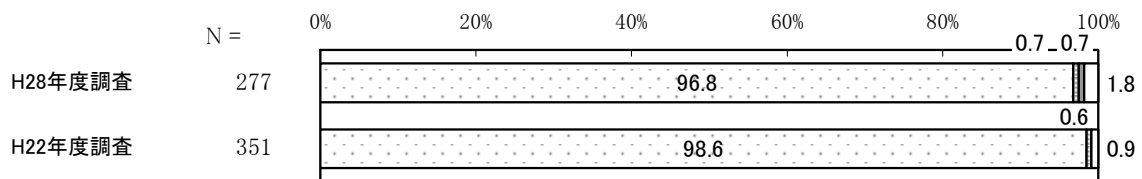
平成22年度調査と比較すると、「週に4、5日以上」の割合が6.6ポイント減少しています。



③夕食

「週に4、5日以上」の割合が96.8%と最も高くなっています。一方、「週に2、3日」、「ほとんどない」がともに0.7%となっています。

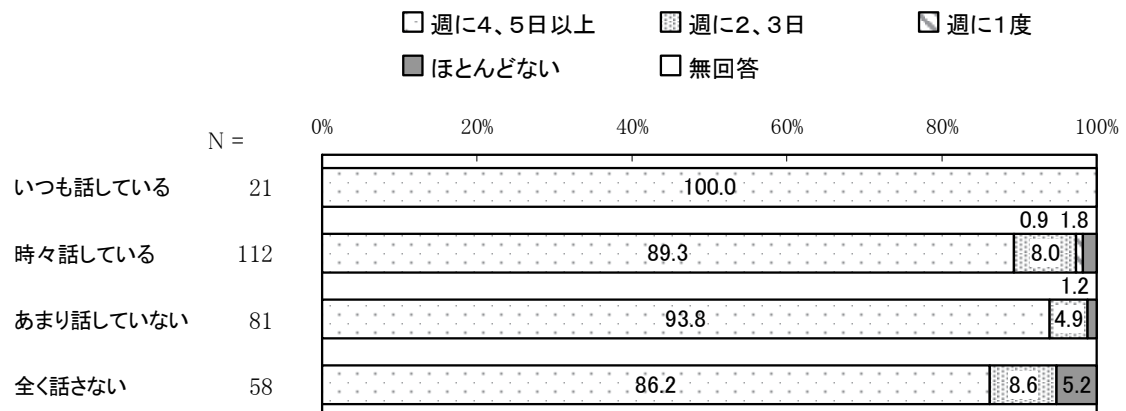
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【食育※に関する話し合いの有無別】

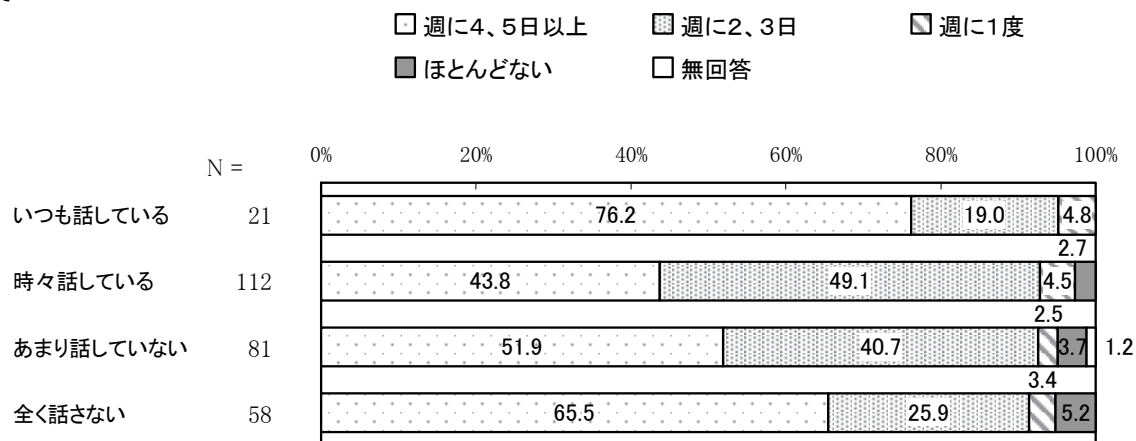
食育に関する話し合いの有無別でみると、朝食・昼食・夕食いずれでも、他に比べ、いつも子どもと食育について話す人で「週に4、5日以上」一緒に食べる人の割合が高くなっています。

①朝食

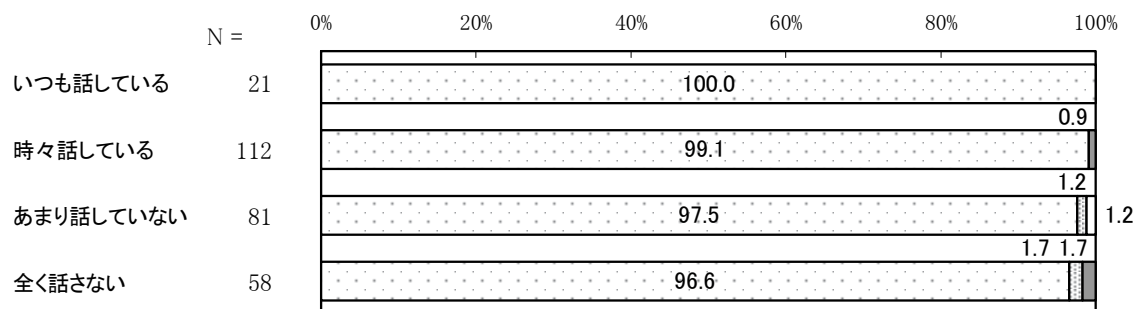


※食育：健康な生活のため、毎日の食べものや食事の仕方などについて、正しい知識と自分で選べる力を身につけることです。

②昼食

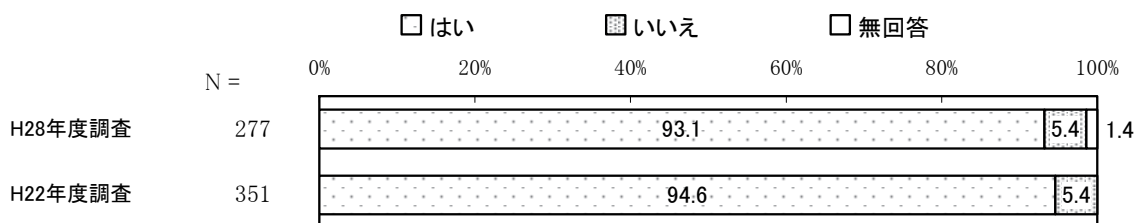


③夕食



問 13 お子さんは、1日最低1食は、バランスのとれた食事（主食、主菜、副菜などをとりいれた食事）をしていますか。（どちらかに○）

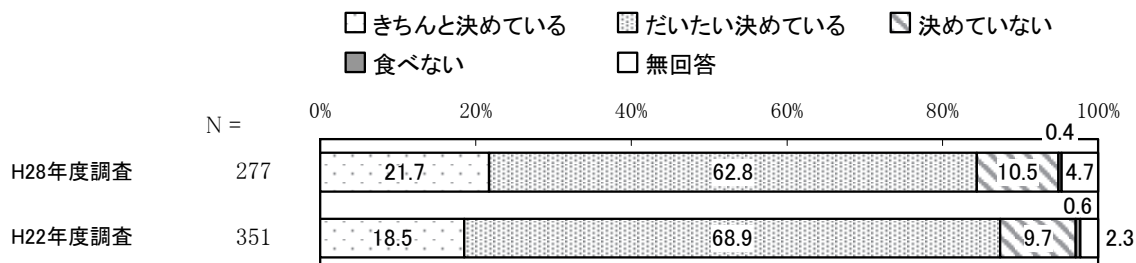
「はい」の割合が93.1%、「いいえ」の割合が5.4%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 14 おやつ（朝・昼・夕の3食以外のもの）の時間を決めていますか。（ひとつに○）

「きちんと決めている」と「だいたい決めている」を合わせた“決めている”の割合が84.5%、「決めていない」の割合が10.5%となっています。

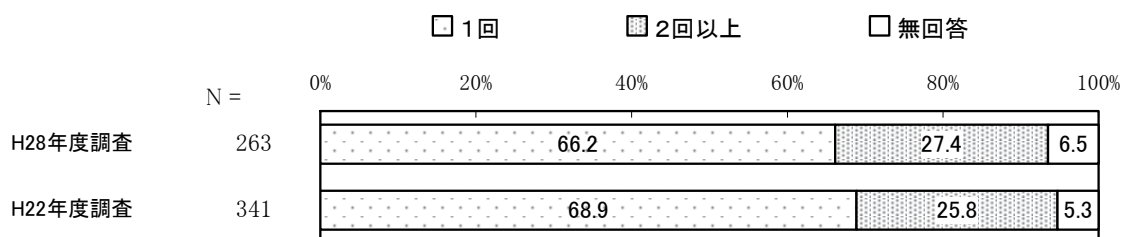
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 14-1 おやつを食べている場合は回数を記入してください。

「1回」の割合が66.2%、「2回以上」の割合が27.4%となっています。

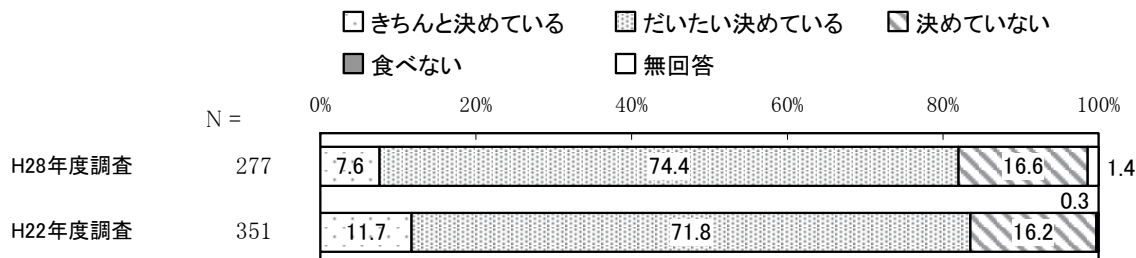
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 15 おやつの量を決めていますか。（ひとつに○）

「きちんと決めている」と「だいたい決めている」を合わせた“決めている”の割合が82.0%、「決めていない」の割合が16.6%となっています。

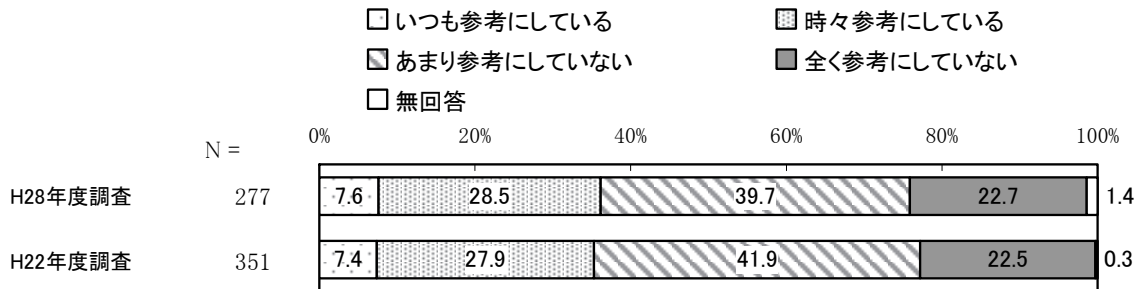
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 16 お子さんの食事で、外食や食品を購入するとき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしますか。(ひとつに○)

「いつも参考にしている」と「時々参考にしている」を合わせた“参考にしている”の割合が 36.1%、「あまり参考にしていない」と「全く参考にしていない」を合わせた“参考にしていない”の割合が 62.4%となっています。

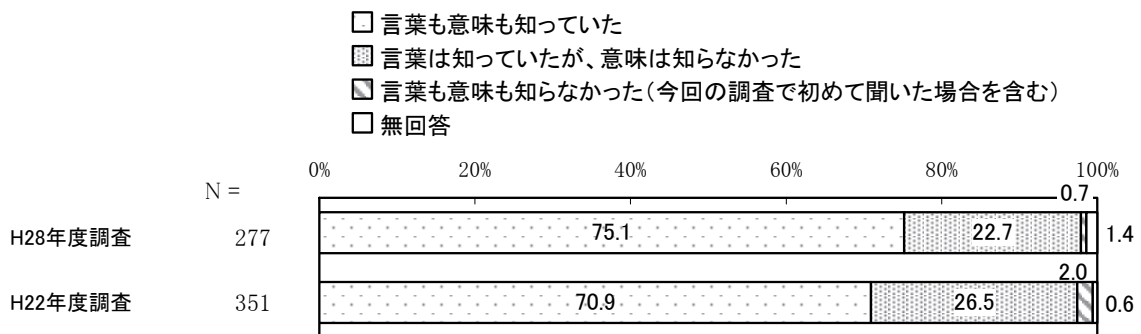
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 17 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていますか。(ひとつに○)

「言葉も意味も知っていた」の割合が 75.1%と最も高く、次いで「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」の割合が 22.7%となっており、「食育」の認知度は 97.8%となっています。

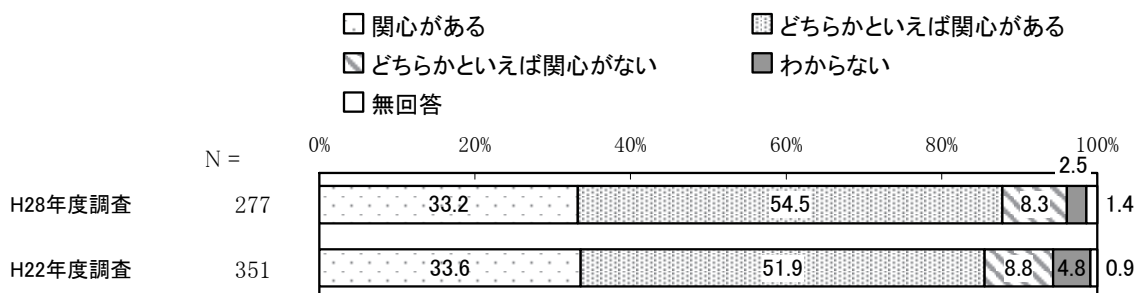
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 18 あなたは、「食育」に関心がありますか。(ひとつに○)

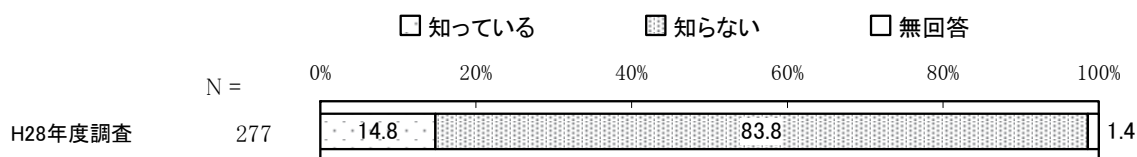
「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が 87.7%、「どちらかといえば関心がない」と「わからない」を合わせた“関心がない”の割合が 10.8%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



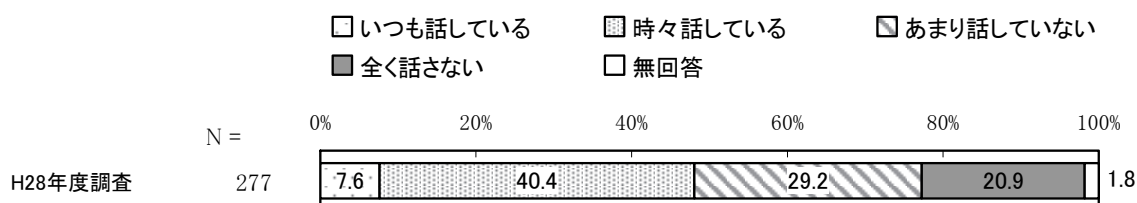
問 19 あなたは、「食育の日」を知っていますか。（どちらかに○）

「知っている」の割合が 14.8%、「知らない」の割合が 83.8%となっています。



問 20 あなたは、食育に関することとお子さんと話をすることがありますか。（ひとつに○）

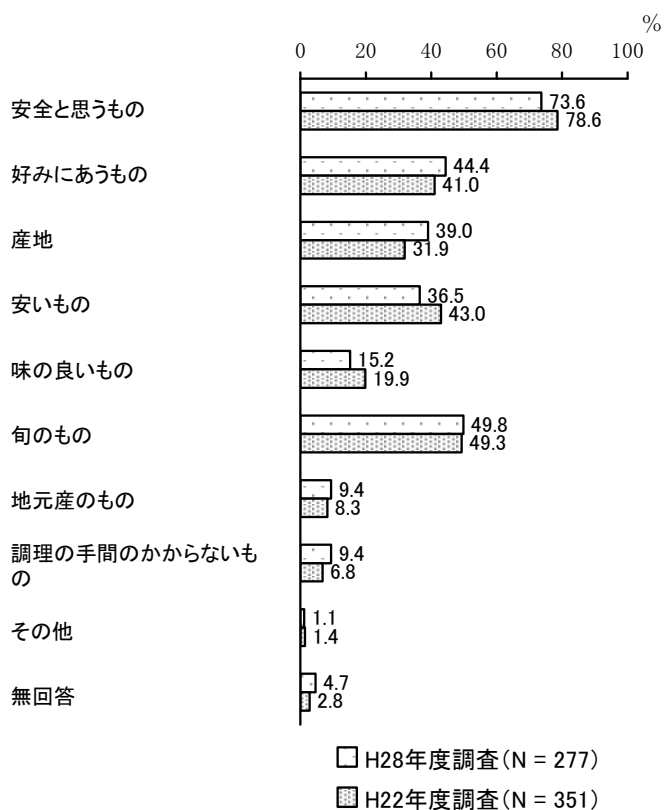
「時々話している」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「あまり話していない」の割合が 29.2%、「全く話さない」の割合が 20.9%となっています。



問 21 あなたの家庭では、食材を選ぶとき、どのような基準で選んでいますか。（あてはまるもの3つまで○）

「安全と思うもの」の割合が 73.6%と最も高く、次いで「旬のもの」の割合が 49.8%、「好みにあうもの」の割合が 44.4%となっています。

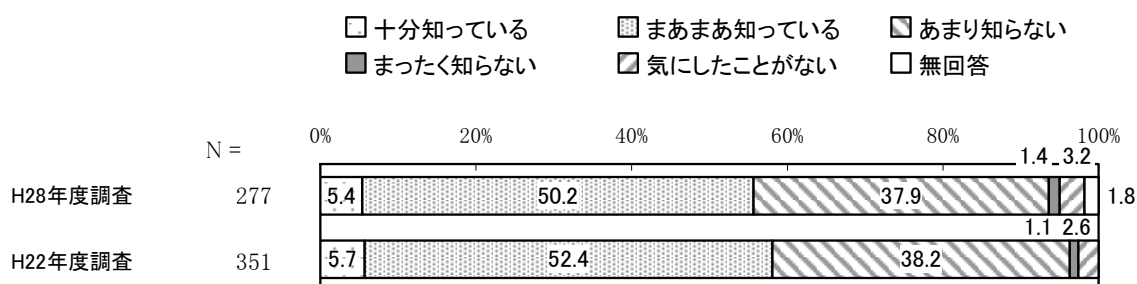
平成 22 年度調査と比較すると、「産地」の割合が 7.1 ポイント増加しています。また、「安いもの」の割合が 6.5 ポイント減少しています。



問 22 あなたは、食品の安全に関する知識※を持っていると思いますか。(ひとつに○)

「十分知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた“持っていると思う”の割合が 55.6%、「あまり知らない」と「まったく知らない」を合わせた“持っていないと思う”の割合が 39.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

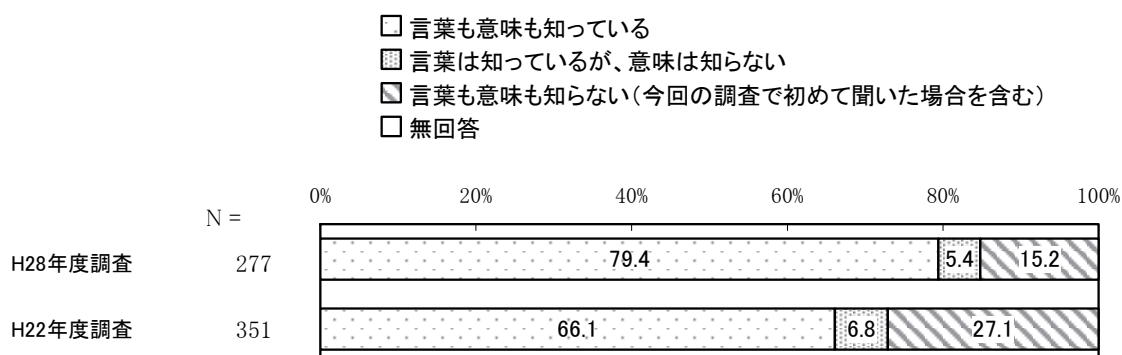


※食品の安全に関する知識：健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだら良いかや、どのような調理が必要かについての知識のことです。

問 23 あなたは、地産地消※という言葉やその意味を知っていますか。(ひとつに○)

「言葉も意味も知っている」の割合が 79.4%、「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合が 5.4%となっており、地産地消の認知度は 84.8%となっています。一方、「言葉も意味も知らない(今回の調査で初めて聞いた場合を含む)」の割合が 15.2%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が 13.3 ポイント増加しています。

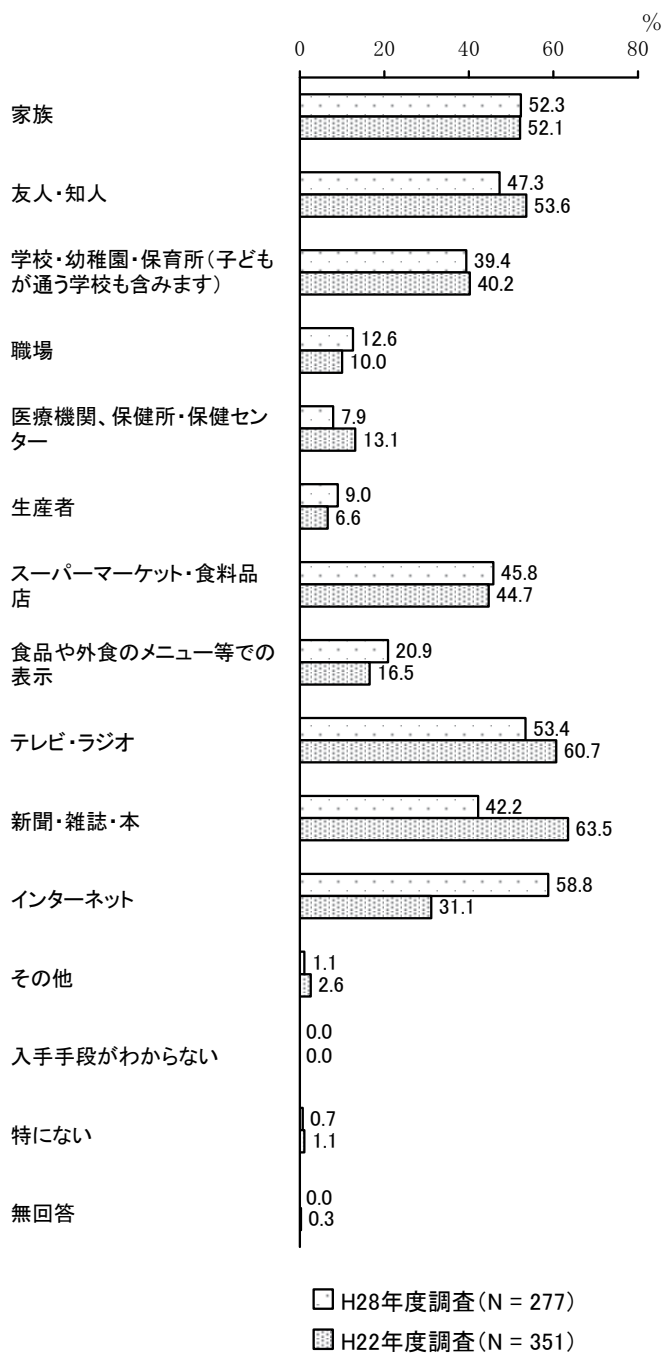


※地産地消：地域で生産された農産物や水産物をその地域で消費することです。地産地消により、消費者の食に関する信頼性が向上し、地域への愛着も高まると言われています。

問 24 あなたは、食に関する情報をどこから入手しますか。(あてはまるものすべてに○)

「インターネット」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」の割合が 53.4%、「家族」の割合が 52.3%となっています。

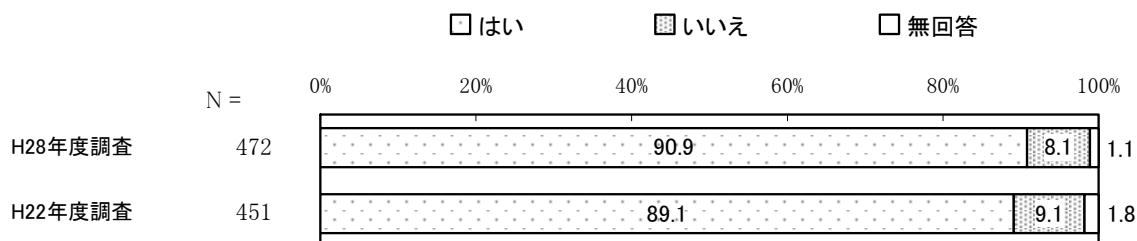
平成 22 年度調査と比較すると、「インターネット」の割合が 27.7 ポイント増加しています。また、「新聞・雑誌・本」の割合が 21.3 ポイント減少しています。



(2) 小中学生

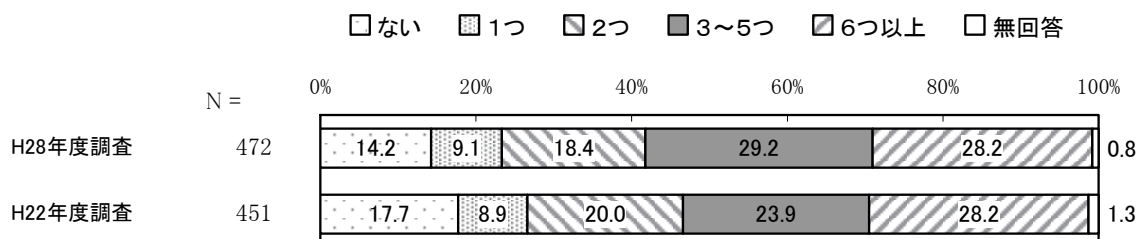
問8 あなたは、楽しく食事をしていますか。(どちらかに○)

「はい」の割合が90.9%、「いいえ」の割合が8.1%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



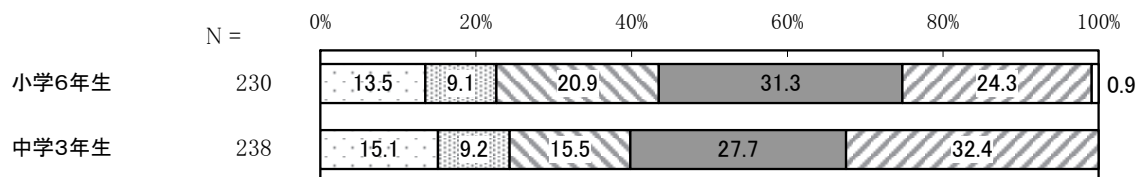
問9 あなたは、嫌いな食べ物はいくつありますか。(ひとつに○)

「1つ」と「2つ」、「3～5つ」、「6つ以上」を合わせた“ある”の割合が84.9%、「ない」の割合が14.2%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



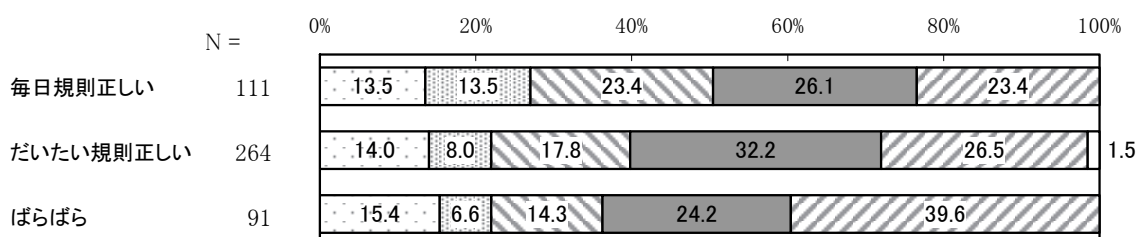
【学年別】

学年別でみると、小学6年生に比べ、中学3年生で「6つ以上」(32.4%)の割合が高くなっています。また、小学6年生で「3～5つ」(31.3%)の割合が高くなっています。



【生活の規則正しさ別】

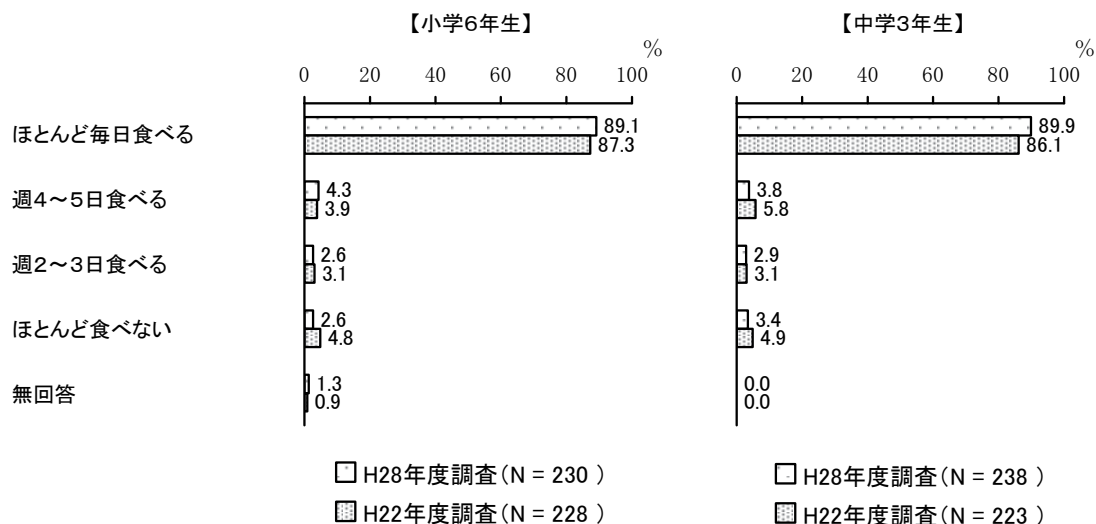
生活の規則正しさ別でみると、不規則な生活をしているほど「6つ以上」の割合が高くなっています。



問 10 あなたは、朝食を食べますか。(ひとつに○)

小学6年生、中学3年生ともに「ほとんど毎日食べる」の割合が最も高くなっています。一方、「週4～5日食べる」と「週2～3日食べる」、「ほとんど食べない」を合わせた“朝食を欠食する”の割合は、小学6年生で9.5%、中学3年生で10.1%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

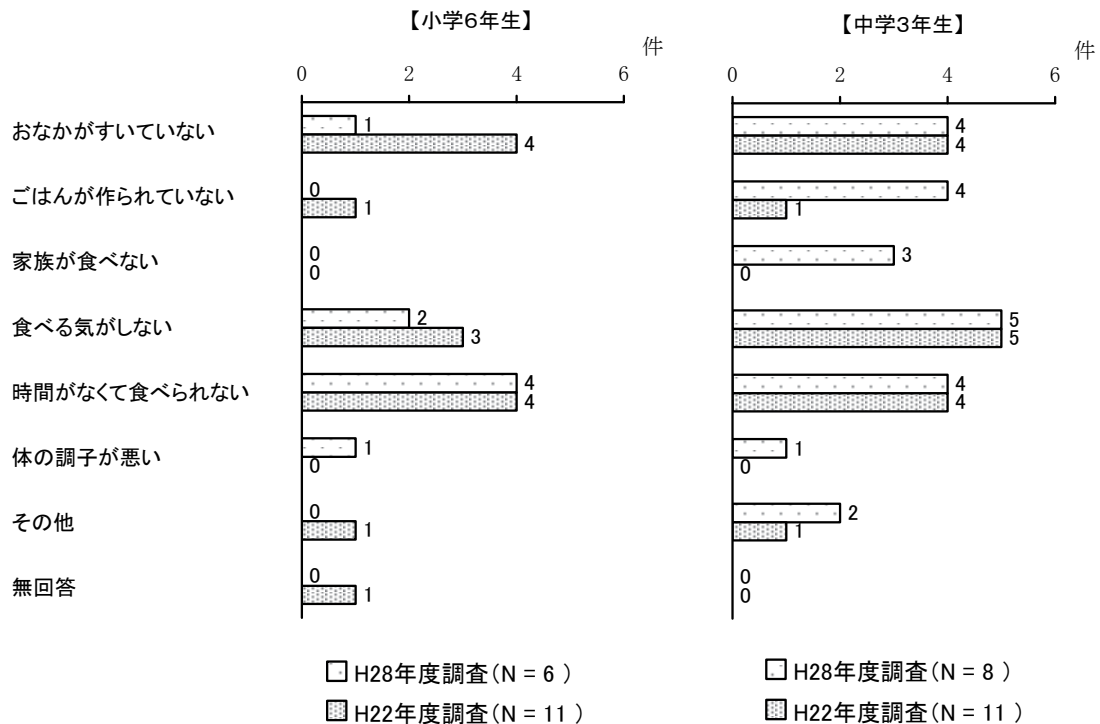


問 10 で「4. ほとんど食べない」を回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 10-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

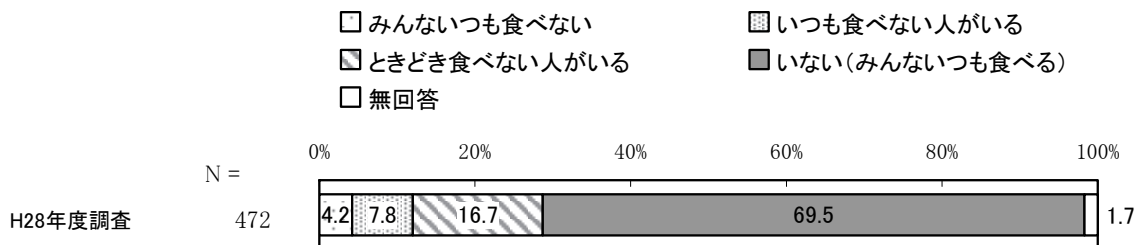
小学6年生では、「時間がなくて食べられない」が4件と最も多くなっています。平成22年度調査と比較すると、「おなかがすいていない」が3件減少しています。

中学3年生では、「食べる気がしない」が5件と最も多くなっています。平成22年度調査と比較すると、「ごはんが作られていない」、「家族が食べない」がともに3件増加しています。



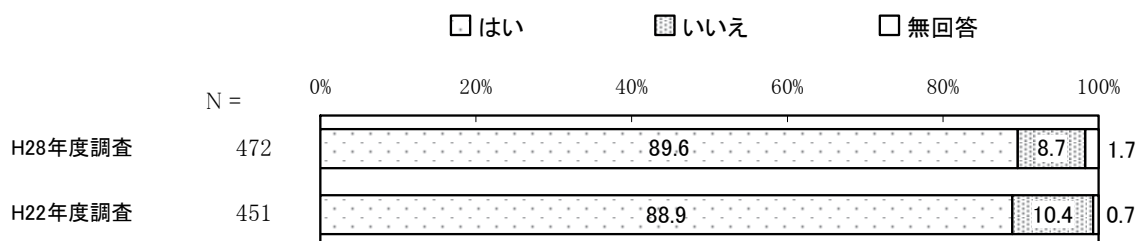
問 11 あなたの家族に、朝ごはんを食べない人はいますか（ひとつに○）

「みんないつも食べない」と「いつも食べない人がいる」、「ときどき食べない人がいる」を合わせた“いる”の割合が 28.7%、「いない（みんないつも食べる）」の割合が 69.5%となっています。



問 12 あなたは、休日最低 1 食は、バランスのとれた食事（主食、主菜、副菜などを取りいれた食事）をしていますか。（どちらかに○）

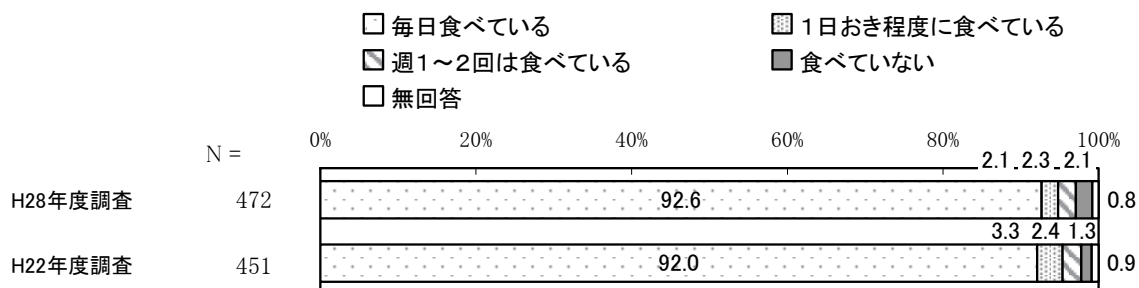
「はい」の割合が 89.6%、「いいえ」の割合が 8.7%となっています。
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 13 あなたは、食事を 1 日 3 回食べますか。（ひとつに○）

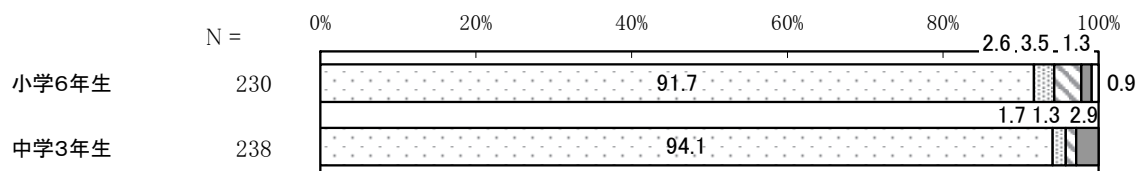
「毎日食べている」の割合が 92.6%と最も高くなっています。一方、「1 日おき程度に食べている」、「週 1 ～ 2 回は食べている」、「食べていない」を合わせた“食べないことがある”の割合が 6.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

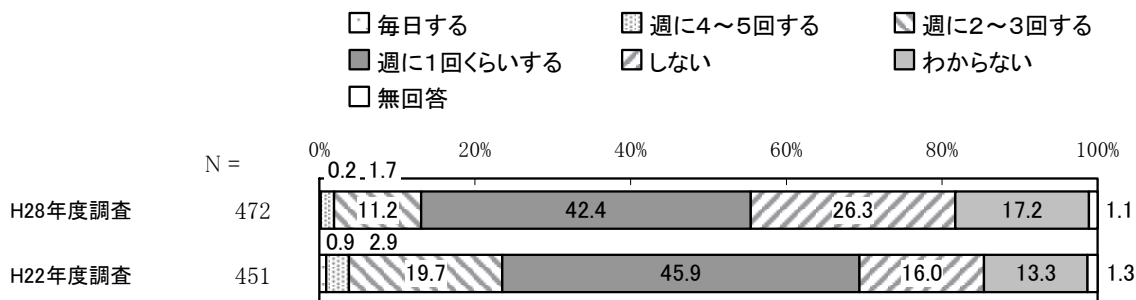
学年別でみると、大きな差異はみられません。



問 14 あなたは、週に何回ぐらい買ってきた弁当やおかず、インスタント食品で食事をしますか。(ひとつに○)

「毎日する」と「週に4～5回する」、「週に2～3回する」、「週に1回くらいする」を合わせた“する”の割合が55.5%、「しない」の割合が26.3%となっています。

平成22年度調査と比較すると、“する”の割合が13.9ポイント減少しています。また、「しない」の割合が10.3ポイント増加しています。

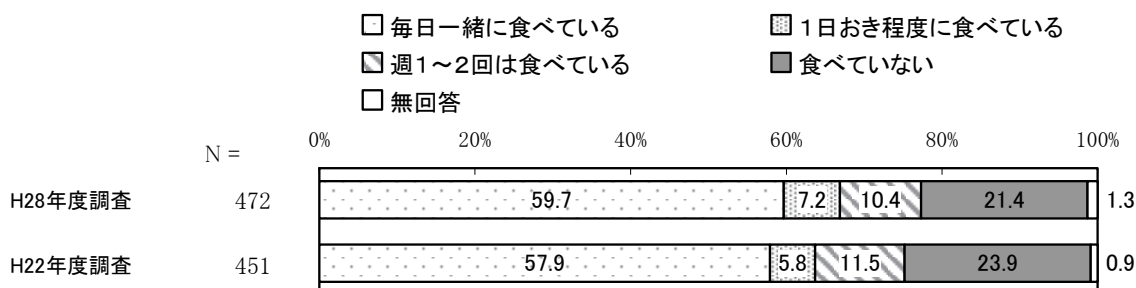


問 15 あなたは、家族や友人などと食事を一緒に食べますか。(それぞれの項目について、該当するものひとつに○)

①朝食

「毎日一緒に食べている」と「1日おき程度に食べている」、「週1～2回は食べている」を合わせた“食べている”の割合が77.3%、「食べていない」の割合が21.4%となっています。

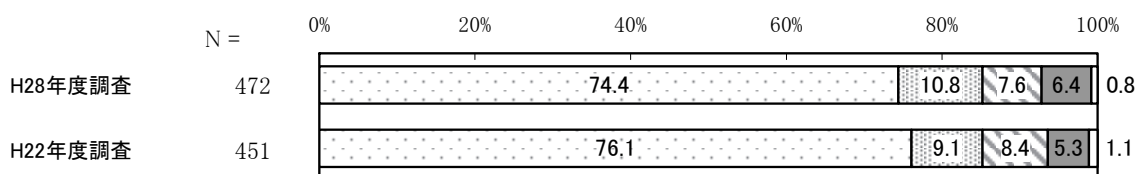
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②夕食

「毎日一緒に食べている」と「1日おき程度に食べている」、「週1～2回は食べている」を合わせた“食べている”の割合が92.8%、「食べていない」の割合が6.4%となっています。

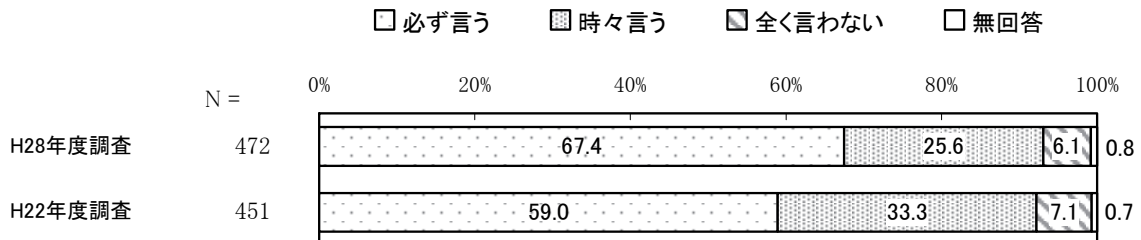
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



**問 16 あなたは、ごはんのときに「いただきます」「ごちそうさま」を言いますか。
(ひとつに○)**

「必ず言う」と「時々言う」を合わせた“言う”の割合が 93.0%、「全く言わない」の割合が 6.1%となっています。

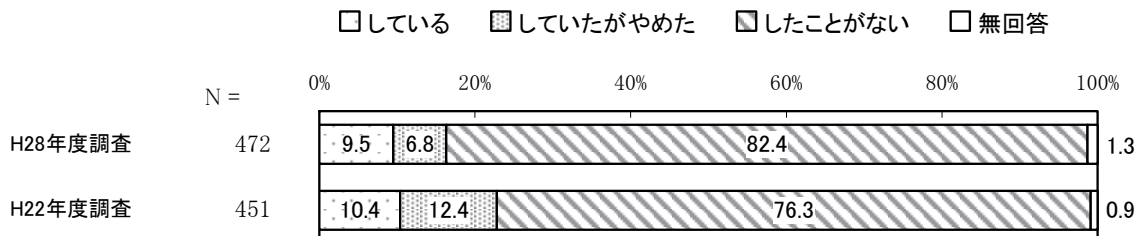
平成 22 年度調査と比較すると、「必ず言う」の割合が 8.4 ポイント増加しています。



問 17 あなたは、ダイエットをしていますか。(ひとつに○)

「したことがない」が 82.4%と最も高く、次いで「している」が 9.5%、「していたがやめた」が 6.8%となっています。

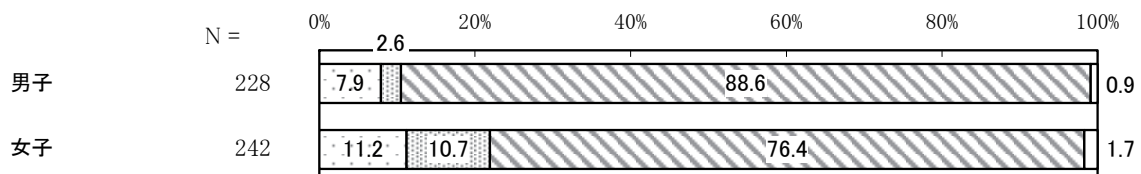
平成 22 年度調査と比較すると、「していたがやめた」の割合が 5.6 ポイント減少しています。また、「したことがない」の割合が 6.1 ポイント増加しています。



【男女別】

男女別でみると、男子に比べ、女子で「している」(11.2%)、「していたがやめた」(10.7%)の割合が高くなっています。

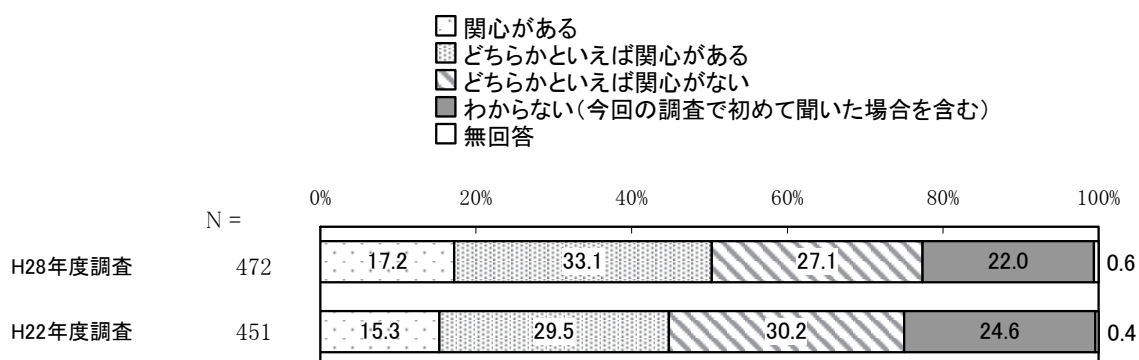
平成 22 年度調査と比較すると、女子で「したことがない」の割合が 10.2 ポイント増加しています。また、「していたがやめた」の割合が 10.0 ポイント減少しています。



問 18 あなたは、食育に関心がありますか。（ひとつに○）

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が 50.3%、「どちらかといえば関心がない」と「わからない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）」を合わせた“関心がない”の割合が 49.1%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、“関心がある”の割合が 5.5 ポイント増加しています。また、“関心がない”の割合が 5.7 ポイント減少しています。



【学年別】

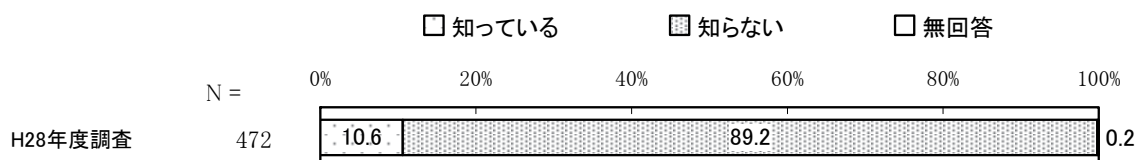
学年別でみると、中学 3 年生に比べて、小学 6 年生で“関心がある”（57.0%）の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、小学 6 年生で“関心がある”の割合が 14.1 ポイント増加しています。



問 19 あなたは、「食育の日」を知っていますか。（どちらかに○）

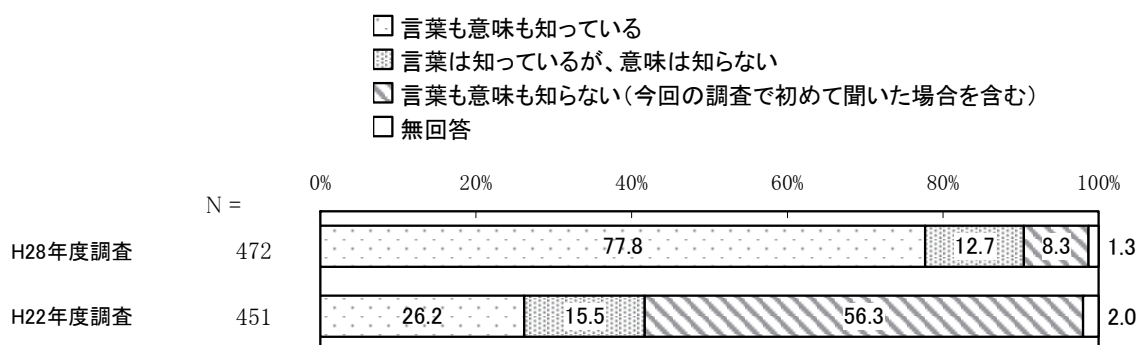
「知っている」の割合が 10.6%、「知らない」の割合が 89.2%となっています。



問 20 あなたは、地産地消という言葉やその意味を知っていますか。(ひとつに○)

「言葉も意味も知っている」が 77.8%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 12.7%となっており、地産地消の認知度は 90.5%となっています。一方、「言葉も意味も知らない(今回の調査で初めて聞いた場合を含む)」が 8.3%となっています。

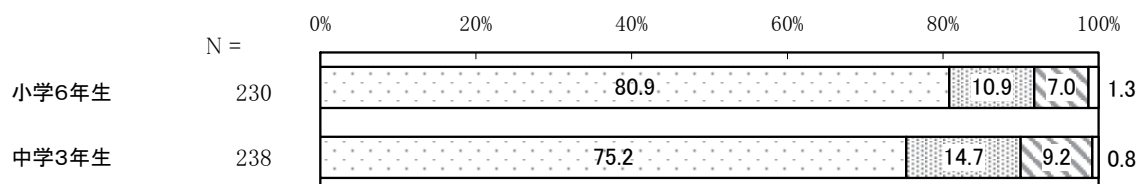
平成 22 年度調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が 51.6 ポイント増加しています。また、「言葉も意味も知らない(今回の調査で初めて聞いた場合を含む)」の割合が 48.0 ポイント減少しています。



【学年別】

学年別でみると、中学 3 年生に比べ、小学 6 年生で「言葉も意味も知っている」(80.9%) の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が、小学 6 年生で 59.0 ポイント、中学 3 年生で 44.7 ポイント増加しています。

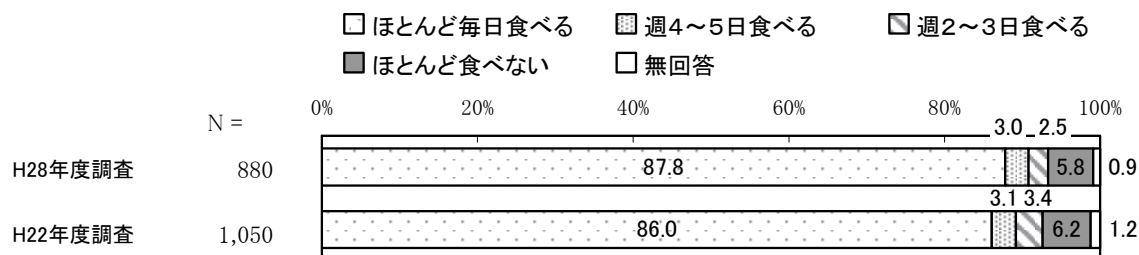


(3) 成人

問 11 あなたは、朝食を食べますか。(ひとつに○)

「ほとんど毎日食べる」の割合が 87.8%と最も高くなっています。一方、「週 4～5 日食べる」と「週 2～3 日食べる」、「ほとんど食べない」を合わせた“朝食を欠食する”の割合は 11.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

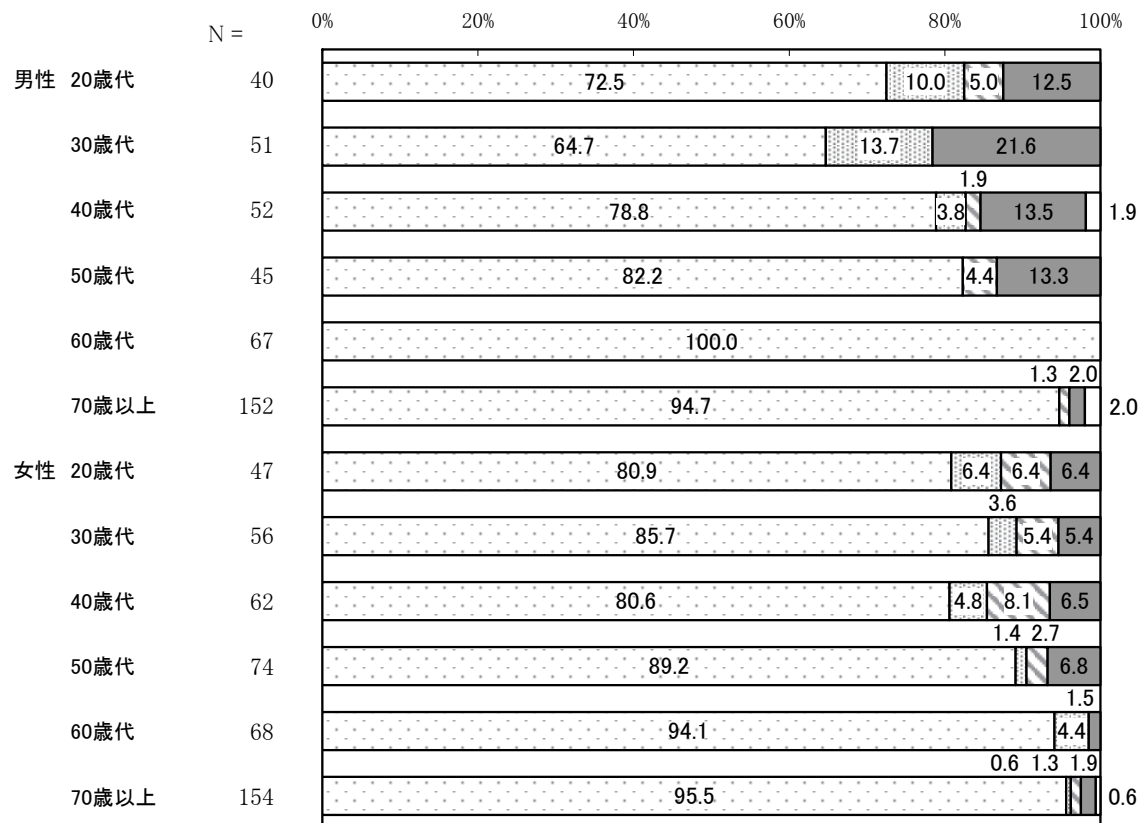


【性年齢別】

性年齢別でみると、他に比べ、男女とも 60 歳以上で「ほとんど毎日食べる」の割合が高くなっています。

一方、男性の 20 歳代、30 歳代で“朝食を欠食する”（男性 20 歳代 27.5%、男性 30 歳代 35.3%）の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、男性の 30 歳代で「ほとんど毎日食べる」の割合が 21.3 ポイント減少し、「ほとんど食べない」の割合が 11.6 ポイント増加しています。



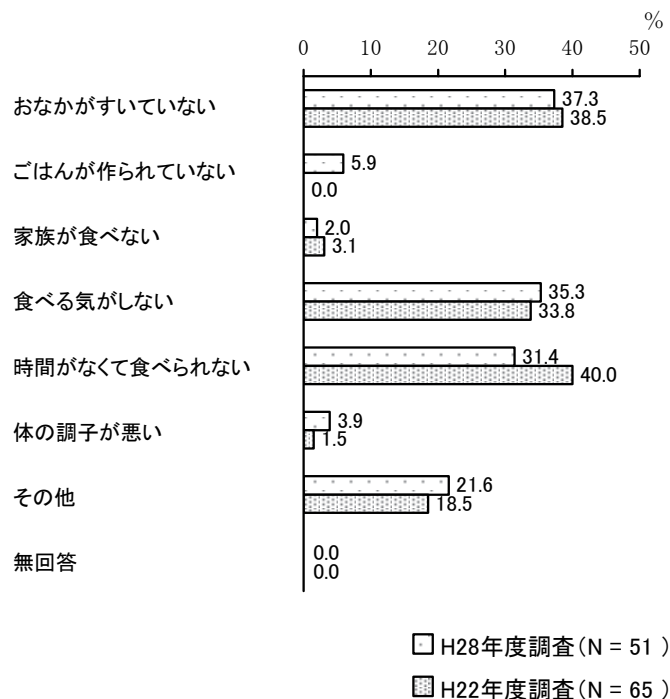
問 11 で「4. ほとんど食べない」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 11-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「おなかがすいていない」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「食べる気がしない」の割合が 35.3%、「時間がなくて食べられない」の割合が 31.4%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「時間がなくて食べられない」の割合が 8.6 ポイント減少しています。また、「ごはんが作られていない」の割合が 5.9 ポイント増加しています。

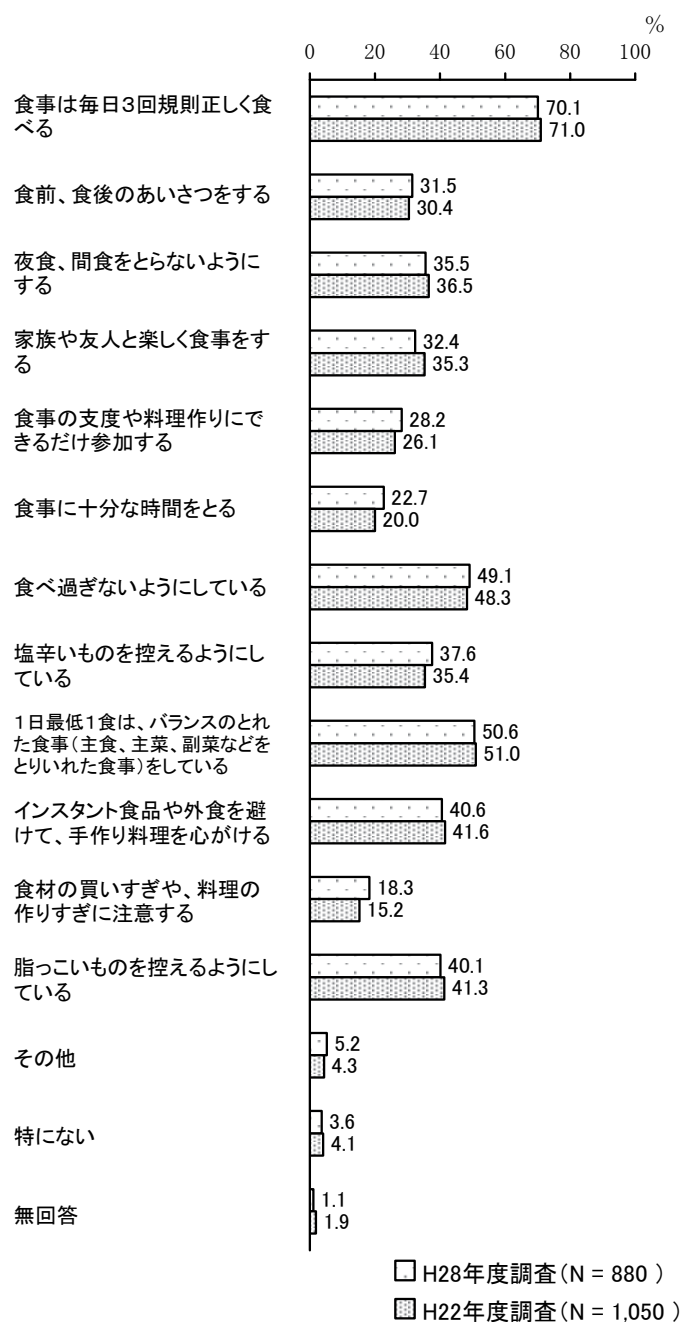
男性の 20 歳代では「時間がなくて食べられない」の割合が、男性の 30 歳代では「おなかがすいていない」の割合が高くなっています。



問 12 普段の食生活の中で、どのようなことに心がけていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「食事は毎日3回規則正しく食べる」の割合が 70.1%と最も高く、次いで「1日最低1食は、バランスのとれた食事(主食、主菜、副菜などを取りいれた食事)をしている」の割合が 50.6%、「食べ過ぎないようにしている」の割合が 49.1%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

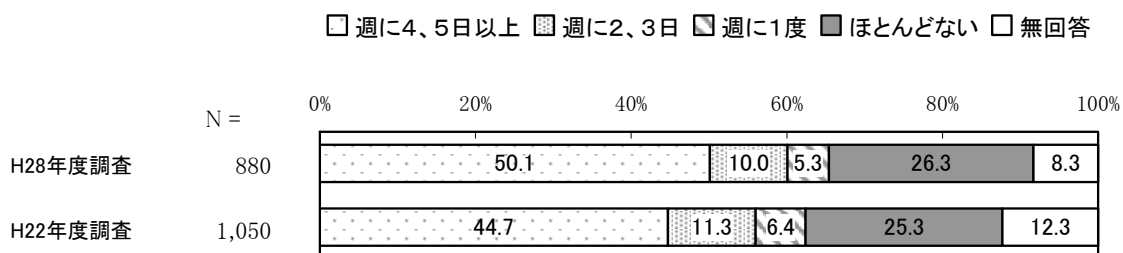


問 13 あなたは、家族や友人等と食事を一緒に食べますか。
(それぞれの項目について、該当するものひとつに○)

①朝食

「週に4、5日以上」の割合が50.1%と最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が26.3%、「週に2、3日」の割合が10.0%となっています。

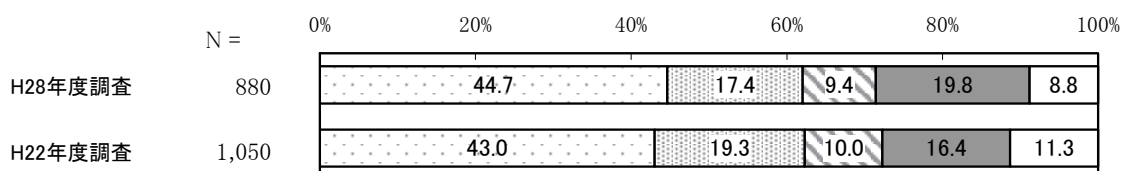
平成22年度調査と比較すると、「週に4、5日以上」の割合が5.4ポイント増加しています。



②昼食

「週に4、5日以上」の割合が44.7%と最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が19.8%、「週に2、3日」の割合が17.4%となっています。

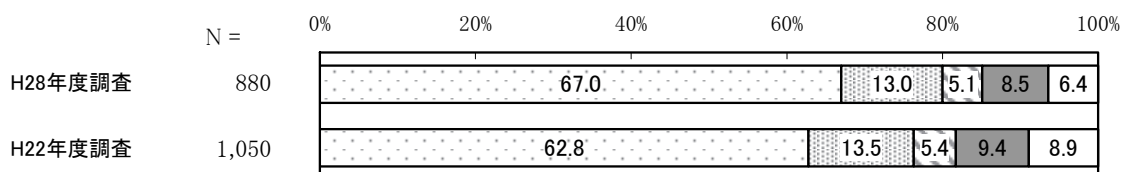
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



③夕食

「週に4、5日以上」の割合が67.0%と最も高く、次いで「週に2、3日」の割合が13.0%となっています。

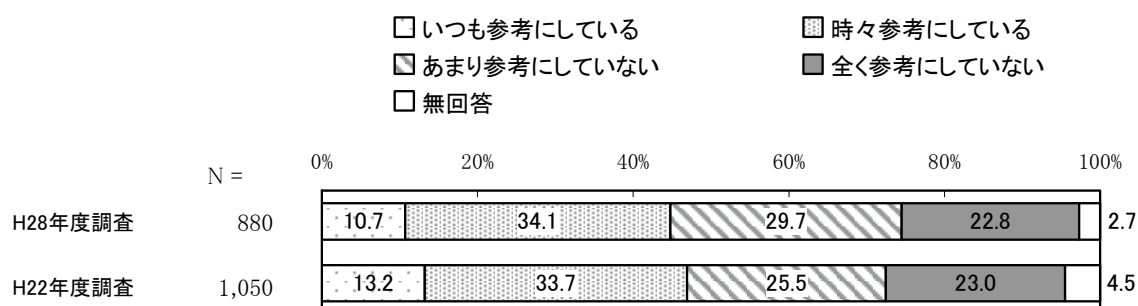
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 14 あなたは、外食や食品を購入するとき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしますか。(ひとつに○)

「いつも参考にしている」と「時々参考にしている」を合わせた“参考にしている”の割合が44.8%、「あまり参考にしていない」と「全く参考にしていない」を合わせた“参考にしていない”の割合が52.5%となっています。

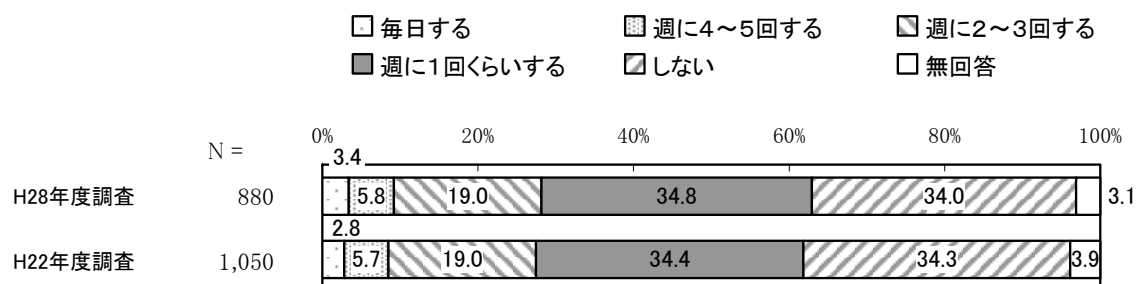
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 15 あなたは、お惣菜などの中食※を利用しますか。(ひとつに○)

「毎日する」と「週に4～5回する」、「週に2～3回する」、「週に1回くらいする」を合わせた“利用する”の割合が63.0%、「しない」の割合が34.0%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

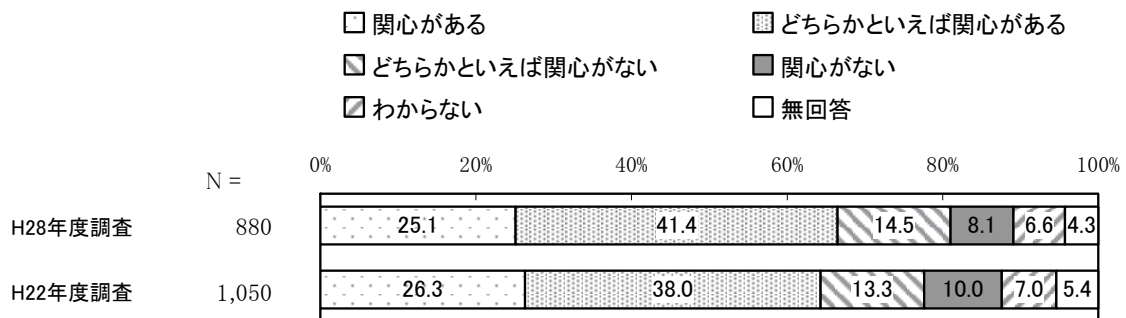


※中食：市販の弁当やお惣菜などで、家庭や職場などへ持って帰り、そのまま食事として食べられる状態に調理された食品のことをいいます。

問 16 あなたは、「食育」に関心がありますか。(ひとつに○)

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が 66.5%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が 22.6%となっています。

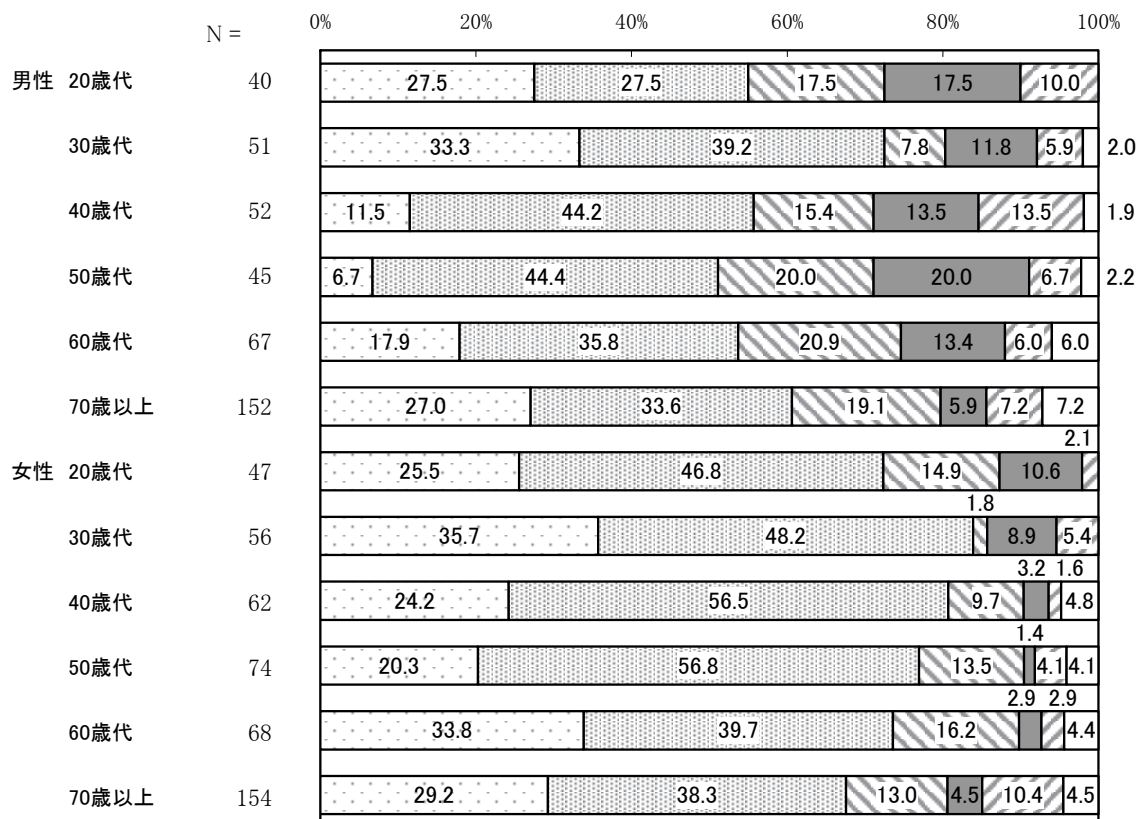
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性年齢別】

性年齢別でみると、他に比べ、男性では 30 歳代で“関心がある”(72.5%)の割合が最も高くなっています。女性では 30 歳代、40 歳代で“関心がある”(女性 30 歳代 83.9%、女性 40 歳代 80.7%)の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、男性、女性とも 20 歳代、30 歳代で“関心がある”の割合が増加しており、特に男性の 30 歳代で 28.5 ポイント増加しています。



問 17 あなたは「食育」について、どのようなことに関心がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「食品の安全確保」の割合が 48.6%と最も高く、次いで「生活習慣病の増加」の割合が 42.5%、「食生活の乱れ」の割合が 37.0%となっています。

N = 880

子どもの心身の健全な発育

食生活の乱れ

肥満ややせすぎ

生活習慣病の増加

食品の安全確保

食にまつわる地域の文化や伝統

食料自給率の向上

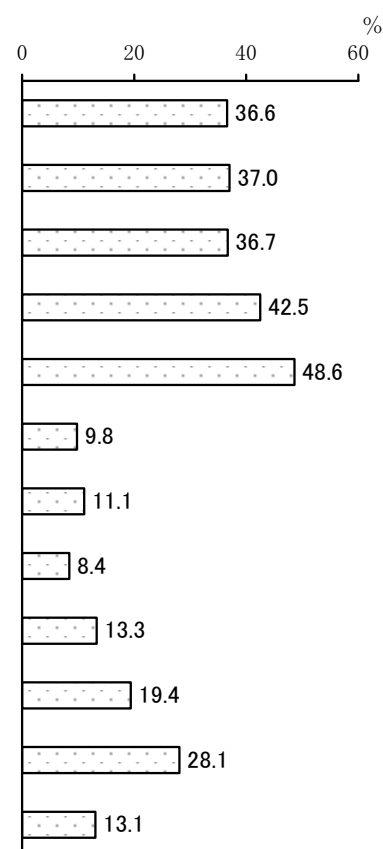
消費者と生産者の交流や信頼

自然環境と調和した食料生産

食品廃棄物の増加

自然や食に対する感謝の気持ち

無回答



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30 歳代、40 歳代で「子どもの心身の健全な発育」(30 歳代 70.1%、40 歳代 62.3%) の割合が高くなっています。また、50 歳代、60 歳代で「生活習慣病の増加」(50 歳代 54.6%、60 歳代 57.0%)、「食品の安全確保」(50 歳代 61.3%、60 歳代 63.0%) の割合が高くなっています。

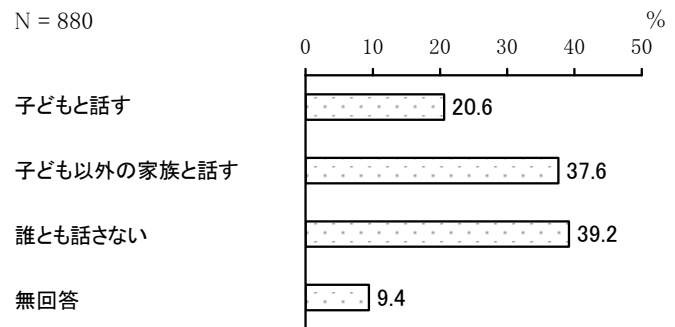
単位：%

区分	有効回答数(件)	子どもの心身の健全な発育	食生活の乱れ	肥満ややせすぎ	生活習慣病の増加	食品の安全確保	食にまつわる地域の文化や伝統	食料自給率の向上	消費者と生産者の交流や信頼	自然環境と調和した食料生産	食品廃棄物の増加	自然や食に対する感謝の気持ち	無回答
20 歳代	87	33.3	46.0	41.4	36.8	27.6	13.8	5.7	11.5	9.2	23.0	14.9	10.3
30 歳代	107	70.1	41.1	32.7	38.3	36.4	15.0	7.5	6.5	10.3	14.0	33.6	5.6
40 歳代	114	62.3	30.7	32.5	36.0	42.1	11.4	12.3	9.6	7.9	17.5	24.6	6.1
50 歳代	119	47.9	47.9	41.2	54.6	61.3	14.3	10.9	12.6	15.1	21.8	25.2	9.2
60 歳代	135	30.4	43.0	41.5	57.0	63.0	7.4	17.0	5.9	17.0	23.7	25.9	12.6
70 歳以上	306	15.7	29.7	35.0	37.9	51.0	5.6	11.4	7.5	15.7	19.0	33.0	19.6

問 18 家族と食育に関することで話し合いをすることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「誰とも話さない」の割合が 39.2%と最も高く、次いで「子ども以外の家族と話す」の割合が 37.6%、「子どもと話す」の割合が 20.6%となっています。

N = 880

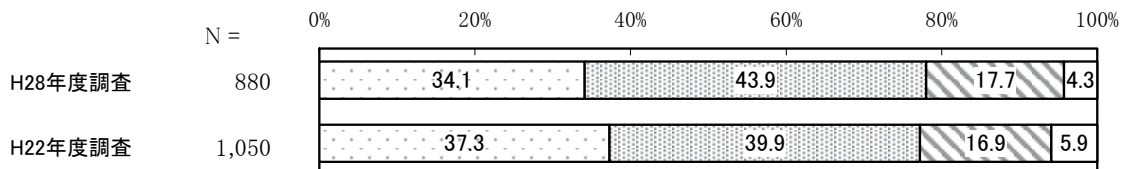


問 19 あなたは、ご自分の食生活について、今後どのようにしたいと思いますか。
(ひとつに○)

「今のままで良い」の割合が 43.9%と最も高く、次いで「今より良くしたい」の割合が 34.1%、「特に考えていない」の割合が 17.7%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

□ 今より良くしたい □ 今のままで良い □ 特に考えていない □ 無回答

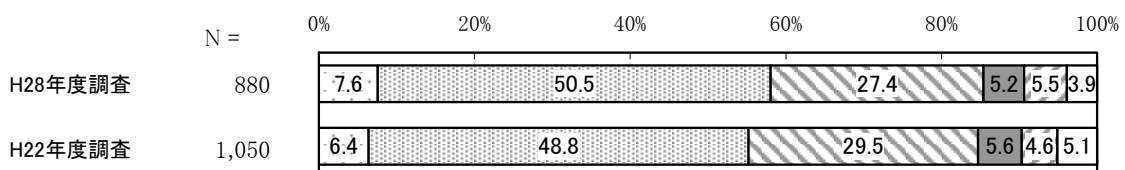


問 20 あなたは、食品の安全に関する知識を持っていると思いますか。(ひとつに○)

「十分持っていると思う」と「まあまあ持っていると思う」を合わせた“持っていると思う”の割合が 58.1%、「あまり持っていないと思う」と「ぜんぜん持っていないと思う」を合わせた“持っていないと思う”の割合が 32.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

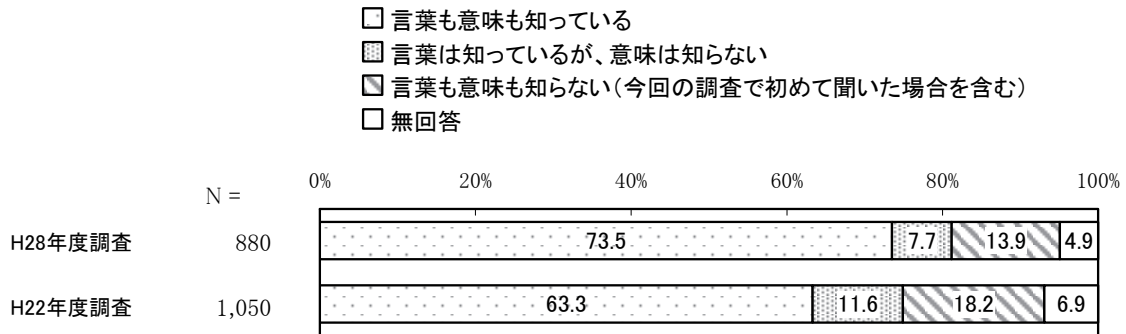
□ 十分持っていると思う □ まあまあ持っていると思う
 □ あまり持っていないと思う □ ぜんぜん持っていないと思う
 □ 気にしたことがない □ 無回答



問 21 あなたは、地産地消という言葉やその意味を知っていますか。(ひとつに○)

「言葉も意味も知っている」の割合が 73.5%、「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合が 7.7%となっており、地産地消の認知度は 81.2%となっています。一方、「言葉も意味も知らない(今回の調査で初めて聞いた場合を含む)」の割合が 13.9%となっています。

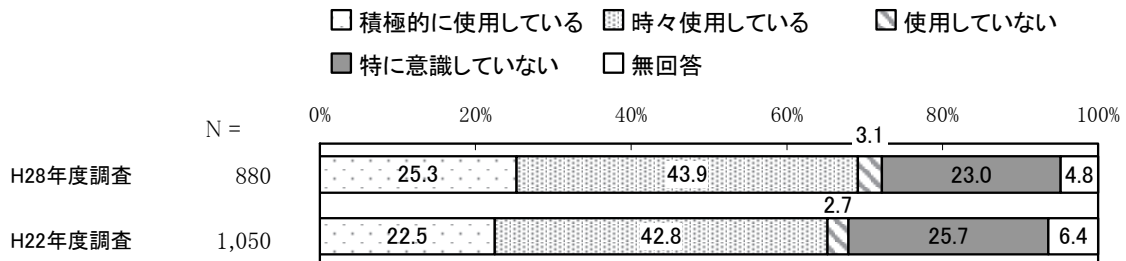
平成 22 年度調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が 10.2 ポイント増加しています。



問 22 あなたは、地場産農産物を料理で使用していますか。(ひとつに○)

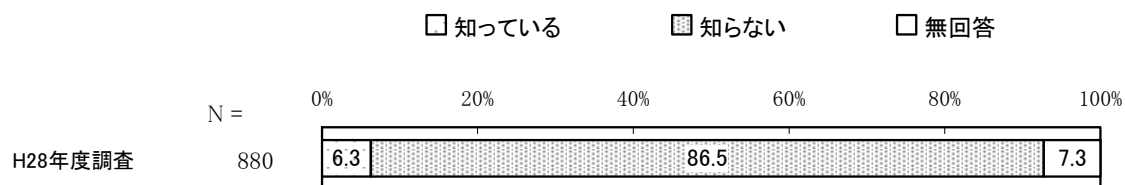
「積極的に使用している」と「時々使用している」を合わせた“使用している”の割合が 69.2%、「使用していない」の割合が 3.1%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



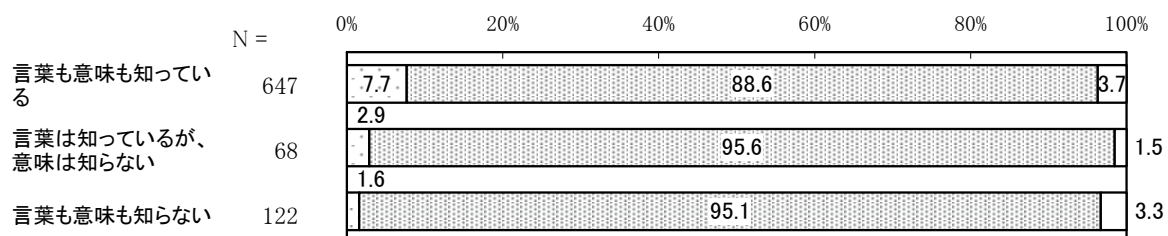
問 23 あなたは、「食育の日」を知っていますか。（どちらかに○）

「知っている」の割合が 6.3%、「知らない」の割合が 86.5%となっています。



【「地産地消」の認知度別】

「地産地消」の認知度別でみると、他に比べ、地産地消の言葉も意味も知っている人で食育の日を「知っている」（7.7%）の割合が高くなっています。



3 運動について

小中学生

- ・学校の体育の授業以外に週1回以上運動をしている割合は約1割増加。生活が規則正しい人ほど、体育以外の授業で運動をしている。(P. 41-問 26)
- ・平日の放課後に「外で遊ぶ」割合は、3割未満。(P. 43-問 27)
- ・平日・休日ともクラブ活動・部活動で過ごす人が3割以上増加。(P. 43-問 27)

成人（20歳以上）

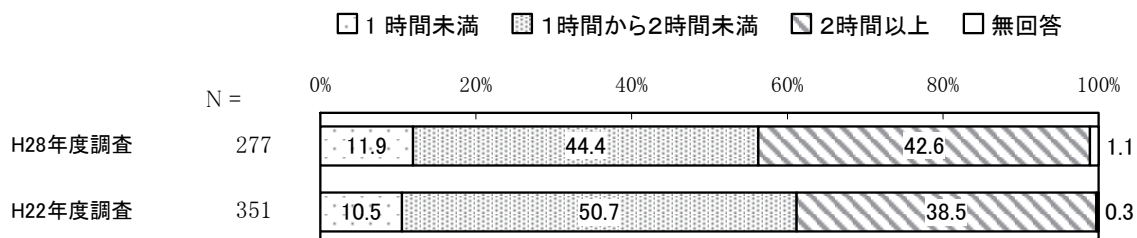
- ・日ごろから意識的に運動をしていない人が5割を超え、改善されていない。(P. 44-問 24)
- ・女性の20歳代、30歳代、40歳代、50歳代で運動をしていない割合は7割以上で、40歳代、50歳代では悪化している。(P. 44-問 24)
- ・運動量が「不足している」「やや不足している」と感じる人が5割以上。(P. 47-問 27)
- ・運動を行うためのきっかけは「体育館やウォーキングコース、公園などの整備やその充実」の割合が高い。50歳代、60歳代では、「市で行う運動教室の充実」の割合も高い。(P. 48-問 28)
- ・地域活動に参加している人は約4割。(P. 49-問 29)
- ・京田辺オリジナル介護予防体操の認知度は2割半ば。(P. 49-問 30)
- ・「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」の言葉も意味も知っている人は2割。(P. 50-問 31)

（1）親子（1歳から5歳児）

問 25 お子さんが外で遊ぶ時間は、1日に何時間ですか。（保育所などでの生活を含みます）（ひとつに○）

「1時間から2時間未満」の割合が44.4%と最も高く、次いで「2時間以上」の割合が42.6%、「1時間未満」の割合が11.9%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

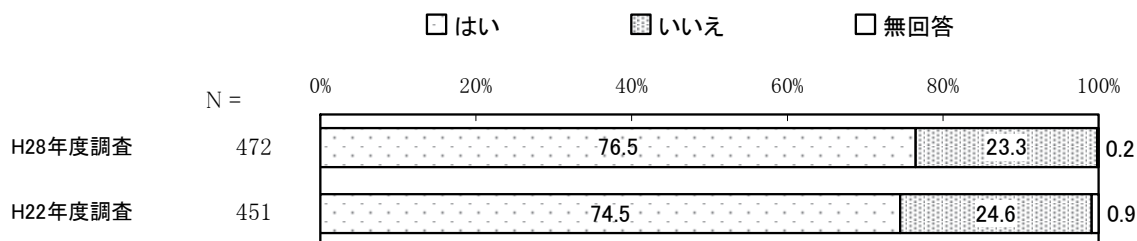


(2) 小中学生

問 25 あなたは、体を動かすことが好きですか。(どちらかに○)

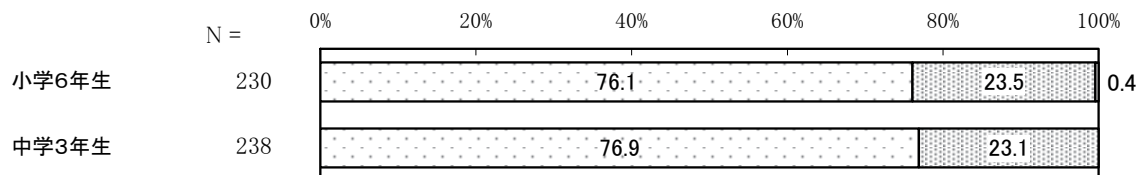
「はい」の割合が76.5%、「いいえ」の割合が23.3%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

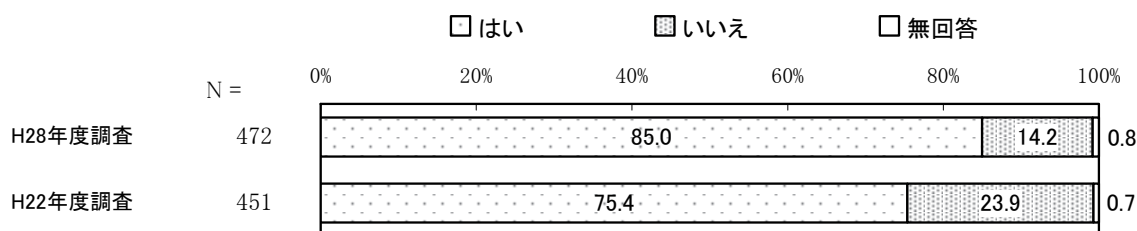
学年別でみると、大きな差異はみられません。



問 26 あなたは、これまでの1年間で、学校の体育の授業以外に週1回以上運動をしていますか。(どちらかに○)

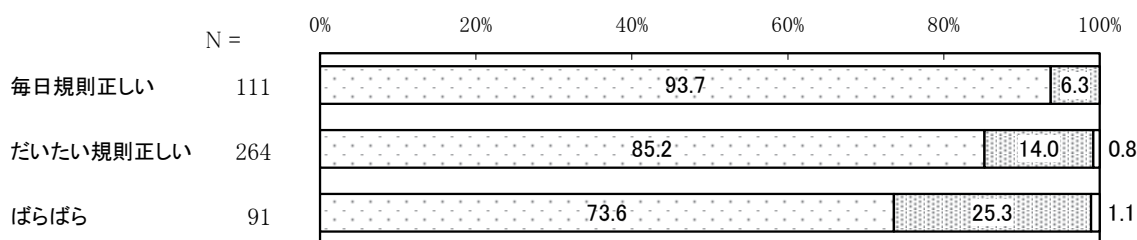
「はい」の割合が85.0%、「いいえ」の割合が14.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「はい」の割合が9.6ポイント増加しています。また、「いいえ」の割合が9.7ポイント減少しています。



【生活の規則正しさ別】

生活の規則正しさ別でみると、毎日の生活が規則正しい人ほど「はい」の割合が高くなっています。

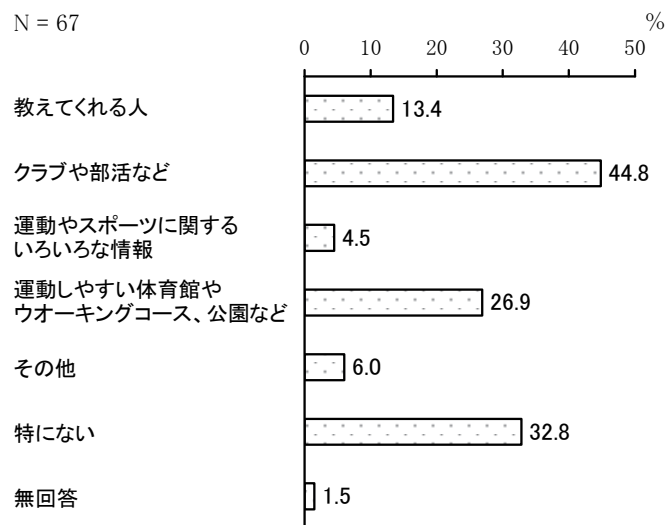


問 26 で「2. いいえ」と答えた方は、以下の質問に答えてください。

問 26-1 運動を行うために、どんなきっかけが必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

「クラブや部活など」の割合が 44.8%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 32.8%、「運動しやすい体育館やウォーキングコース、公園など」の割合が 26.9%となっています。

N = 67

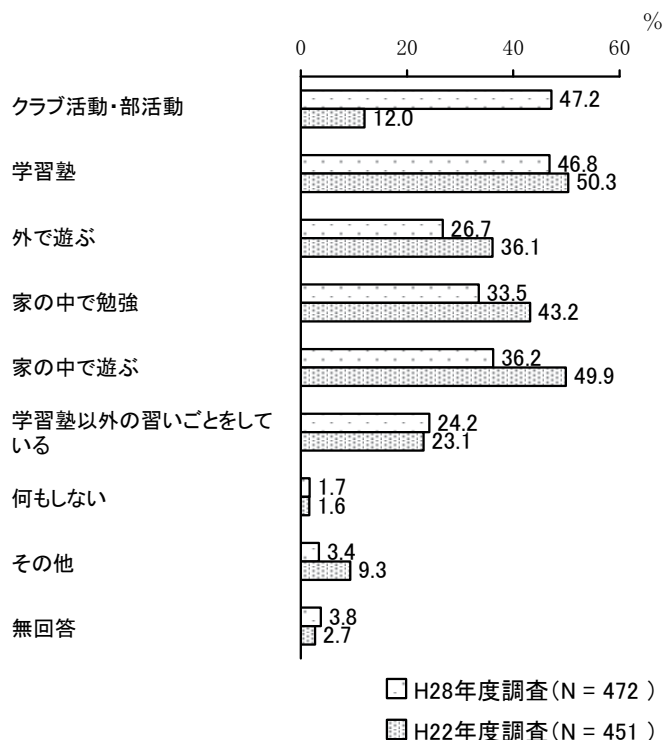


問 27 あなたは、平日の放課後や休日をどのように過ごしますか。(主なもの 3 つまで○)

①平日の放課後

「クラブ活動・部活動」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「学習塾」の割合が 46.8%、「家の中で遊ぶ」の割合が 36.2%となっています。

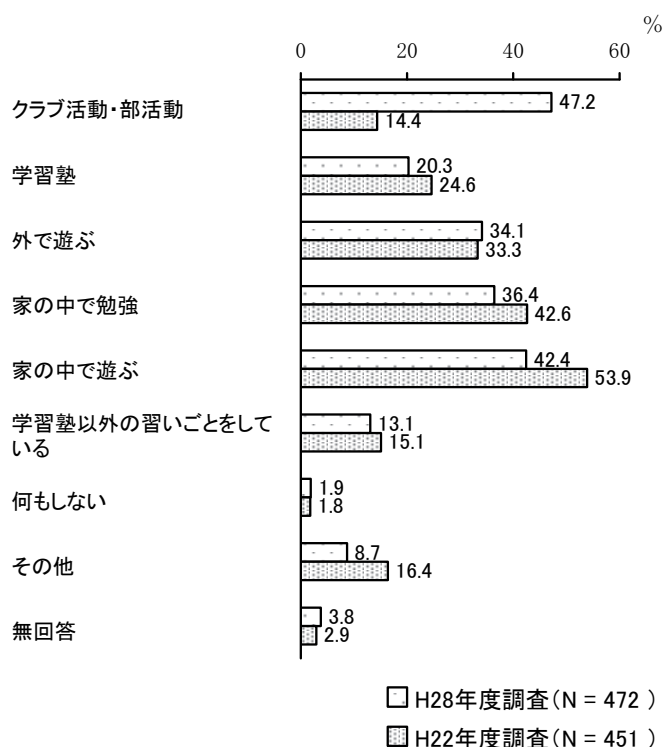
平成 22 年度調査と比較すると、「クラブ活動・部活動」の割合が 35.2 ポイント増加しています。また、「家の中で遊ぶ」、「家の中で勉強」、「外で遊ぶ」の割合が約 10 ポイント減少しています。



②休日

「クラブ活動・部活動」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「家の中で遊ぶ」の割合が 42.4%、「家の中で勉強」の割合が 36.4%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「クラブ活動・部活動」の割合が 32.8 ポイント増加しています。また、「家の中で遊ぶ」の割合が 11.5 ポイント、「家の中で勉強」の割合が 6.2 ポイント減少しています。

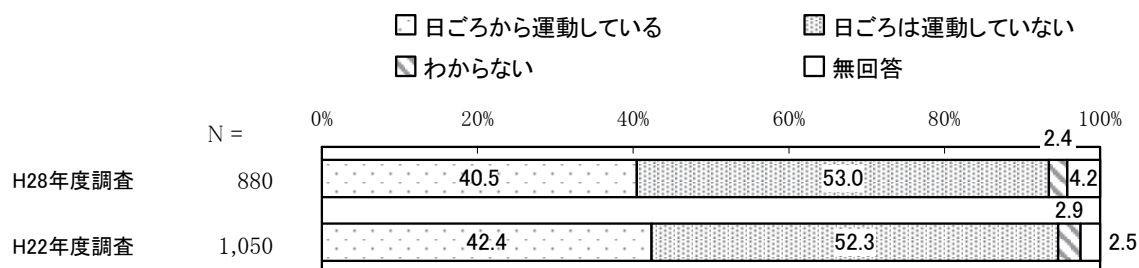


(3) 成人

問 24 あなたは、仕事以外場で、日ごろから健康の維持・増進のために意識的に体を動かすなどの運動をしますか。(ひとつに○)

「日ごろから運動している」の割合が 40.5%、「日ごろは運動していない」の割合が 53.0%となっています。

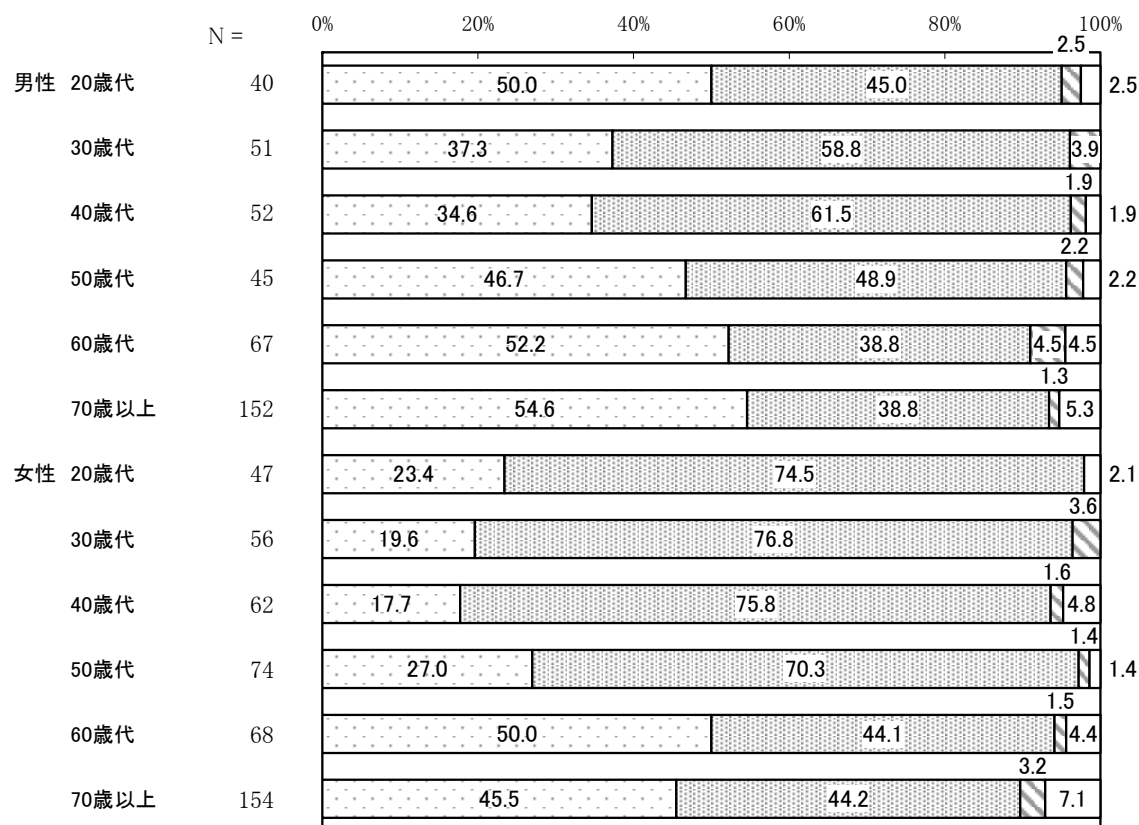
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性年齢別】

性年齢別でみると、どの年代においても男性の方が女性より「日ごろから運動している」の割合が高くなっています。また、男性の 40 歳以上、女性の 40～60 歳代で、年齢が高くなるにつれ「日ごろから運動している」の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「日ごろから運動している」の割合が、男性の 20 歳代で 17.3 ポイント、30 歳代で 13.3 ポイント増加し、女性の 40 歳代で 24.3 ポイント、50 歳代で 21.4 ポイント減少しています。

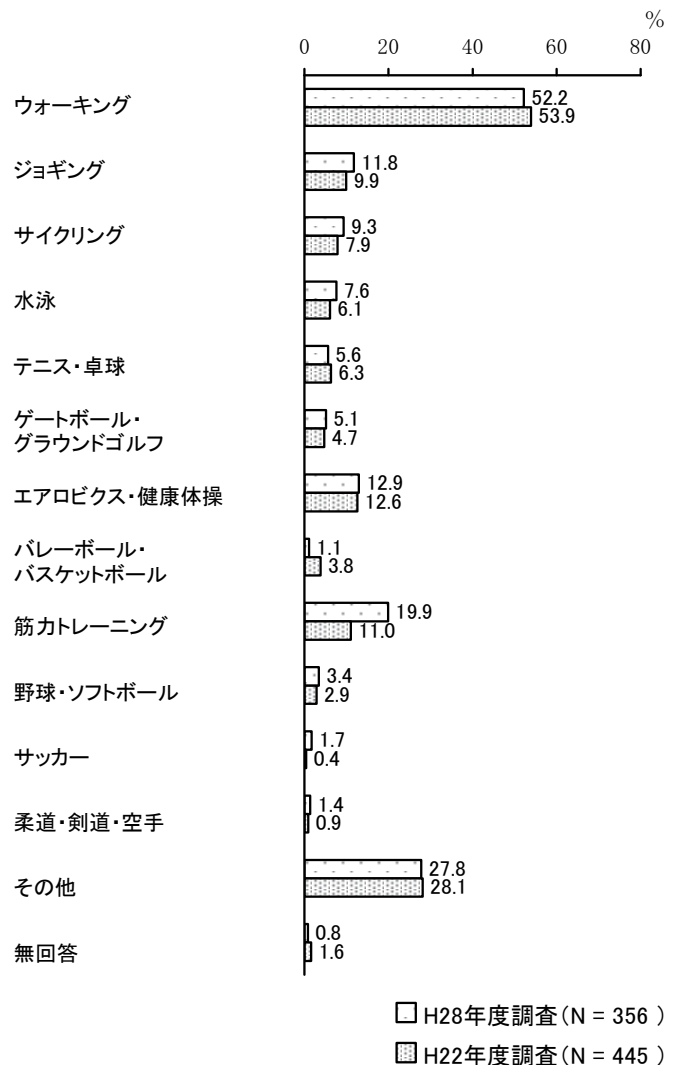


問 24 で「1. 日ごろから運動している」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 24-1 運動の種類は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「ウォーキング」の割合が 52.2%と最も高く、次いで「筋力トレーニング」の割合が 19.9%、「エアロビクス・健康体操」の割合が 12.9%となっています。

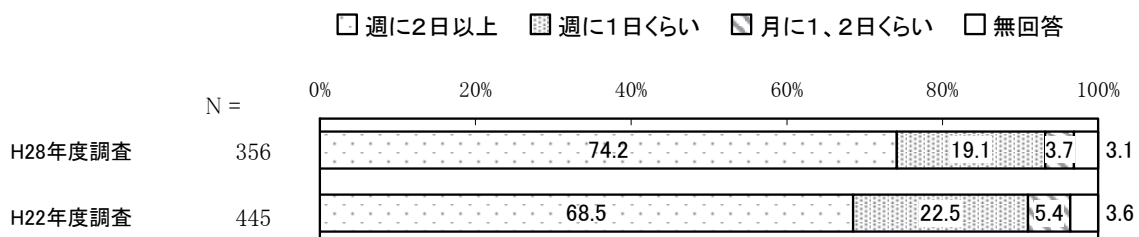
平成 22 年度調査と比較すると、「筋力トレーニング」の割合が 8.9 ポイント増加しています。



問 24-2 意識して運動する頻度はどれくらいですか。（ひとつに○）

「週に 2 日以上」の割合が 74.2%と最も高く、次いで「週に 1 日くらい」の割合が 19.1%となっています。

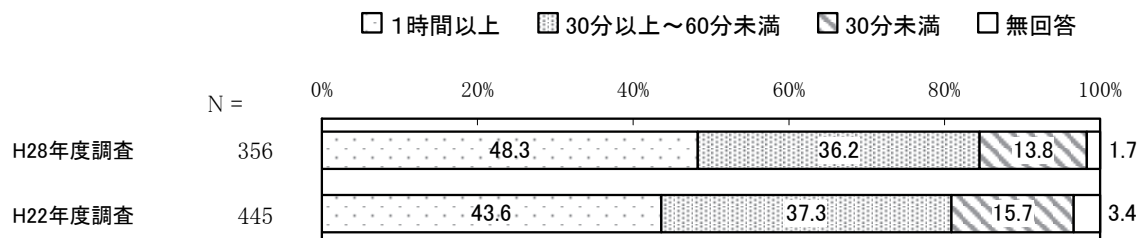
平成 22 年度調査と比較すると、「週に 2 日以上」の割合が 5.7 ポイント増加しています。



問 24-3 1日に運動する時間は合わせてどれくらいですか。(ひとつに○)

「1時間以上」の割合が48.3%と最も高く、次いで「30分以上～60分未満」の割合が36.2%、「30分未満」の割合が13.8%となっています。

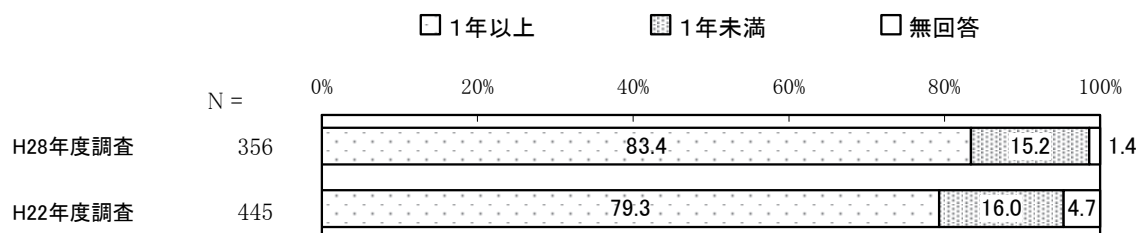
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 24-4 最も長いもので、どれくらい続けていますか。(どちらかに○)

「1年以上」の割合が83.4%、「1年未満」の割合が15.2%となっています。

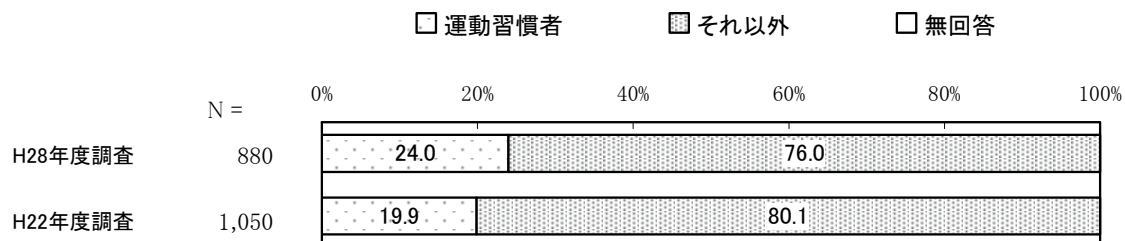
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



運動習慣※者

「運動習慣者」の割合が24.0%、「それ以外」の割合が76.0%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

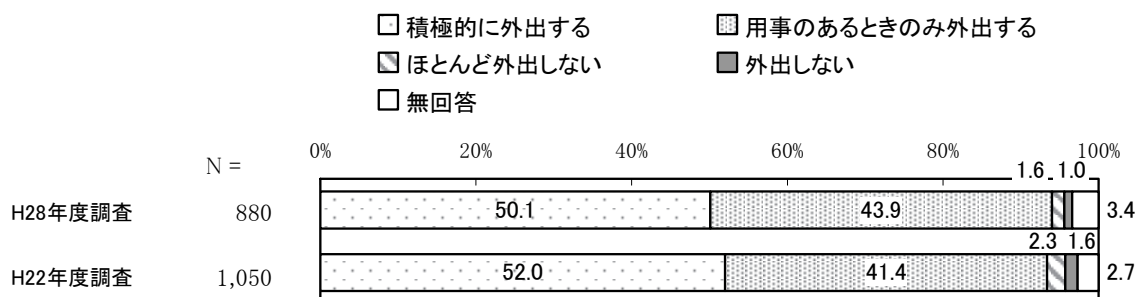


※運動習慣：「習慣」とは日常生活の一部になり、継続して実施している行動様式です。国民健康栄養調査では、「1回30分以上、週に2回以上、1年以上」運動を継続している人を「運動習慣あり」と分類しています。

問 25 買い物や散歩、仕事などを含め外出していますか。(ひとつに○)

「積極的に外出する」の割合が 50.1%と最も高く、次いで「用事のあるときのみ外出する」の割合が 43.9%となっています。一方、「ほとんど外出しない」が 1.6%、「外出しない」が 1.0%となっています。

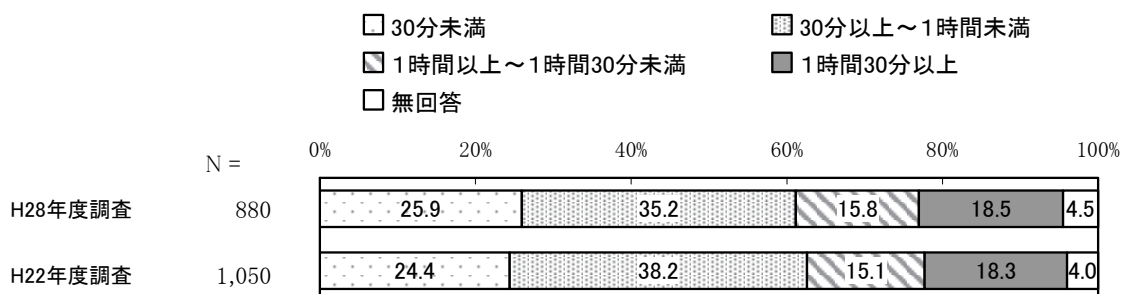
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 26 あなたは、日常生活（仕事や家事も含みます）において、1日あたり何分ぐらい歩いていますか。(ひとつに○)

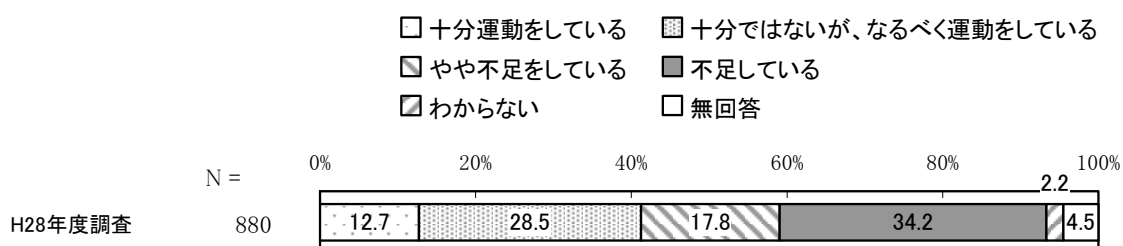
「30 分以上～1 時間未満」の割合が 35.2%と最も高く、次いで「30 分未満」の割合が 25.9%、「1 時間 30 分以上」の割合が 18.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 27 あなたの運動量（スポーツのほか体を動かすことも含みます。）は十分だと思いますか。(ひとつに○)

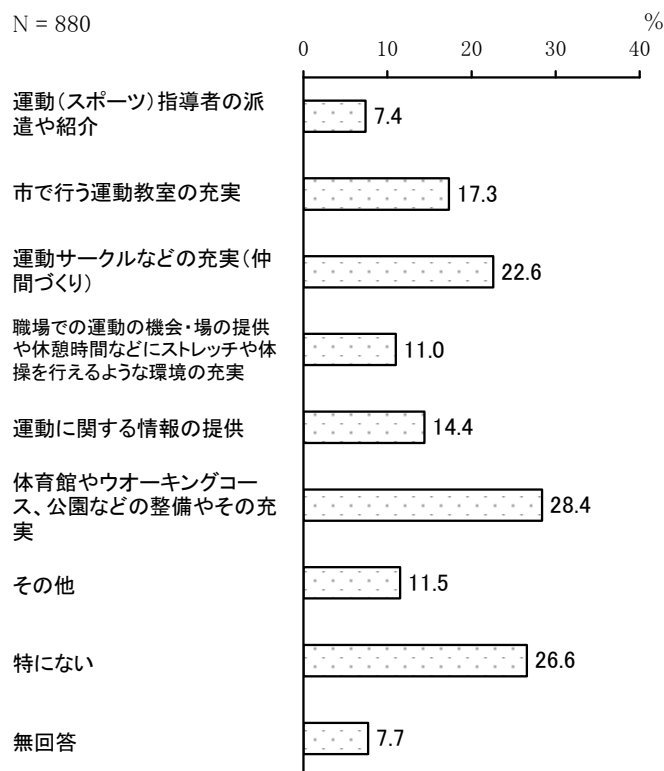
「不足している」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「十分ではないが、なるべく運動をしている」の割合が 28.5%、「やや不足をしている」の割合が 17.8%となっています。



問 28 運動を行うために、どんなきっかけが必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

「体育館やウオーキングコース、公園などの整備やその充実」の割合が28.4%と最も高く、次いで「特にない」の割合が26.6%、「運動サークルなどの充実（仲間づくり）」の割合が22.6%となっています。

N = 880



【年齢別】

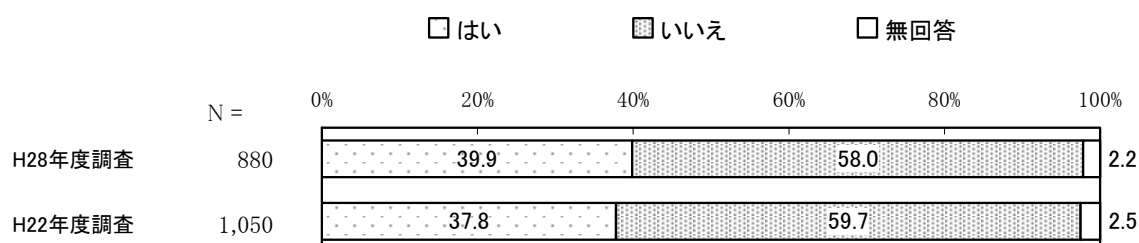
年齢別でみると、60歳以下では、年齢が高くなるにつれ「運動に関する情報の提供」の割合が高くなっています。また、他に比べ、30歳代で「体育館やウオーキングコース、公園などの整備やその充実」(43.0%)の割合が、50歳代、60歳代で「市で行う運動教室の充実」(50歳代26.1%、60歳代24.4%)の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	運動(スポーツ)指導者の派遣や紹介	市で行う運動教室の充実	運動サークルなどの充実(仲間づくり)	職場での運動の機会・場の提供や休憩時間などにストレッチや体操を行えるような環境の充実	運動に関する情報の提供	体育館やウオーキングコース、公園などの整備やその充実	その他	特にない	無回答
20歳代	87	10.3	5.7	32.2	20.7	9.2	34.5	5.7	26.4	2.3
30歳代	107	10.3	19.6	27.1	17.8	11.2	43.0	13.1	17.8	1.9
40歳代	114	6.1	15.8	19.3	21.1	13.2	31.6	18.4	20.2	1.8
50歳代	119	6.7	26.1	28.6	19.3	21.0	31.9	10.9	19.3	4.2
60歳代	135	5.9	24.4	21.5	6.7	23.0	38.5	9.6	23.7	5.9
70歳以上	306	7.2	14.4	18.0	1.3	11.4	14.4	11.4	35.9	15.0

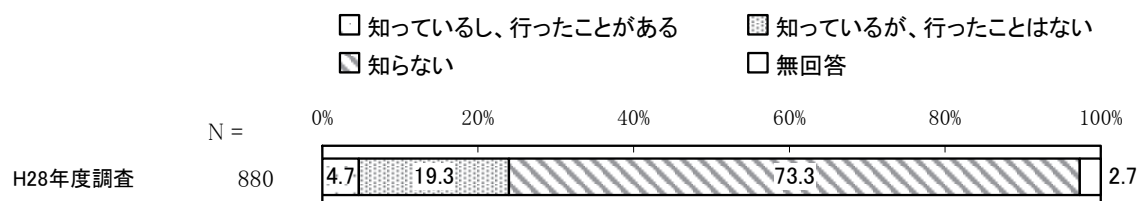
問 29 この1年間で、地域活動（運動会、お祭り、盆踊り、ボランティア活動、サークル活動など）に参加をしたことがありますか。（どちらかに○）

「はい」の割合が39.9%、「いいえ」の割合が58.0%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



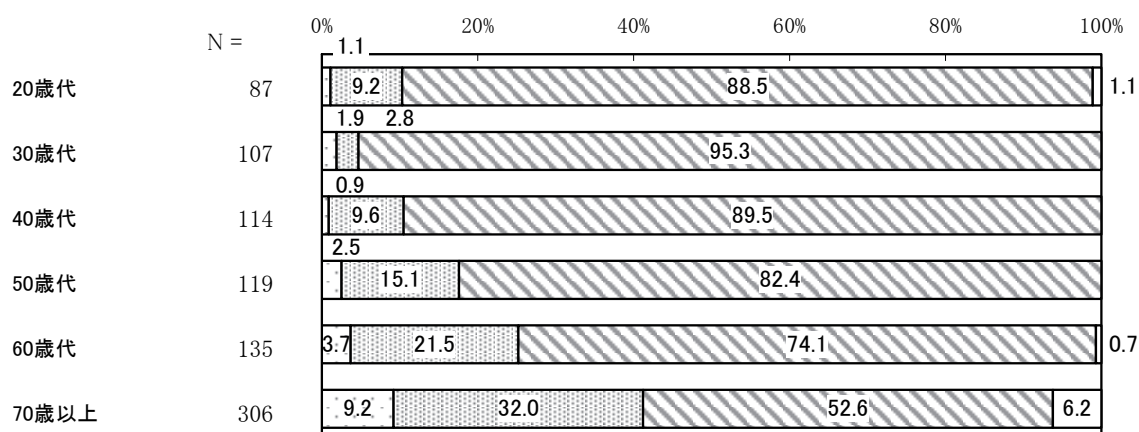
問 30 京田辺市のホームページにも掲載されている京田辺オリジナル介護予防体操を知っていますか。また、日常生活で行っていますか。（ひとつに○）

「知っているし、行ったことがある」の割合が4.7%、「知っているが、行ったことはない」の割合が19.3%、「知らない」の割合が73.3%となっています。



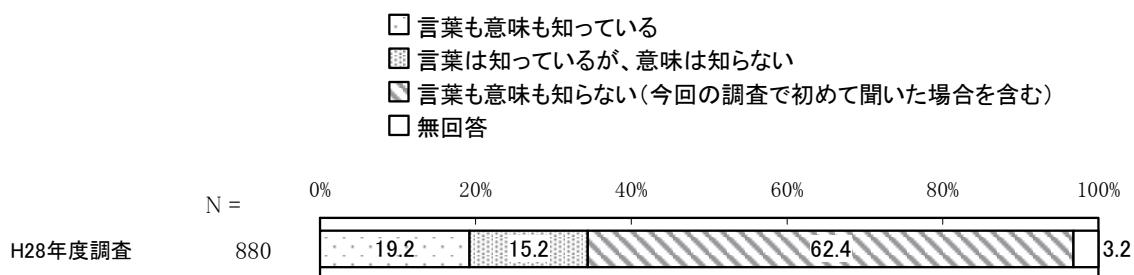
【年齢別】

年齢別でみると、30歳以上では、年齢が高くなるにつれ「知らない」の割合が低くなっており、「知っているが、行ったことはない」の割合が高くなっています。



問 31 あなたは、「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）※」を知っていますか。
（ひとつに○）

「言葉も意味も知っている」の割合が 19.2%、「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合が 15.2%、「言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）」の割合が 62.4%となっています。



※ロコモティブシンドローム：主に加齢による運動器（身体活動を担う筋・骨格・神経系の総称）の障害のため、移動能力の低下をきたして、要介護になる危険の高い状態のことです。

4 休養・こころの健康について

親子（1歳から5歳児）

- ・ 6割以上が午後9時以降に就寝している。（P. 51-問 29①）
- ・ 毎日規則正しい生活をしているのは、4割未満。（P. 52-問 30）
- ・ 子育てにストレスを感じる人は7割近く。その内容で「子育てと仕事の両立」は、約2倍。（P. 53-問 33 及び P. 54-問 33-1）
- ・ ストレスを解消する手段を持っていないのは約1割。（P. 55-問 33-3）
- ・ 自分を含めて家族の誰かが子どもにどなったり、たたいたり、無視したりしてしまうのは5割以上。（P. 55-問 34）

小中学生

- ・ 早寝・早起きが増えている。（P. 58-問 28①及び P. 59-問 28②）
- ・ 朝、目覚めの悪い子どもが6割半ば。（P. 61-問 30）
- ・ いやなことがあった子どもは、約4割であり、減少した。いやなことの内容は、「友達に関すること」、「勉強に関すること」が多い。（P. 61-問 31 及び P. 62-問 31-1）
- ・ 相談相手がいない人が約1割となっている。（P. 62-問 32）

成人（20歳以上）

- ・ 5割半ばの人が、朝目覚めたときに疲労感が残っていると感じている。（P. 63-問 34）
- ・ ストレスを感じている成人は7割近く。ストレスの内容は「仕事・アルバイト」が最も多い。また、ストレス解消法がない人が約2割となっている。（P. 64-問 36 及び P. 65-問 36-1、P. 67-問 38）
- ・ 認知症になる不安を感じているが、特に予防をしない人が約4割。（P. 68-問 41）

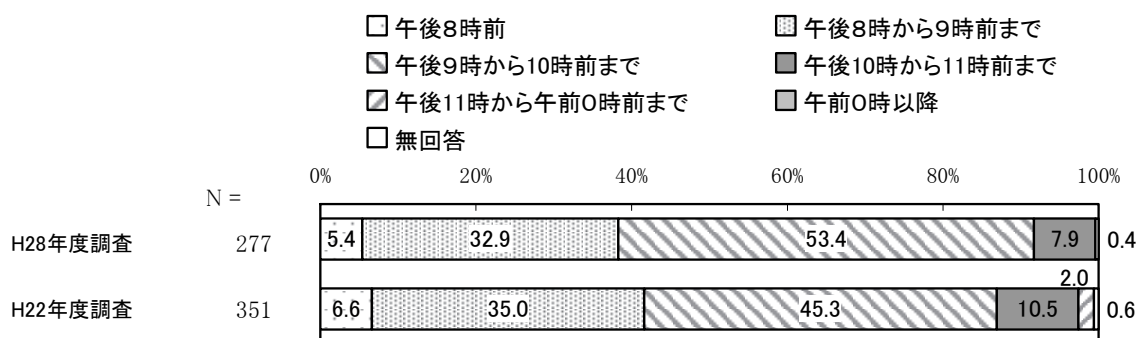
（1）親子（1歳から5歳児）

問 29 お子さんは、平日特別なことがないときには、何時に寝て、何時に起きますか。
また、1日の睡眠時間は平均して何時間ですか。（それぞれについてひとつに○）

①寝る時刻

「午後9時から10時前まで」の割合が53.4%と最も高く、次いで「午後8時から9時前まで」の割合が32.9%となっています。

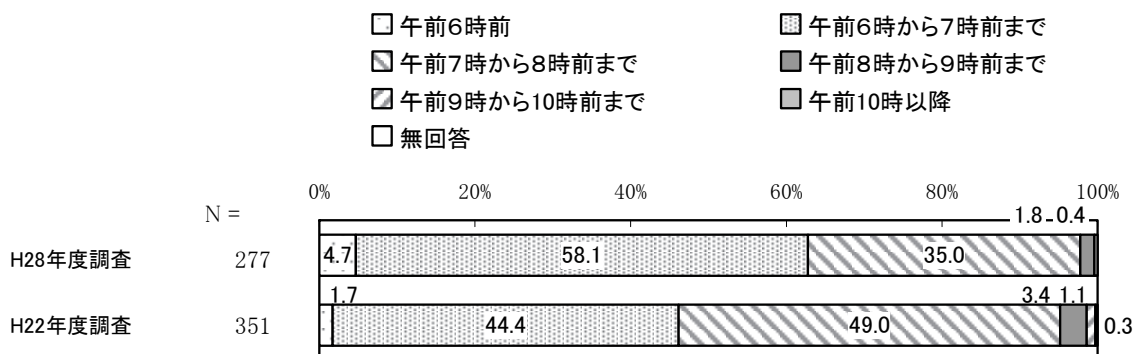
平成22年度調査と比較すると、「午後9時から10時前まで」の割合が8.1ポイント増加しています。



②起きる時刻

「午前6時から7時前まで」の割合が58.1%と最も高く、次いで「午前7時から8時前まで」の割合が35.0%となっています。

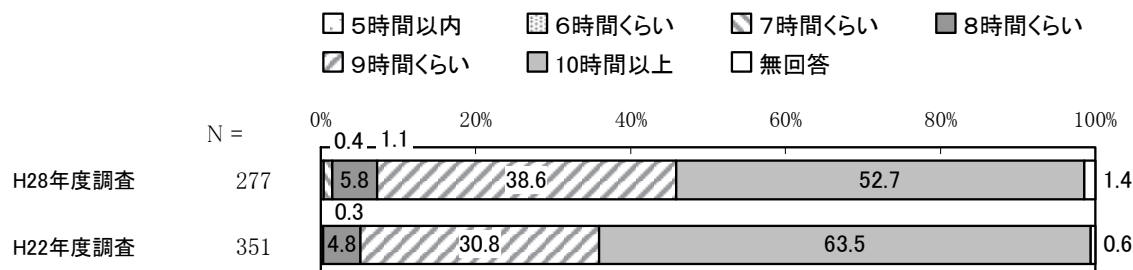
平成22年度調査と比較すると、「午前6時から7時前まで」の割合が13.7ポイント増加しています。また、「午前7時から8時前まで」の割合が14.0ポイント減少しています。



③睡眠時間

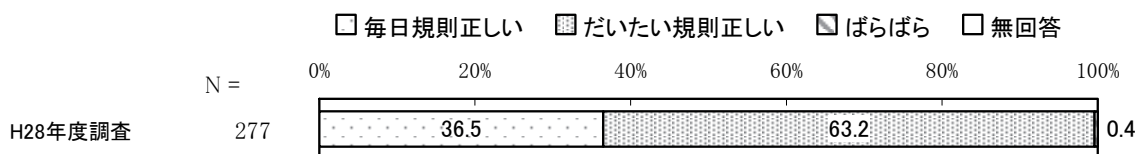
「10時間以上」の割合が52.7%と最も高く、次いで「9時間くらい」の割合が38.6%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「9時間くらい」の割合が7.8ポイント増加しています。また、「10時間以上」の割合が10.8ポイント減少しています。



問 30 お子さんの生活（寝る時刻、起きる時刻、食事の時刻など）は規則正しいですか。（ひとつに○）

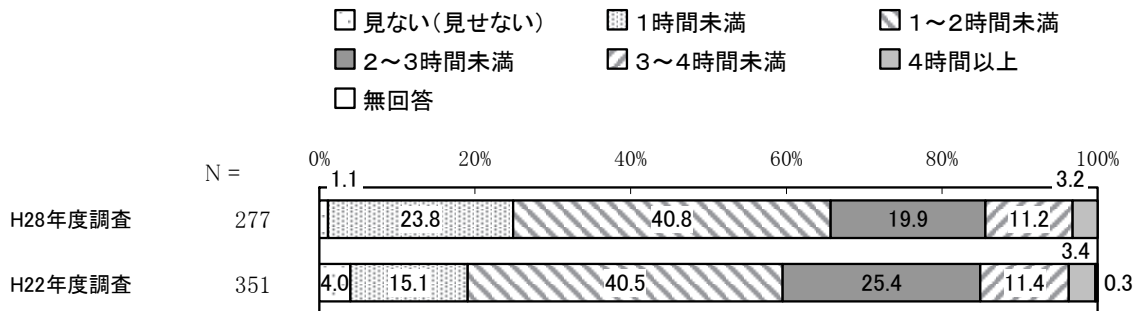
「だいたい規則正しい」の割合が63.2%と最も高く、次いで「毎日規則正しい」の割合が36.5%となっています。



問 31 お子さんは1日何時間くらいテレビ・ビデオを見ますか。(ひとつに○)

「1～2時間未満」の割合が40.8%と最も高く、次いで「1時間未満」の割合が23.8%、「2～3時間未満」の割合が19.9%となっています。

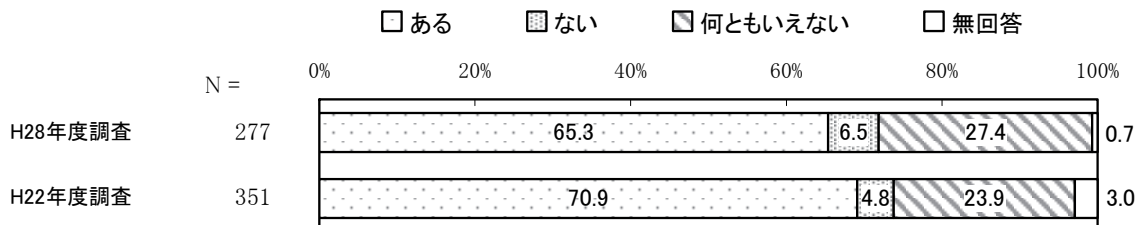
平成22年度調査と比較すると、「1時間未満」の割合が8.7ポイント増加しています。また、「2～3時間未満」の割合が5.5ポイント減少しています。



問 32 お子さんとゆったりとした気分で過ごす時間がありますか。(ひとつに○)

「ある」の割合が65.3%、「ない」の割合が6.5%、「何ともいえない」の割合が27.4%となっています。

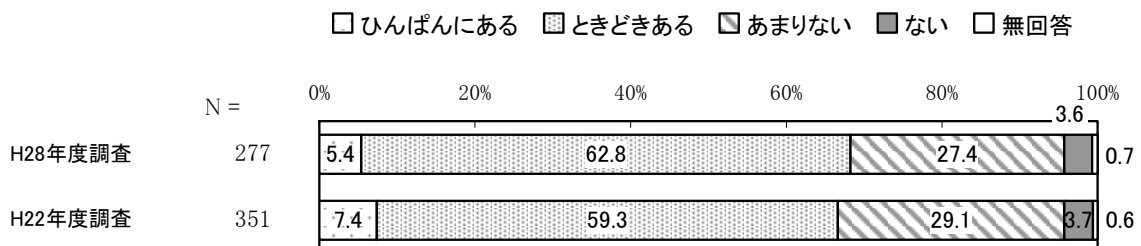
平成22年度調査と比較すると、「ある」の割合が5.6ポイント減少しています。



問 33 子育てにストレスを感じることがありますか。(ひとつに○)

「ひんぱんにある」と「ときどきある」を合わせた「ストレスを感じる」の割合が68.2%、「あまりない」と「ない」を合わせた「ストレスを感じていない」の割合が31.0%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

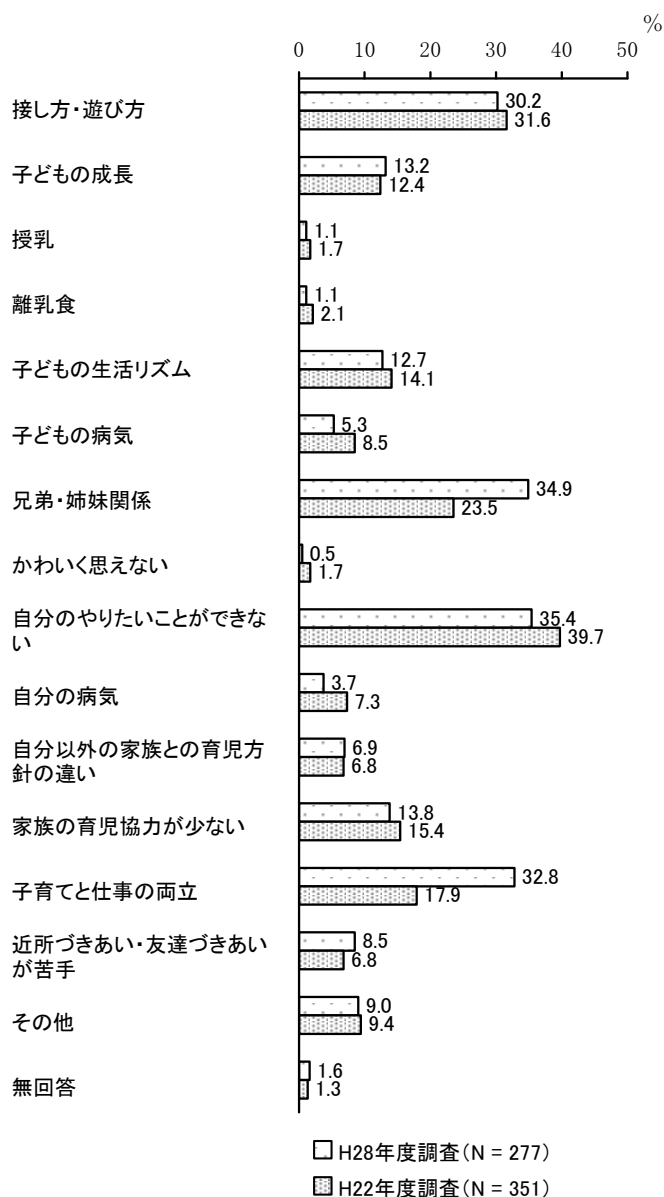


問 33 で「1. ひんぱんにある」「2. ときどきある」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 33-1 それはどんな時や、どんな事ですか。（あてはまるものすべてに○）

「自分のやりたいことができない」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「兄弟・姉妹関係」の割合が 34.9%、「子育てと仕事の両立」の割合が 32.8%となっています。

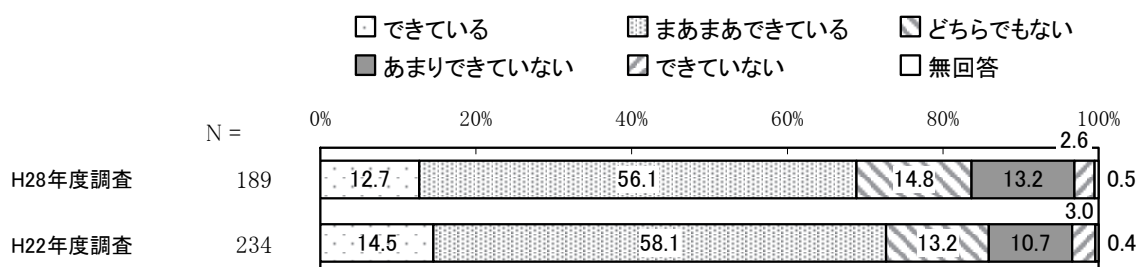
平成 22 年度調査と比較すると、「子育てと仕事の両立」の割合が 14.9 ポイント、「兄弟・姉妹関係」の割合が 11.4 ポイント増加しています。



問 33-2 あなたは、そのストレスを解消できていますか。(ひとつに○)

「できている」と「まあまあできている」を合わせた“解消できている”の割合が 68.8%、「あまりできていない」と「できていない」を合わせた“解消できていない”の割合が 15.8%となっています。

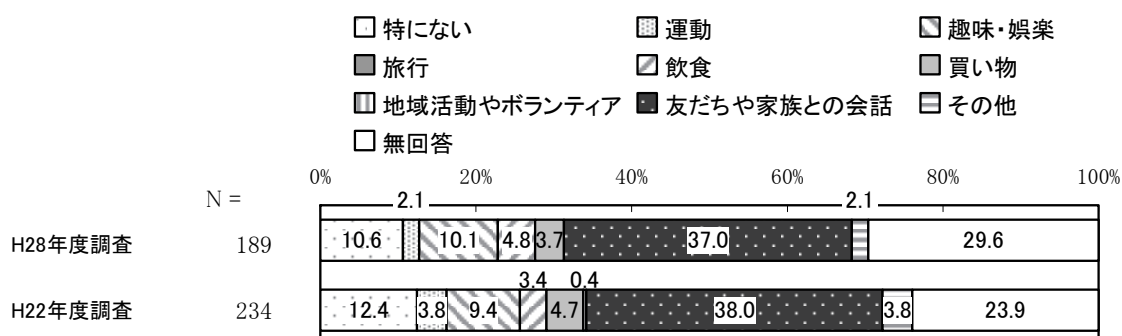
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 33-3 あなたは、そのストレスを解消するための手段を何か持っていますか。(ひとつに○)

「友だちや家族との会話」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 10.6%、「趣味・娯楽」の割合が 10.1%となっています。

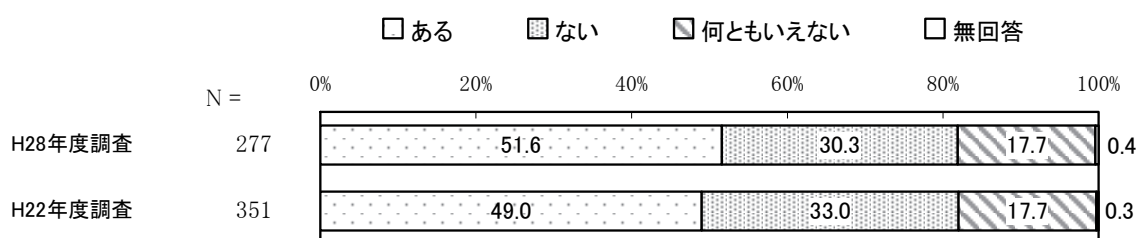
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 34 お子さんに対して、自分を含め、家族の誰かがどなったり・たたいたり・無視したりしてしまいますか。(ひとつに○)

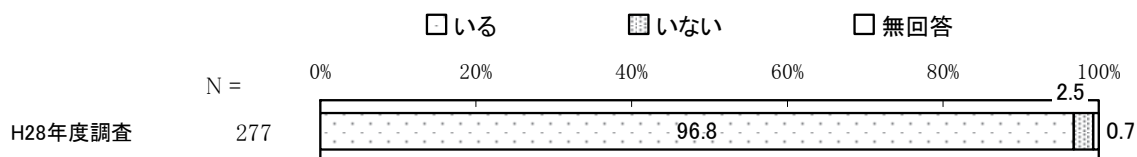
「ある」の割合が 51.6%、「ない」の割合が 30.3%、「何ともいえない」の割合が 17.7%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 35 子育てで困った時や不安な時、相談する人はいますか。(どちらかに○)

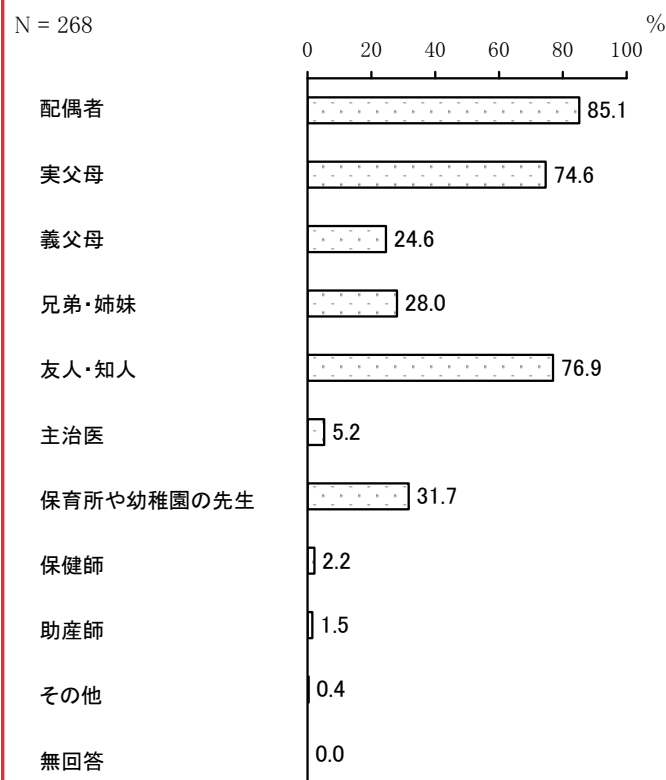
「いる」の割合が96.8%、「いない」の割合が2.5%となっています。



問 35 で「1. いる」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 35-1 相談相手は、あなたからみてどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

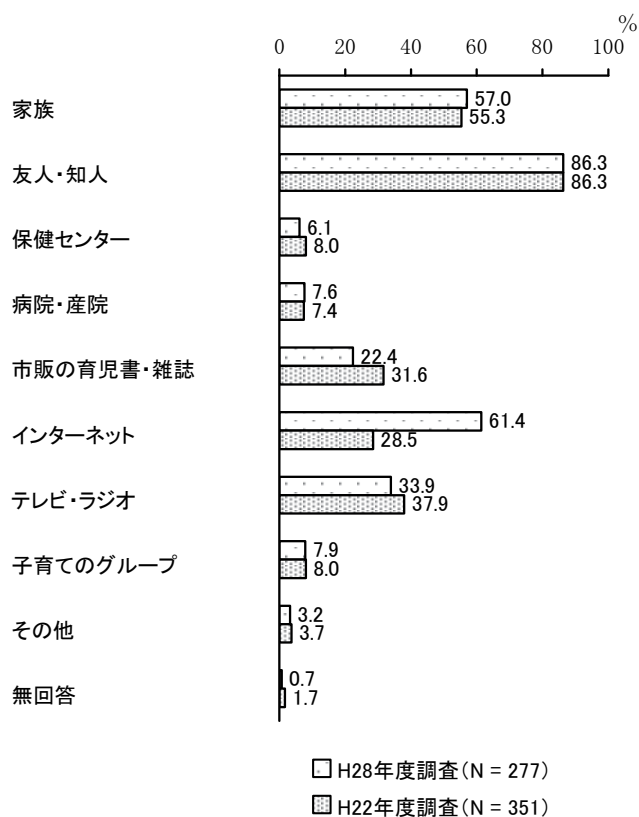
「配偶者」の割合が85.1%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が76.9%、「実父母」の割合が74.6%となっています。



問 36 あなたは子育てに関する情報はどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「友人・知人」の割合が 86.3%と最も高く、次いで「インターネット」の割合が 61.4%、「家族」の割合が 57.0%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「インターネット」の割合が 32.9 ポイント増加しています。また、「市販の育児書・雑誌」の割合が 9.2 ポイント減少しています。



(2) 小中学生

問 28 あなたは、平日特別なことがないときには、何時に寝て、何時に起きますか。また、1日の睡眠時間は平均して何時間ですか。(それぞれひとつに○)

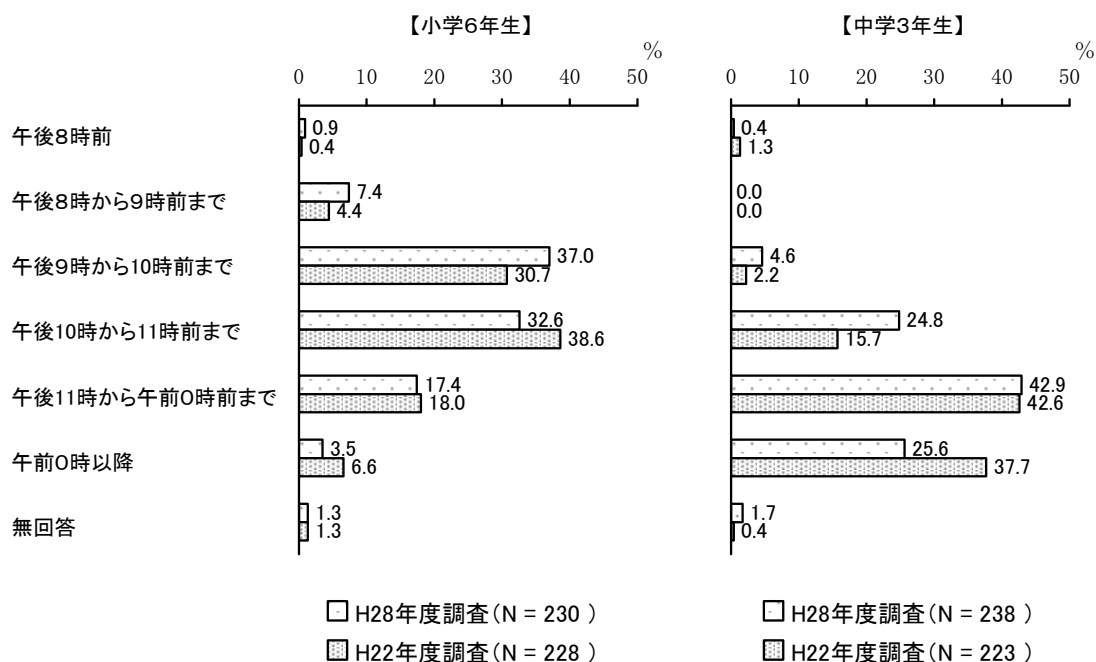
①寝る時刻

小学6年生では、「午後9時から10時前まで」の割合が37.0%と最も高く、次いで「午後10時から11時前まで」の割合が32.6%、「午後11時から午前0時前まで」の割合が17.4%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「午後9時から10時前まで」の割合が6.3ポイント増加しています。また、「午後10時から午後11時前まで」の割合が6.0ポイント減少しています。

中学3年生では、「午後11時から午前0時前まで」の割合が42.9%と最も高く、次いで「午前0時以降」の割合が25.6%、「午後10時から11時前まで」の割合が24.8%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「午後10時から11時前まで」の割合が9.1ポイント増加しています。また、「午前0時以降」の割合が12.1ポイント減少しています。



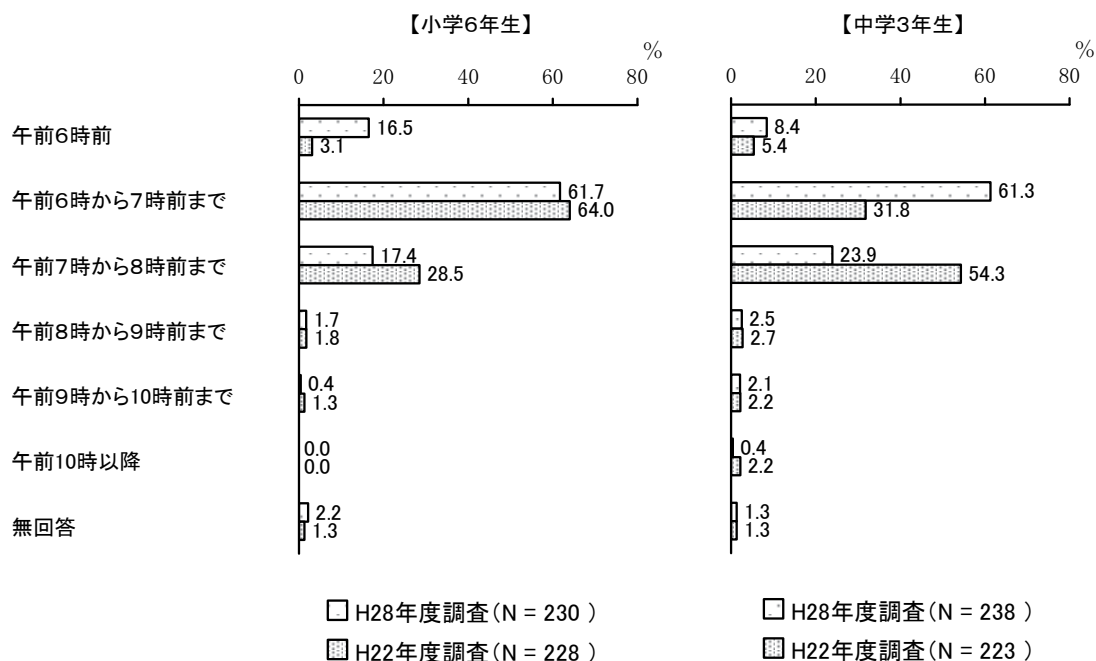
②起きる時刻

小学6年生では、「午前6時から7時前まで」の割合が61.7%と最も高く、次いで「午前7時から8時前まで」の割合が17.4%、「午前6時前」の割合が16.5%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「午前6時前」の割合が13.4ポイント増加しています。また、「午前7時から8時前まで」の割合が11.1ポイント減少しています。

中学3年生では、「午前6時から7時前まで」の割合が61.3%と最も高く、次いで「午前7時から8時前まで」の割合が23.9%、「午前6時前」の割合が8.4%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「午前6時から7時前まで」の割合が29.5ポイント増加しています。また、「午前7時から8時前まで」の割合が30.4ポイント減少しています。



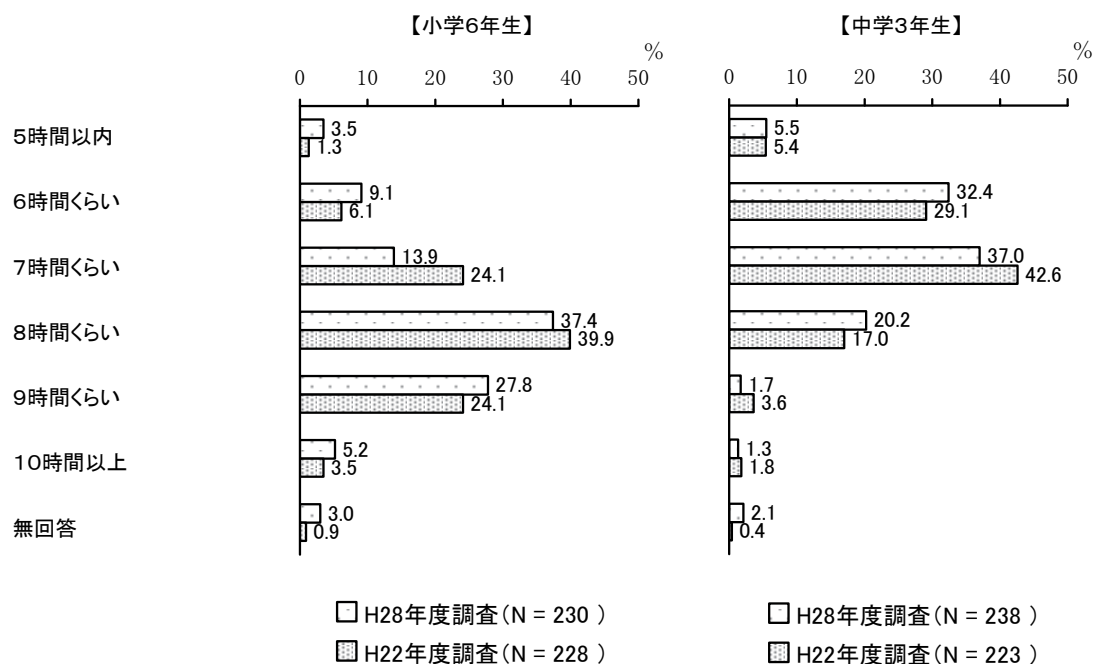
③睡眠時間

小学6年生では、「8時間くらい」の割合が37.4%と最も高く、次いで「9時間くらい」の割合が27.8%、「7時間くらい」の割合が13.9%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「7時間くらい」の割合が10.2ポイント減少しています。

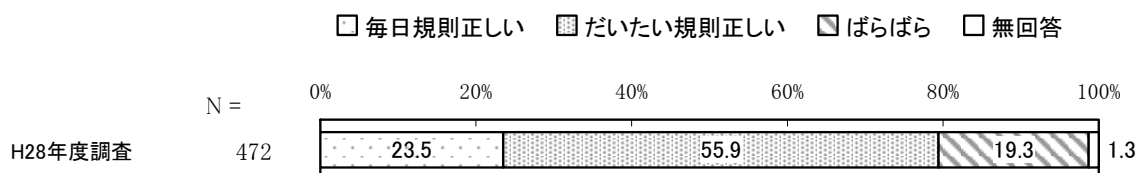
中学3年生では、「7時間くらい」の割合が37.0%と最も高く、次いで「6時間くらい」の割合が32.4%、「8時間くらい」の割合が20.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「7時間くらい」の割合が5.6ポイント減少しています。



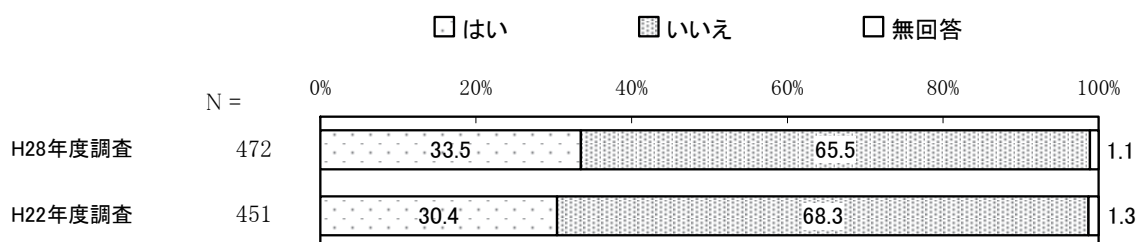
問 29 あなたの生活（寝る時刻、起きる時刻、食事の時刻など）は規則正しいですか（ひとつに○）

「だいたい規則正しい」の割合が 55.9%と最も高く、次いで「毎日規則正しい」の割合が 23.5%、「ばらばら」の割合が 19.3%となっています。



問 30 あなたは、朝起きた時すっきり目がさめますか。（どちらかに○）

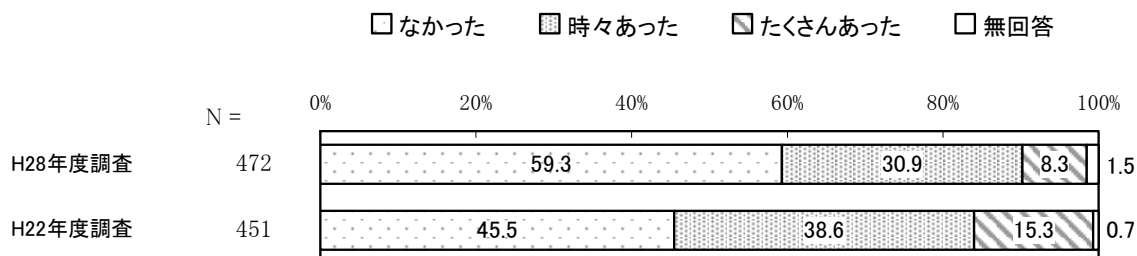
「はい」の割合が 33.5%、「いいえ」の割合が 65.5%となっています。
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 31 あなたは、この 1 か月間に、いやなことはありましたか。（ひとつに○）

「時々あった」と「たくさんあった」を合わせた“あった”の割合が 39.2%、「なかった」の割合が 59.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、“あった”の割合が 14.7 ポイント減少しています。また、「なかった」の割合が 13.8 ポイント増加しています。

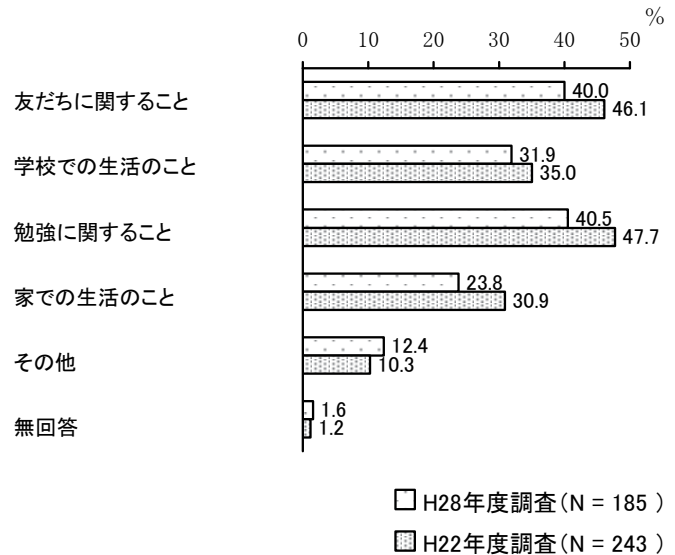


問 31 で「2. 時々あった」「3. たくさんあった」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 31-1 それは、どのようなことでしたか。（あてはまるものすべてに○）

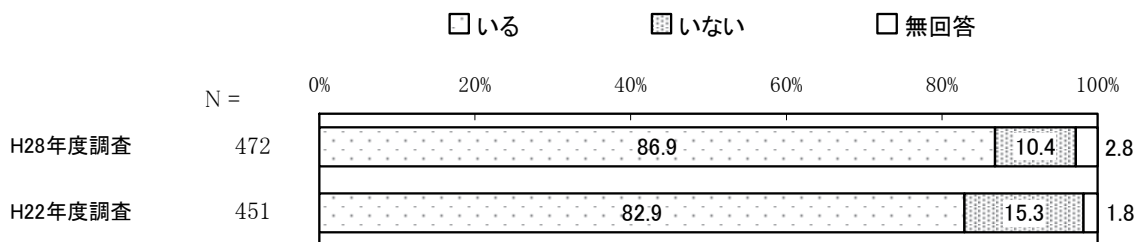
「勉強に関すること」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「友だちに関すること」の割合が 40.0%、「学校での生活のこと」の割合が 31.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「勉強に関すること」の割合が 7.2 ポイント、「家での生活のこと」の割合が 7.1 ポイント、「友だちに関すること」の割合が 6.1 ポイント減少しています。



問 32 困ったときや心配なことがある時に相談できる人はいますか。（どちらかに○）

「いる」の割合が 86.9%、「いない」の割合が 10.4%となっています。
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

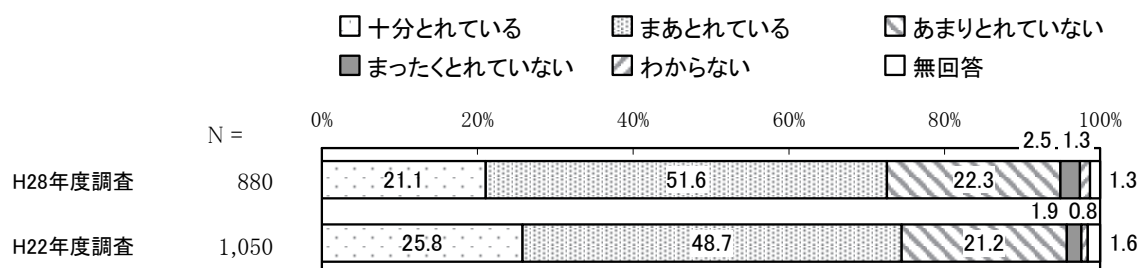


(3) 成人

問 32 日ごろの睡眠はあなたにとって十分だと思いますか。(ひとつに○)

「十分とれている」と「まあとれている」を合わせた“十分だと思う”の割合が 72.7%、「あまりとれていない」と「まったくとれていない」を合わせた“十分とれていない”の割合が 24.8%となっています。

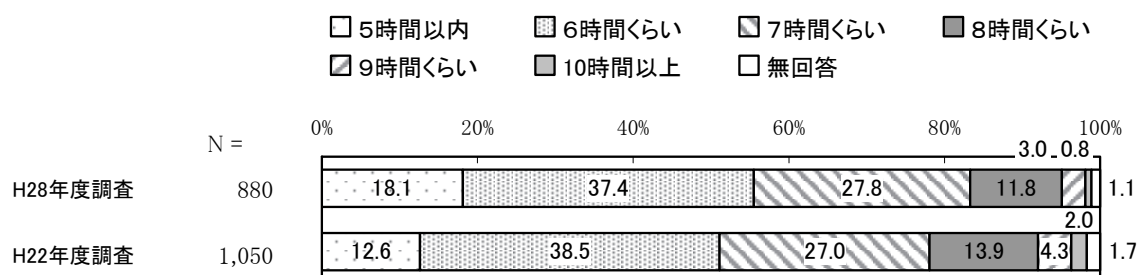
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 33 あなたは、平日特別なことがないときには、1日の睡眠時間は平均して何時間ですか。(ひとつに○)

「6時間くらい」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「7時間くらい」の割合が 27.8%、「5時間以内」の割合が 18.1%となっています。

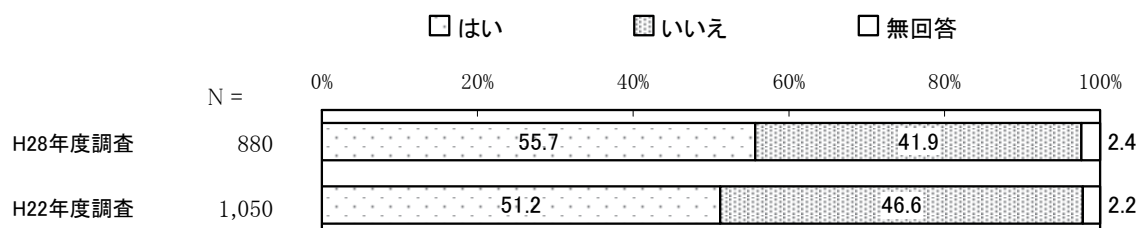
平成 22 年度調査と比較すると、「5時間以内」の割合が 5.5 ポイント増加しています。



問 34 あなたは、朝、目が覚めたとき、疲労感が残っていると感じることはありますか。(どちらかに○)

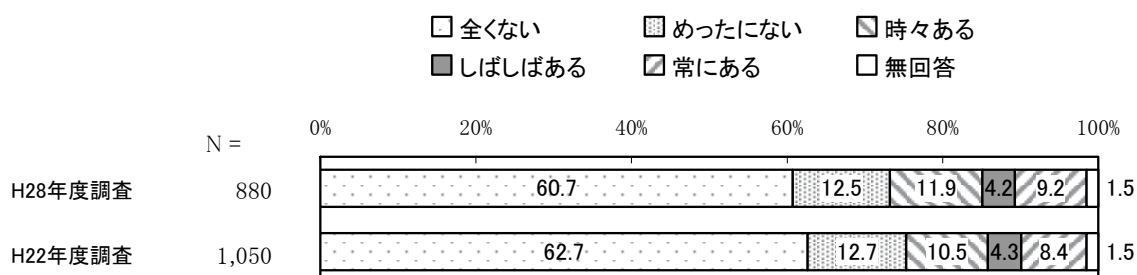
「はい」の割合が 55.7%、「いいえ」の割合が 41.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 35 睡眠する時に、睡眠補助品やアルコールなどを飲用していますか。(ひとつに○)

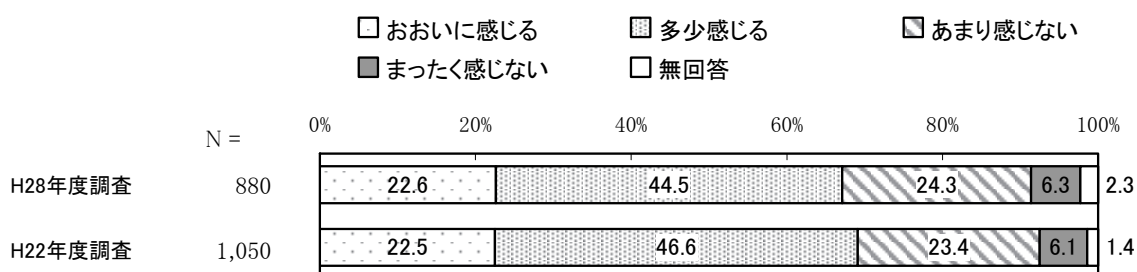
「全くない」と「めったにない」を合わせた“飲用していない”の割合が 73.2%、「時々ある」と「しばしばある」、「常にある」を合わせた“飲用している”の割合が 25.3%となっています。
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 36 あなたは、この 1 か月間に、ストレスを感じたことはありますか。(ひとつに○)

「おおいに感じる」と「多少感じる」を合わせた“ストレスを感じたことがある”の割合が 67.1%、「あまり感じない」と「まったく感じない」を合わせた“ストレスを感じない”の割合が 30.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

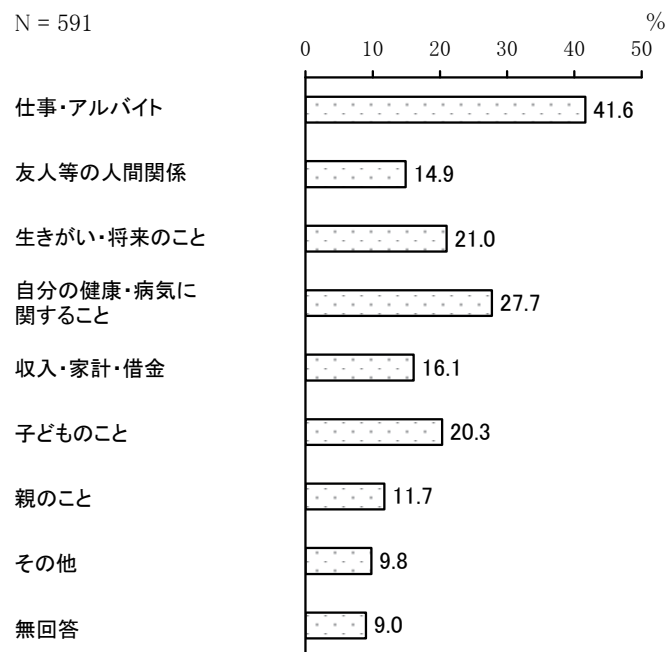


問 36 で「1. おおいに感じる」「2. 多少感じる」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 36-1 ストレスの具体的な内容は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「仕事・アルバイト」の割合が 41.6%と最も高く、次いで「自分の健康・病気に関すること」の割合が 27.7%、「生きがい・将来のこと」の割合が 21.0%となっています。

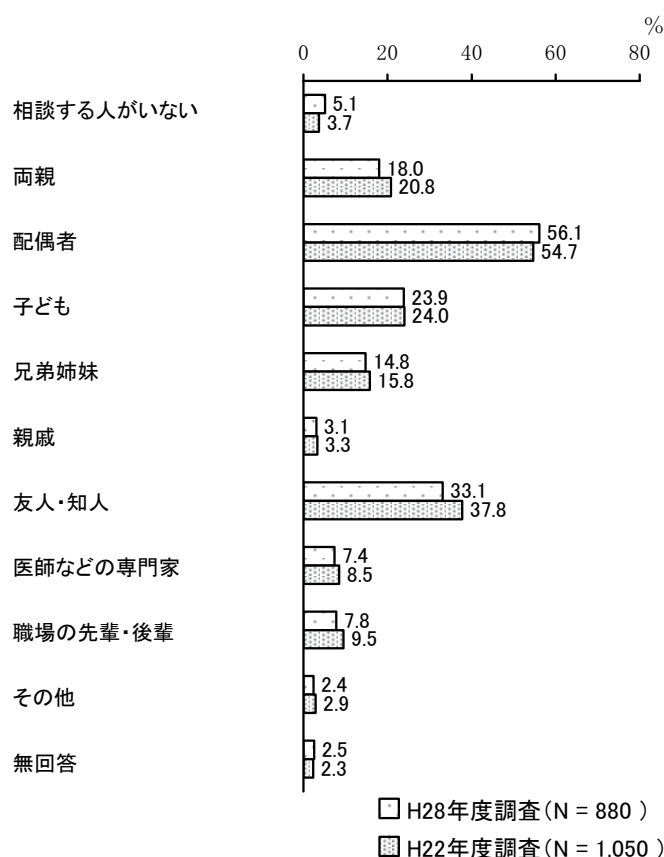
N = 591



問 37 あなたが、困ったときや心配なことがある時に主に相談する人は誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「配偶者」の割合が 56.1%と最も高く、
次いで「友人・知人」の割合が 33.1%、「子
ども」の割合が 23.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変
化はみられません。



【メンタルヘルスについて相談、学ぶ機会の有無別】

メンタルヘルスについて相談、学ぶ機会の有無別でみると、機会がない人に比べ、機会がある人で「両親」(24.7%)「医師などの専門家」(12.7%)「職場の先輩・後輩」(19.3%)の割合が高くなっています。また、機会がない人で「子ども」(25.3%)の割合が高くなっています。

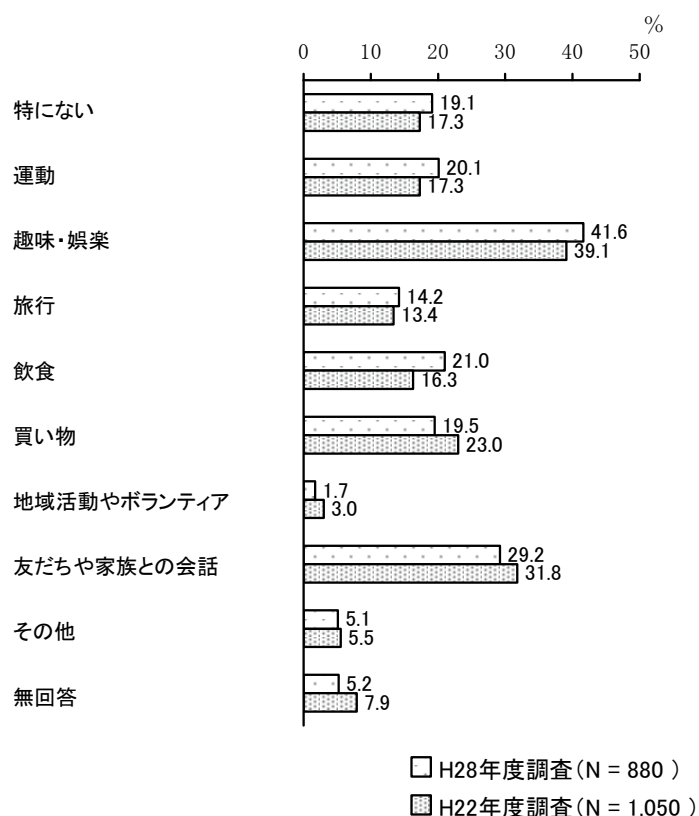
単位：％

区分	有効回答数 (件)	相談する人がいない	両親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	親戚	友人・知人	医師などの専門家	職場の先輩・後輩	その他	無回答
学ぶ機会がある	166	7.2	24.7	61.4	16.3	12.7	5.4	33.7	12.7	19.3	1.2	0.6
学ぶ機会がない	664	5.0	17.2	56.5	25.3	15.1	2.6	34.2	6.5	5.6	2.7	1.1

問 38 あなたは、自分なりのストレス解消法はありますか。(主なもの3つまでに○)

「趣味・娯楽」の割合が 41.6%と最も高く、次いで「友だちや家族との会話」の割合が 29.2%、「飲食」の割合が 21.0%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【メンタルヘルスについて相談、学ぶ機会の有無別】

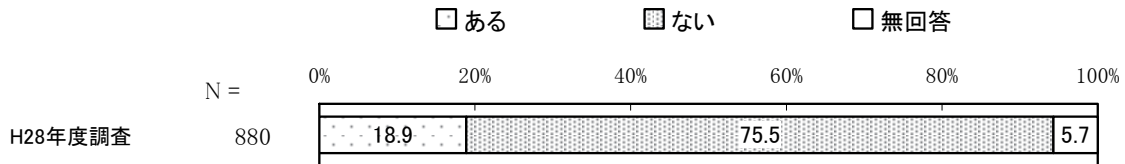
メンタルヘルスについて相談、学ぶ機会の有無別でみると、機会がない人に比べ、機会がある人で「趣味・娯楽」(47.0%)「運動」(31.9%)「飲食」(28.3%)の割合が高くなっています。また、機会がない人で「特になし」(20.8%)の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	特になし	運動	趣味・娯楽	旅行	飲食	買い物	地域活動やボランティア	友だちや家族との会話	その他	無回答
学ぶ機会がある	166	13.3	31.9	47.0	16.3	28.3	17.5	1.8	30.1	4.2	1.8
学ぶ機会がない	664	20.8	18.4	40.8	14.2	20.3	20.3	1.5	29.7	5.4	3.6

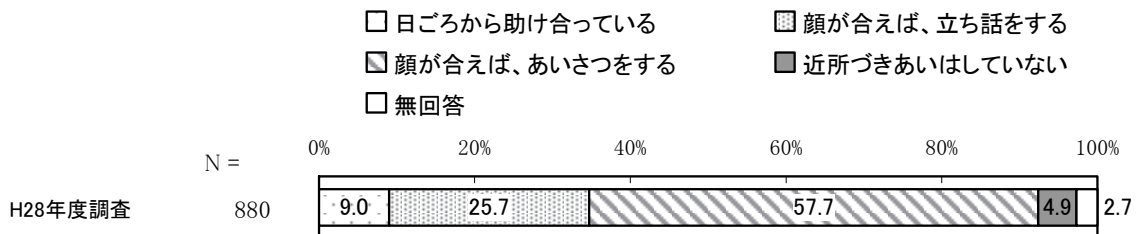
問 39 地域や職場でメンタルヘルスについて相談、学ぶ機会がありますか。
(どちらかに○)

「ある」の割合が 18.9%、「ない」の割合が 75.5%となっています。



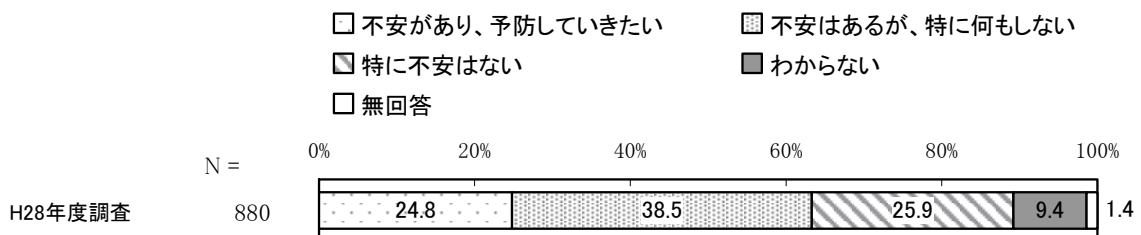
問 40 近所の人とは、どの程度の付き合いをしていますか。(ひとつに○)

「顔が合えば、あいさつをする」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「顔が合えば、立ち話をする」の割合が 25.7%となっています。



問 41 認知症になる不安を感じますか。また、予防に取り組んでいきたいですか。
(ひとつに○)

「不安はあるが、特に何もしない」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「特に不安はない」の割合が 25.9%、「不安があり、予防していきたい」の割合が 24.8%となっています。



5 歯の健康について

親子（1歳から5歳児）

- ・「歯みがきを1日2回以上する」の割合は6割以上。「定期的に歯科の健康診査を受ける」、「かかりつけの歯医者がある」割合が増加。（P. 70-問 27）
- ・甘い飲み物を飲む割合が増加。（P. 70-問 28）

小中学生

- ・昼食及び夕食後に歯みがきをする割合が増加。（P. 71-問 21）
- ・おやつによく食べるもので、ジュース・スポーツドリンク等が増えた。（P. 72-問 24）

成人（20歳以上）

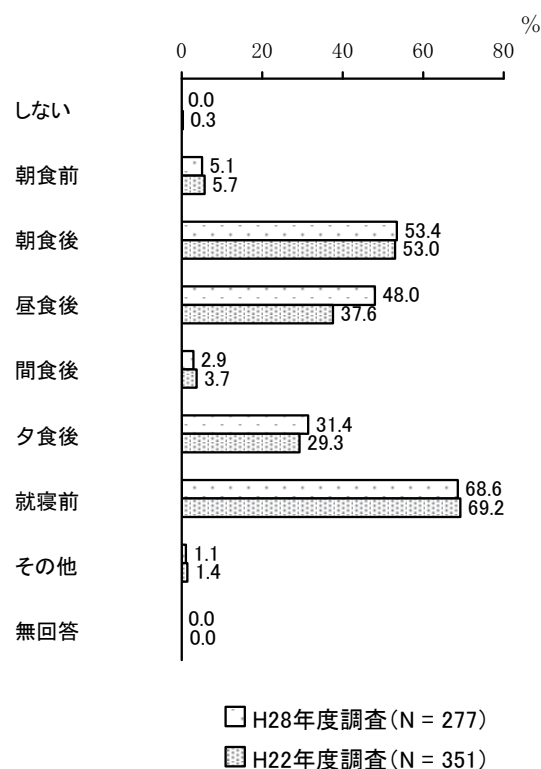
- ・歯の健康管理として、「デンタルフロス、歯間ブラシなどの歯の間を清掃する器具を使用している」人の割合が増加。（P. 74～75-問 43）
- ・男性の20歳代、30歳代、女性の20歳代では、歯の健康のための実践をしていない人が2割近く。（P. 74～75-問 43）

（1）親子（1歳から5歳児）

問 26 お子さんは、歯みがきをいつしますか。（あてはまるものすべてに○）

「就寝前」の割合が68.6%と最も高く、次いで「朝食後」の割合が53.4%、「昼食後」の割合が48.0%となっています。

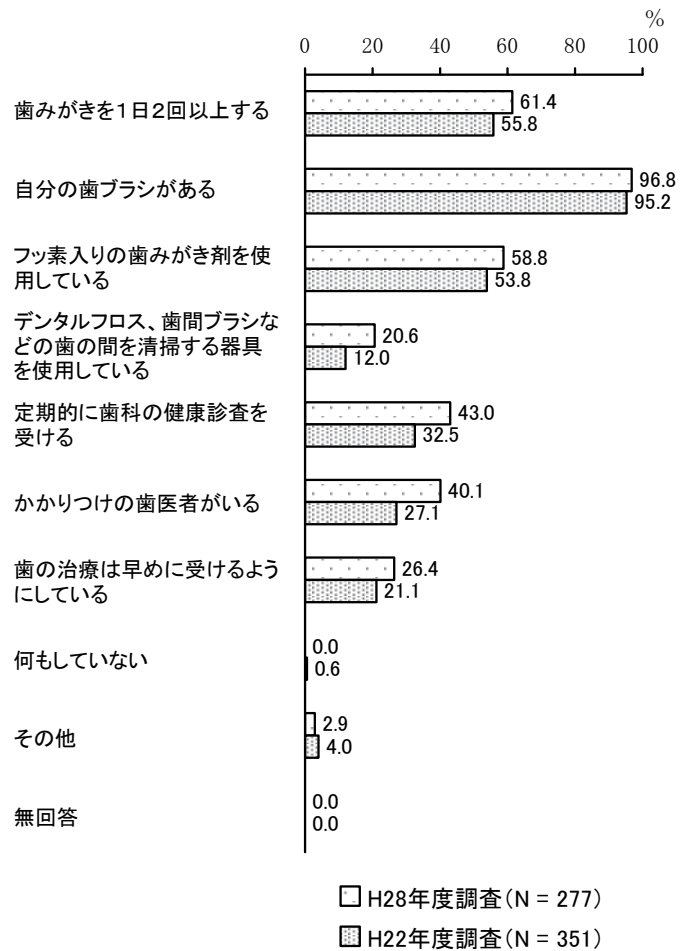
平成22年度調査と比較すると、「昼食後」の割合が10.4ポイント増加しています。



問 27 毎日お子さんの歯の健康管理として、どのようなことを実践していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「自分の歯ブラシがある」の割合が96.8%と最も高く、次いで「歯みがきを1日2回以上する」の割合が61.4%、「フッ素入りの歯みがき剤を使用している」の割合が58.8%となっています。

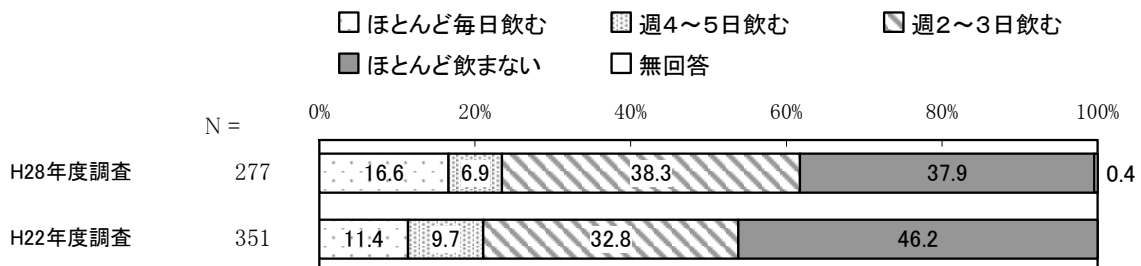
平成22年度調査と比較すると、「かかりつけの医者がある」の割合が13.0ポイント、「定期的に歯科の健康診査を受ける」の割合が10.5ポイント増加しています。



問 28 お子さんは、1日200ml以上の甘い飲み物（スポーツドリンク、乳酸菌飲料などを含みます）を週にどのくらい飲みますか。（ひとつに○）

「週2～3日飲む」の割合が38.3%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」の割合が37.9%、「ほとんど毎日飲む」の割合が16.6%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「週2～3日飲む」の割合が5.5ポイント、「ほとんど毎日飲む」の割合が5.2ポイント増加しており、「ほとんど飲まない」の割合が8.3ポイント減少しています。

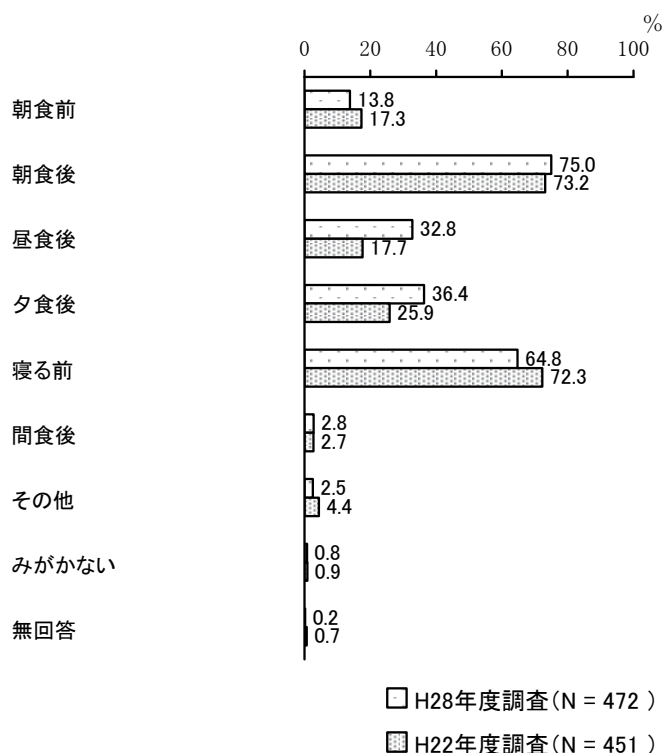


(2) 小中学生

問 21 あなたは、歯みがきをいつしますか。(あてはまるものすべてに○)

「朝食後」の割合が 75.0%と最も高く、次いで「寝る前」の割合が 64.8%、「夕食後」の割合が 36.4%となっています。

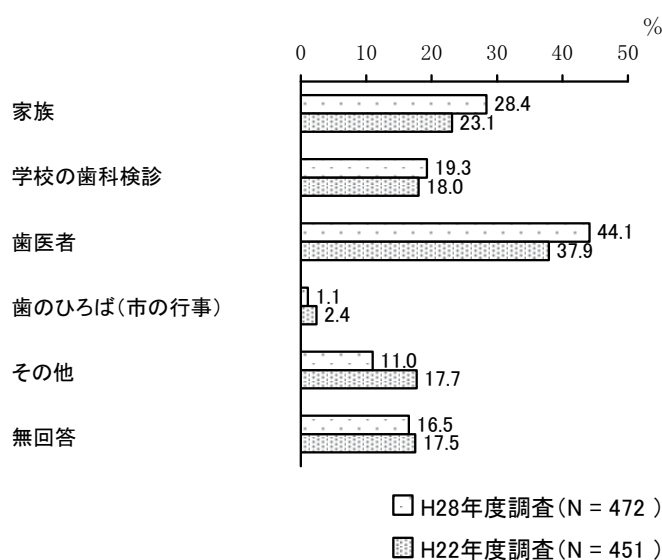
平成 22 年度調査と比較すると、「昼食後」の割合が 15.1 ポイント、「夕食後」の割合が 10.5 ポイント増加しています。また、「寝る前」の割合が 7.5 ポイント減少しています。



問 22 あなたは、この 1 年間にどこかで歯みがきの仕方を教えてもらったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「歯医者」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「家族」の割合が 28.4%、「学校の歯科検診」の割合が 19.3%となっています。

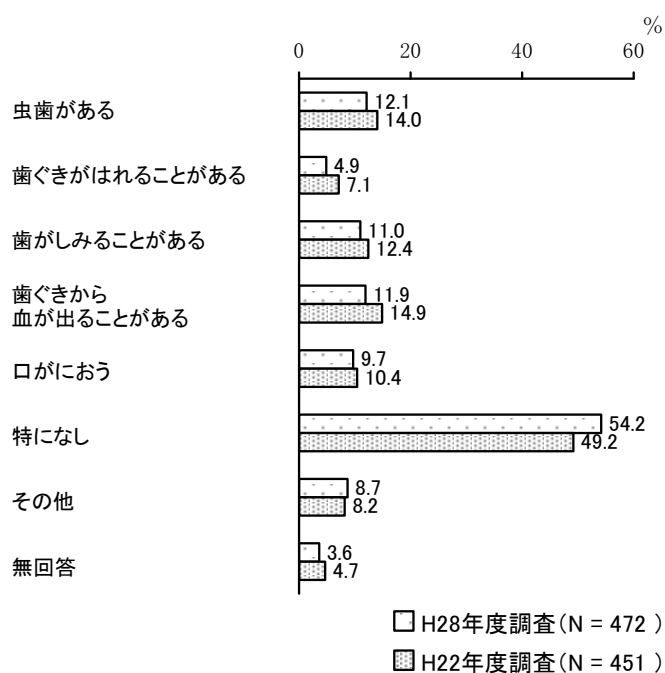
平成 22 年度調査と比較すると、「家族」の割合が 5.3 ポイント、「歯医者」の割合が 6.2 ポイント増加しています。



問 23 あなたの歯や口について気になることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特になし」の割合が 54.2%と最も高く、次いで「虫歯がある」の割合が 12.1%、「歯ぐきから血が出ることもある」の割合が 11.9%となっています。

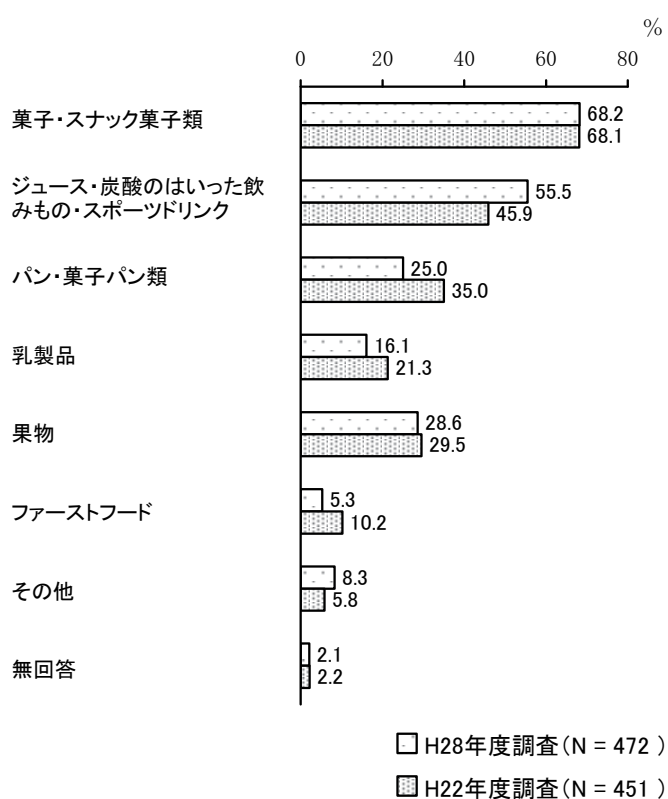
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 24 あなたが、おやつによく食べるものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「菓子・スナック菓子類」の割合が 68.2%と最も高く、次いで「ジュース・炭酸のはいった飲みもの・スポーツドリンク」の割合が 55.5%、「果物」の割合が 28.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「パン・菓子パン類」の割合が 10.0 ポイント、「乳製品」の割合が 5.2 ポイント減少しています。また、「ジュース・炭酸のはいった飲みもの・スポーツドリンク」の割合が 9.6 ポイント増加しています。



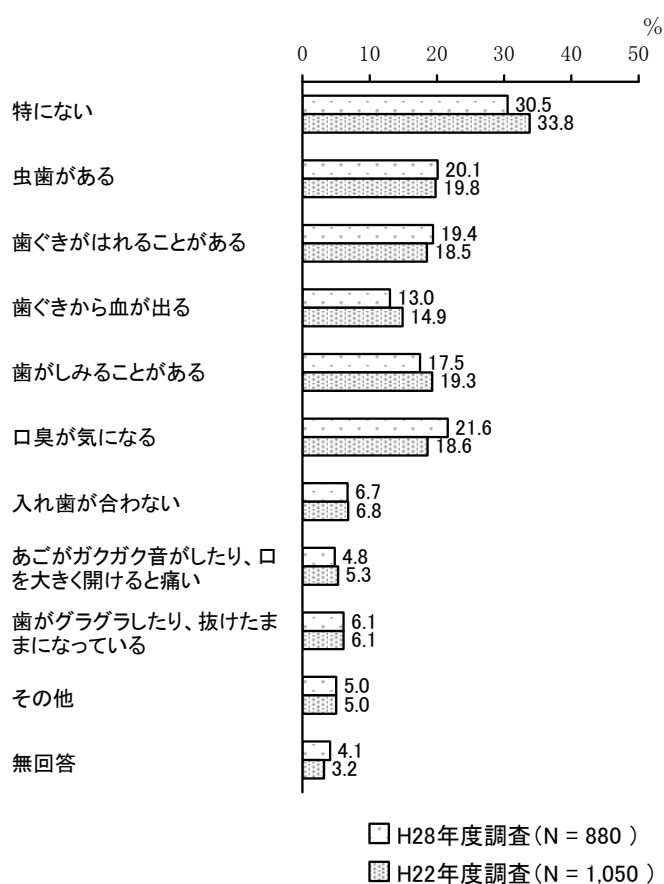
(3) 成人

問 42 あなたは、歯や口について次の症状がありますか。(あてはまるものすべてに○)

症状がある人の割合が 65.4%、「特にな
い」の割合が 30.5%となっています。

症状のある人のうち、「口臭が気になる」
の割合が 21.6%、「虫歯がある」の割合が
20.1%、「歯ぐきがはれることがある」の割
合が 19.4%となっています。

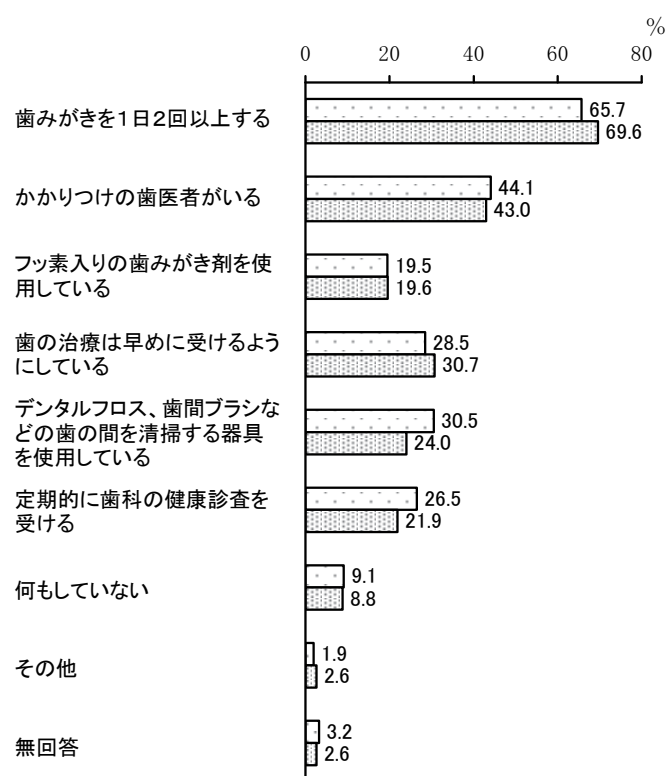
平成 22 年度調査と比較すると、大きな変
化はみられません。



問 43 あなたは、歯の健康管理として、どのようなことを実践していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「歯みがきを1日2回以上する」の割合が65.7%と最も高く、次いで「かかりつけの歯医者がある」の割合が44.1%、「デンタルフロス、歯間ブラシなどの歯の間を清掃する器具を使用している」の割合が30.5%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「デンタルフロス、歯間ブラシなどの歯の間を清掃する器具を使用している」の割合が6.5ポイント増加しています。



□ H28年度調査 (N = 880)

■ H22年度調査 (N = 1,050)

【性年齢別】

性年齢別でみると、他に比べ、男性の 60 歳以上、女性の 40 歳以上で「かかりつけの歯医者がある」の割合が高くなっています。

また、女性の 30～60 歳代で「デンタルフロス、歯間ブラシなどの歯の間を清掃する器具を使用している」の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「何もしていない」の割合が、男性の 20 歳代で 11.6 ポイント、男性の 40 歳代で 11.3 ポイント減少し、女性の 20 歳代で 11.9 ポイント増加しています。また、男性の 20 歳代で「フッ素入りの歯みがき剤を使用している」の割合が 19.3 ポイント増加しています。

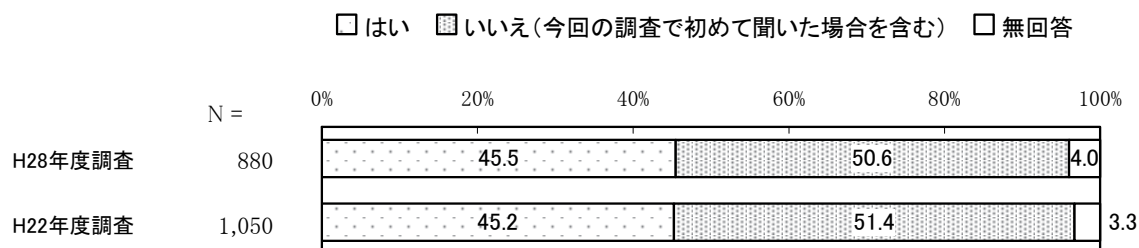
単位：％

区分	有効回答数（件）	歯みがきを１日２回以上する	かかりつけの歯医者がある	フッ素入りの歯みがき剤を使用している	歯の治療は早めに受けるようにしている	デンタルフロス、歯間ブラシなどの歯の間を清掃する器具を使用している	定期的に歯科の健康診査を受ける	何もしていない	その他	無回答
男性 20 歳代	40	60.0	20.0	37.5	22.5	12.5	7.5	17.5	—	2.5
30 歳代	51	56.9	25.5	15.7	25.5	27.5	17.6	17.6	—	—
40 歳代	52	78.8	28.8	13.5	15.4	26.9	26.9	9.6	—	—
50 歳代	45	57.8	35.6	8.9	15.6	28.9	20.0	15.6	4.4	—
60 歳代	67	58.2	52.2	19.4	34.3	23.9	31.3	11.9	1.5	3.0
70 歳以上	152	55.3	50.0	21.1	36.8	17.8	29.6	5.9	3.3	5.9
女性 20 歳代	47	72.3	19.1	19.1	19.1	23.4	17.0	17.0	—	—
30 歳代	56	76.8	39.3	28.6	25.0	42.9	25.0	7.1	1.8	1.8
40 歳代	62	74.2	46.8	29.0	30.6	46.8	37.1	3.2	3.2	—
50 歳代	74	82.4	48.6	24.3	24.3	45.9	24.3	1.4	1.4	—
60 歳代	68	72.1	63.2	22.1	38.2	52.9	42.6	4.4	—	—
70 歳以上	154	63.6	55.8	11.0	31.8	28.6	25.3	9.1	3.2	6.5

問 44 あなたは、８０２０（ハチマルニイマル）運動※を知っていますか。（どちらかに○）

「はい」の割合が 45.5%、「いいえ（今回の調査で初めて聞いた場合を含む）」の割合が 50.6% となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※ ８０２０運動：80 歳で 20 本以上の自分の歯を保つことをめざすものです。

6 たばこについて

親子（1歳から5歳児）

- ・他の家族が喫煙者の場合、自身も本数を多く吸う割合が高い。（P. 77-問 37）
- ・家庭で喫煙する人は3割を超え、そのうち“子どもの周囲で喫煙する”人は、減少しているが、まだ1割を超えている。（P. 78-問 39 及び P. 78-問 39-1）

小中学生

- ・喫煙経験のある人は減少しており、実数は極わずかである。（P. 80-問 35）
- ・たばこの煙が体に悪いと認識している割合は9割半ば。（P. 81-問 36）
- ・家庭において、喫煙者が子どもの近くや同じ部屋でたばこを吸う割合が6割以上。（P. 81-問 37-1）

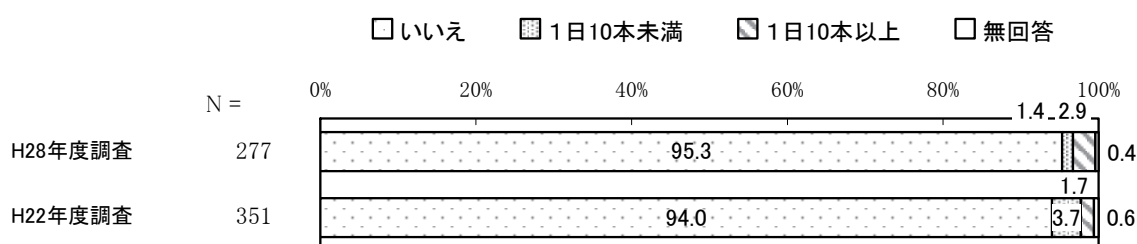
成人（20歳以上）

- ・男性の20歳代、30歳代、40歳代の喫煙者が減少。（P. 82-問 45）
- ・喫煙者は、男性の50歳代で多く、3割を超えている。喫煙者のうち、たばこをやめたいと思っている人は5割半ば。やめたいと思わない人が増加。（P. 82-問 45 及び P. 84-問 45-1③）
- ・家の中での分煙は5割未満。（P. 86-問 48-1）
- ・COPD（慢性閉塞性肺疾患）について、「言葉も意味も知らなかった」人が5割以上。（P. 86-問 49）

（1）親子（1歳から5歳児）

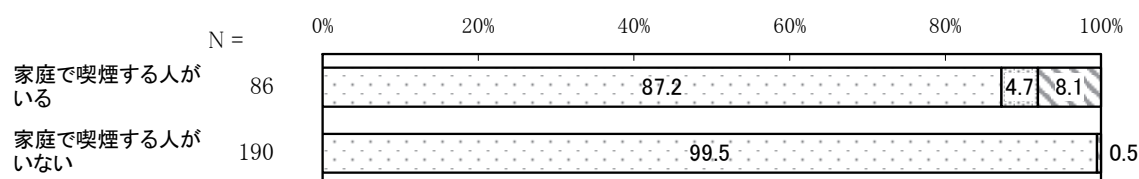
問 37 あなたは現在、喫煙していますか。（ひとつに○）

「いいえ」の割合が95.3%と最も高くなっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【家庭内の喫煙者の有無別】

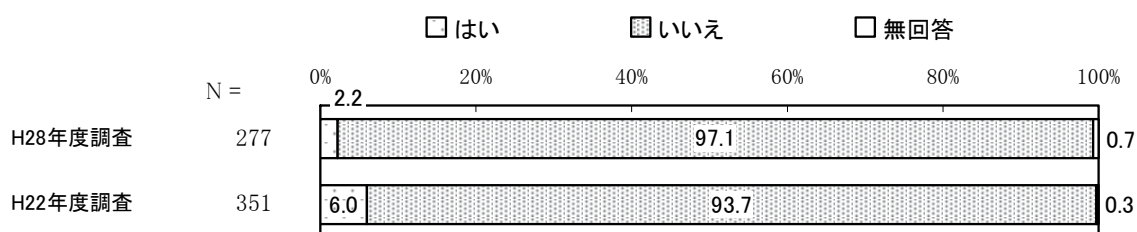
家庭内の喫煙者の有無別でみると、家庭で喫煙する人がいるで自身が「1日10本以上」(8.1%)喫煙する割合が高くなっています。



問 38 お子さんのお母さんは妊娠中、喫煙していましたか。（どちらかに○）

「はい」の割合が2.2%、「いいえ」の割合が97.1%となっています。

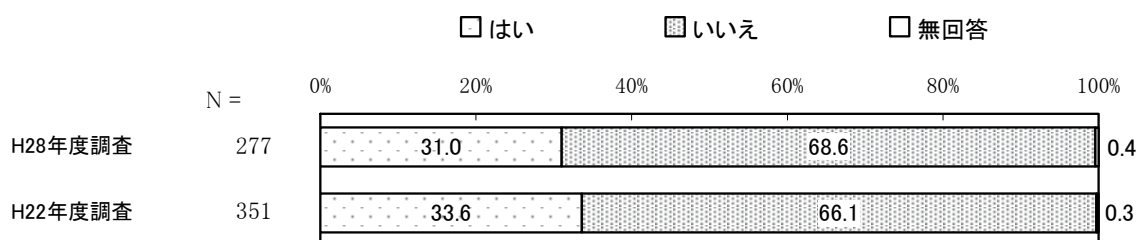
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 39 現在、家庭で喫煙する人はいますか。（どちらかに○）

「はい」の割合が31.0%、「いいえ」の割合が68.6%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

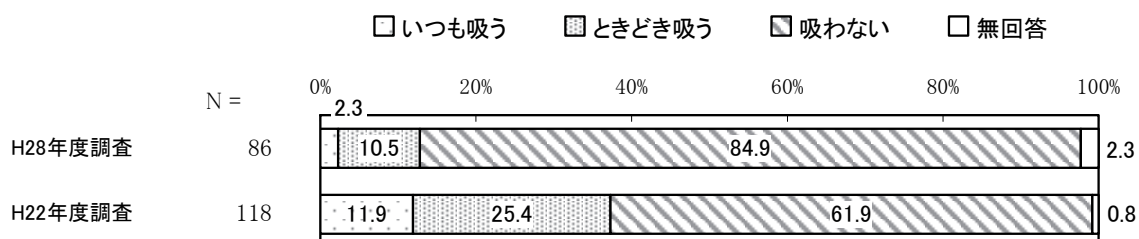


問 39 で「1. はい」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 39-1 家庭の中で喫煙している人は、お子さんの周囲（お子さんがいる同じ部屋）で吸いますか。（ひとつに○）

「いつも吸う」と「ときどき吸う」を合わせた“子どもの周囲で喫煙する”の割合が12.8%、「吸わない」の割合が84.9%となっています。

平成22年度調査と比較すると、“子どもの周囲で喫煙する”の割合が24.5ポイント減少しています。



問 40 あなたは、たばこが体に及ぼす影響は何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

「肺がん」の割合が 94.2%と最も高く、
次いで「まわりの人への影響」の割合が
89.2%、「妊娠に関連した異常（赤ちゃんに
影響する）」の割合が 83.8%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「わからない」
を除くすべての項目で増加しています。

N = 277

わからない

肺がん

喘息

気管支炎

心臓病

脳卒中

胃潰瘍

妊娠に関連した異常（赤ちゃんに
影響する）

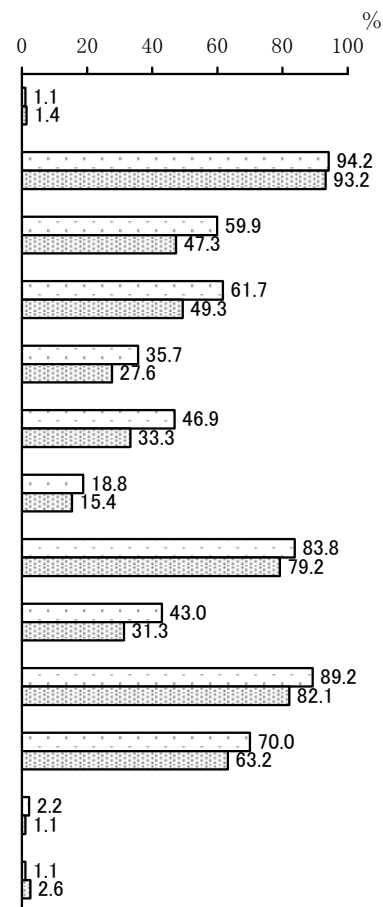
歯周病

まわりの人への影響

依存症になり、やめられなく
なる

その他

無回答



□ H28年度調査 (N = 277)

■ H22年度調査 (N = 351)

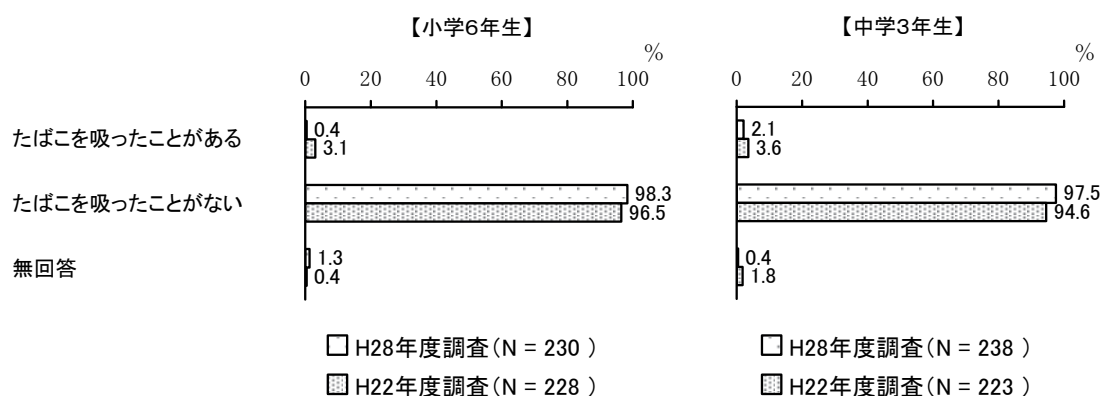
(2) 小中学生

問 35 あなたは、たばこを吸ったことがありますか。(どちらかに○)

小学6年生では、「たばこを吸ったことがある」の割合が0.4%、「たばこを吸ったことがない」の割合が98.3%となっています。

中学3年生では、「たばこを吸ったことがある」の割合が2.1%、「たばこを吸ったことがない」の割合が97.5%となっています。

平成22年度調査と比較すると、小中学生では、喫煙経験のある人は減少しており、実数はごくわずかとなっています。

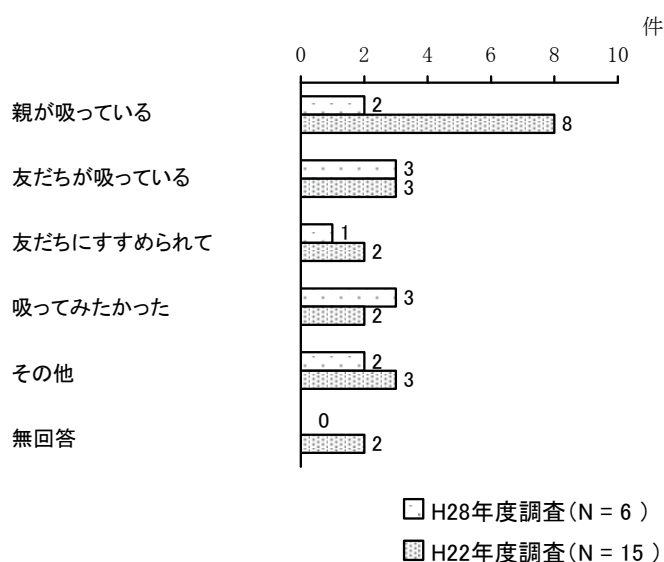


問 35 で「1. はい」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 35-1 たばこを吸ったきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

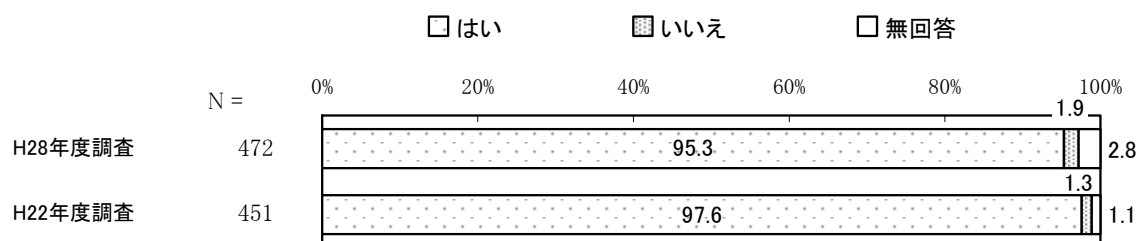
「友だちが吸っている」、「吸って見たかった」が3件、「親が吸っている」が2件となっています。

平成22年度調査と比較すると、全体の回答者数が9人減少しています。また、「親が吸っている」の件数が6件減少しています。



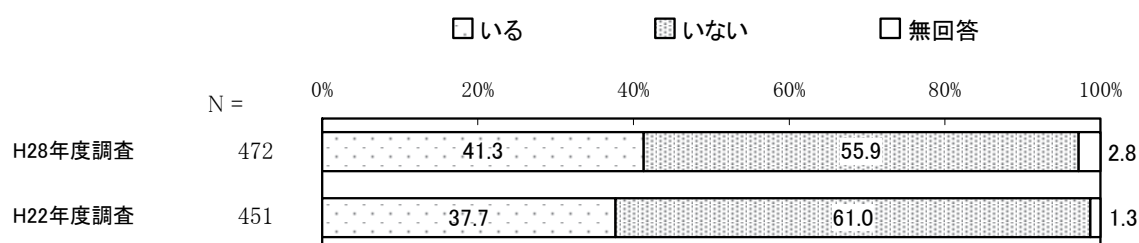
問 36 あなたは、たばこのけむりは体に悪いと思いますか。(どちらかに○)

「はい」の割合が95.3%、「いいえ」の割合が1.9%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 37 あなたの家族にたばこを吸う人がいますか。(どちらかに○)

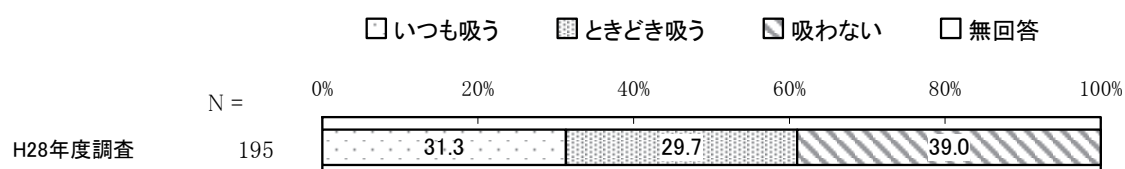
「いる」の割合が41.3%、「いない」の割合が55.9%となっています。
平成22年度調査と比較すると、「いない」の割合が5.1ポイント減少しています。



問 37 で「1. いる」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 37-1 家庭の中でたばこを吸う人は、あなたの近くや同じ部屋で吸いますか。(ひとつに○)

「吸わない」の割合が39.0%と最も高く、次いで「いつも吸う」の割合が31.3%、「ときどき吸う」の割合が29.7%となっています。

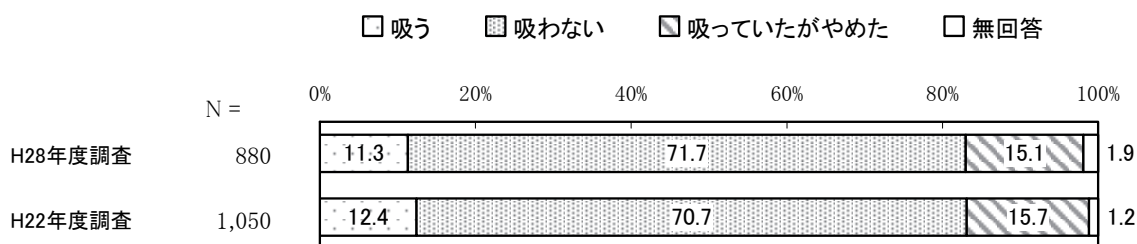


(3) 成人

問 45 あなたは、たばこを吸いますか。(ひとつに○)

「吸う」の割合が 11.3%、「吸わない」の割合が 71.7%、「吸っていたがやめた」の割合が 15.1% となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

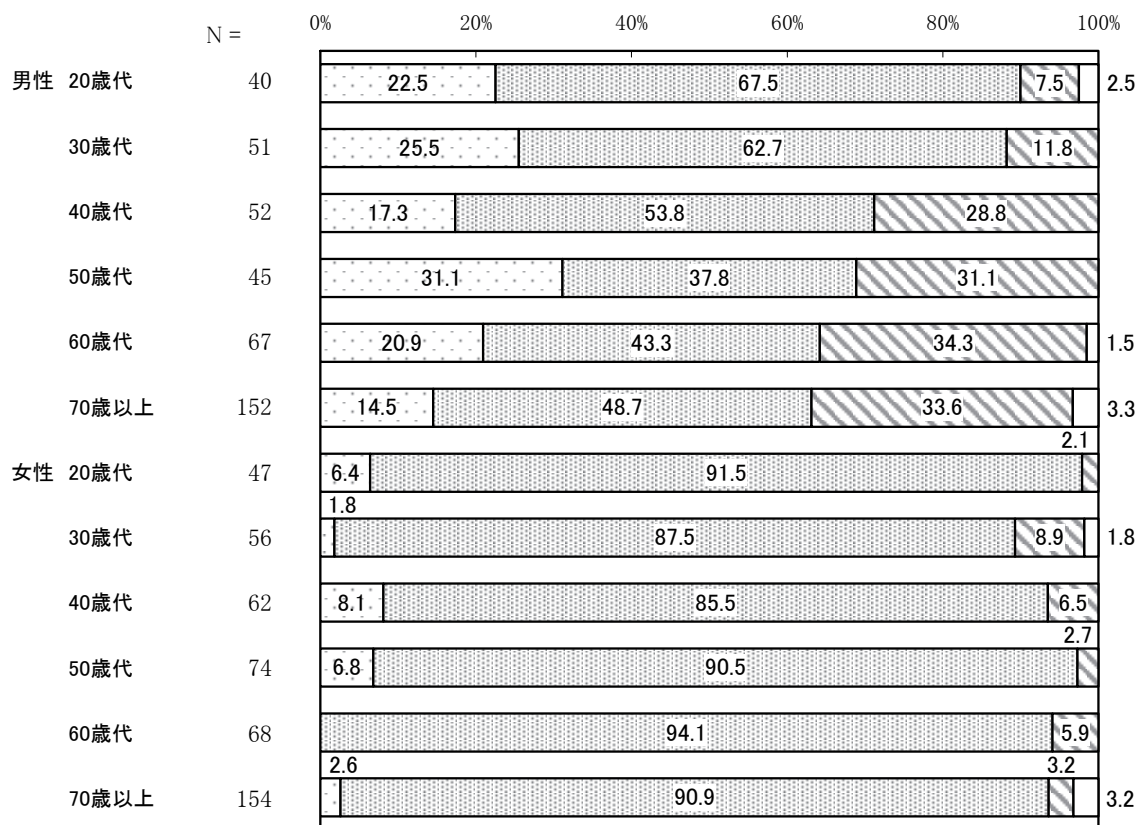


【性年齢別】

性年齢別でみると、他に比べ、男性の 50 歳代で「吸う」(31.1%) の割合が高くなっています。

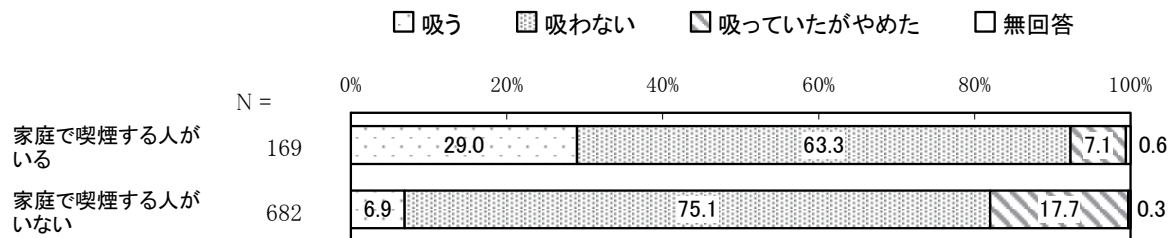
また、男性の 40 歳以上で、「吸っていたがやめた」の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、男性の 20 歳代で「吸う」の割合が 12.0 ポイント減少しています。また、「吸わない」の割合が、男性の 20 歳代で 11.1 ポイント、30 歳代で 14.7 ポイント増加しています。



【家庭内の喫煙者の有無別】

家庭内の喫煙者の有無別でみると、家庭内に喫煙者がいない人に比べ、いる人で「吸う」(29.0%)の割合が高くなっています。

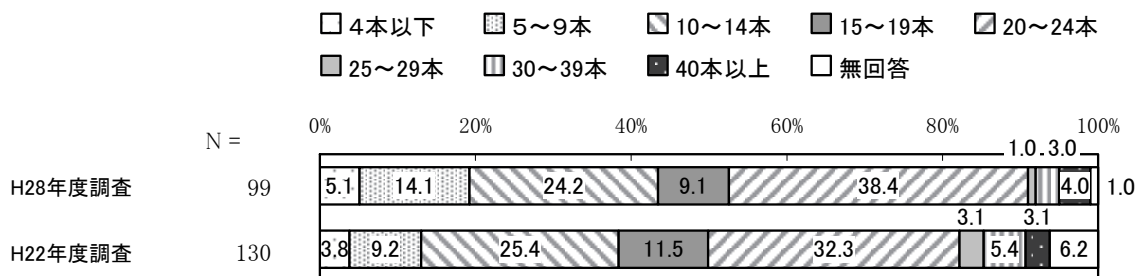


問 45 で「1. 吸う」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 45-1 ① 1 日何本吸いますか。

「20～24 本」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「10～14 本」の割合が 24.2%、「5～9 本」の割合が 14.1%となっています。

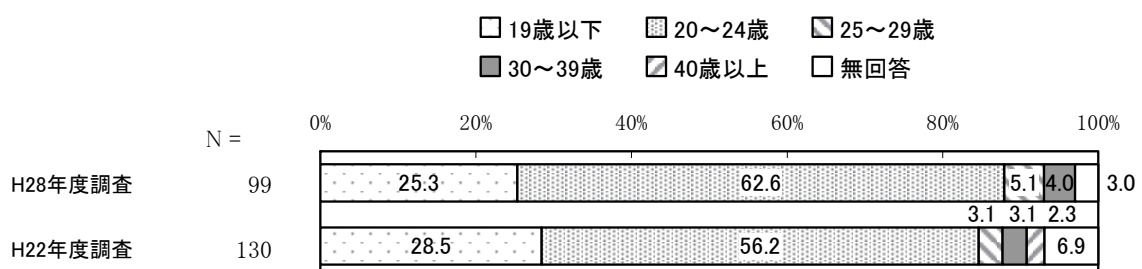
平成 22 年度調査と比較すると、「20～24 本」の割合が 6.1 ポイント増加しています。



問 45-1 ②何歳から吸い始めましたか。

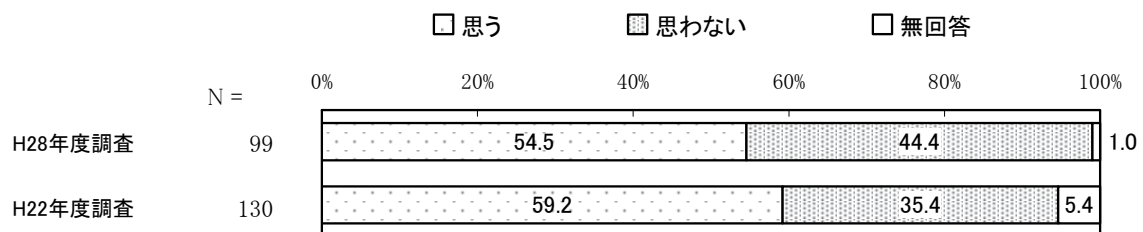
「20～24 歳」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「19 歳以下」の割合が 25.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「20～24 歳」の割合が 6.4 ポイント増加しています。



問 45-1 ③たばこをやめたいと思いますか。(どちらかに○)

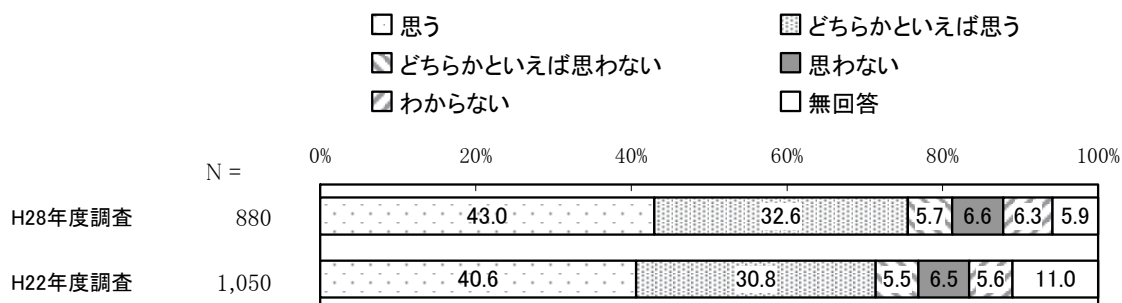
「思う」の割合が 54.5%、「思わない」の割合が 44.4%となっています。
 平成 22 年度調査と比較すると、「思わない」の割合が 9.0 ポイント増加しています。



問 46 あなたの身の回りでは分煙※が進んでいると思いますか。(ひとつに○)

「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた“思う”の割合が 75.6%、「どちらかといえ
ば思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”の割合が 12.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

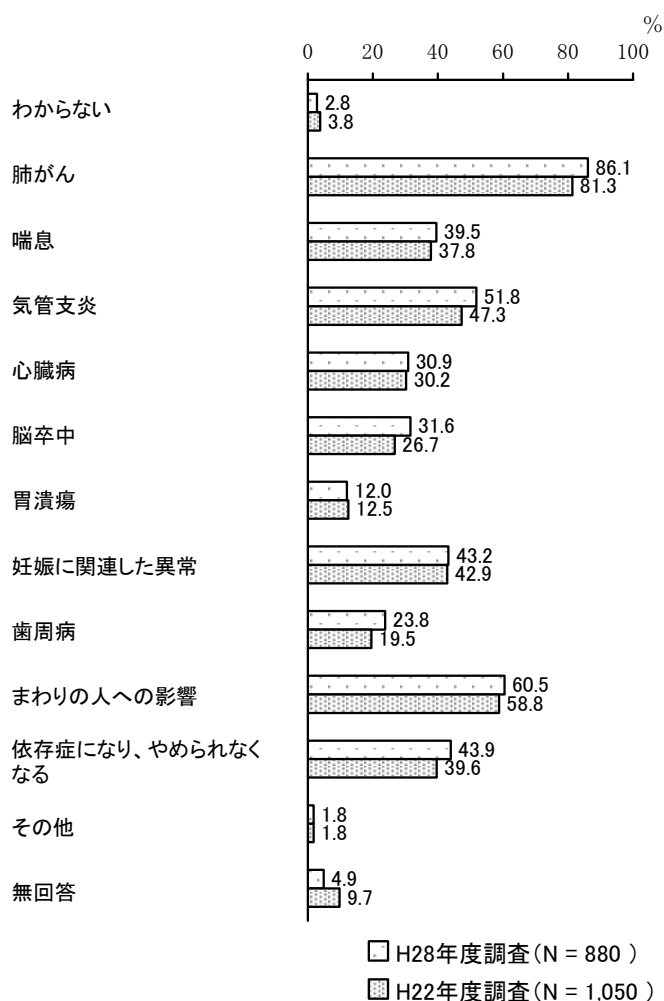


※分煙：受動喫煙の防止を目的とし、不特定多数の人が利用する公共の場所や施設等において、喫煙場所となる空間と、それ以外の非喫煙場所となる空間に分割する方法です。

問 47 あなたは、たばこが体に及ぼす影響は何だと思えますか。 (あてはまるものすべてに○)

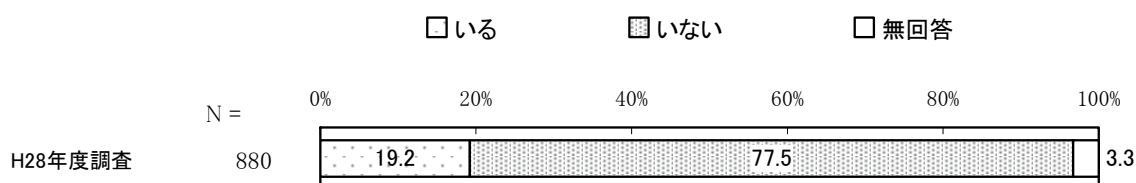
「肺がん」の割合が 86.1%と最も高く、
次いで「まわりの人への影響」の割合が
60.5%、「気管支炎」の割合が 51.8%となっ
ています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変
化はみられません。



問 48 家族の中でタバコを吸う人がいますか。（どちらかに○）

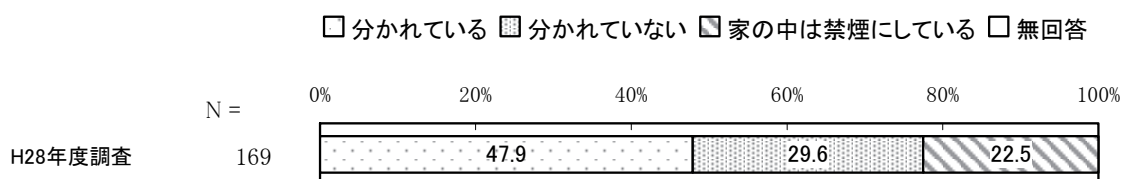
「いる」の割合が 19.2%、「いない」の割合が 77.5%となっています。



問 48 で、「1. いる」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

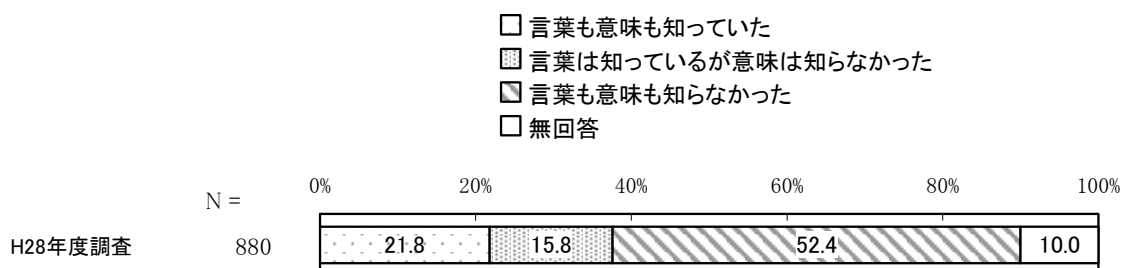
問 48-1 家の中で喫煙する場所は分かれていますか。（ひとつに○）

「分かれている」の割合が 47.9%と最も高く、次いで「分かれていない」の割合が 29.6%、「家の中は禁煙にしている」の割合が 22.5%となっています。



問 49 あなたは、「COPD（慢性閉塞性肺疾患）※」という病気を知っていますか。（ひとつに○）

「言葉も意味も知らなかった」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「言葉も意味も知っていた」の割合が 21.8%、「言葉は知っているが意味は知らなかった」の割合が 15.8%となっています。



※COPD：肺気腫と慢性気管支炎の総称です。これらは、汚れた空気を長年吸い続けた結果（喫煙と受動喫煙によりたばこの煙を吸い込むなど）発病します。COPDになると、肺機能が低下するので日常生活の制限等生活の質が低下します。

7 アルコールについて

親子（1歳から5歳児）

- ・一部の母親は妊娠中にも飲酒をしている。（P. 87-問 41）

小中学生

- ・飲酒の経験はあるが減少。（P. 88-問 33）

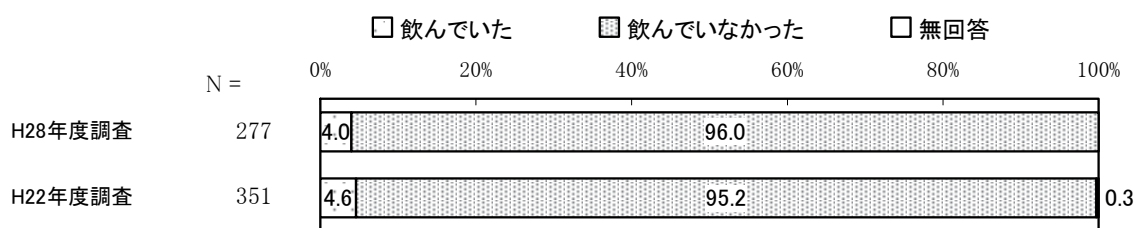
成人（20歳以上）

- ・男性の20歳代～60歳代で毎日飲酒する人が減少。女性の20歳代～40歳代で毎日飲酒する人が増加。男性、女性とも特に年齢が高いほど、飲酒の頻度が高い傾向がある。（P. 89～90-問 50-1①）

（1）親子（1歳から5歳児）

問 41 お子さんのお母さんは妊娠中、お酒を飲んでいましたか。（どちらかに○）

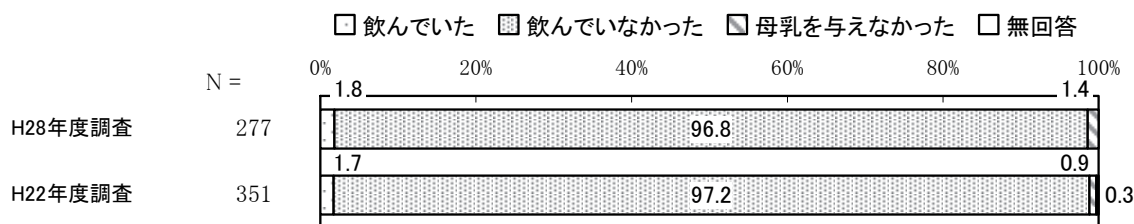
「飲んでいた」の割合が4.0%、「飲んでいなかった」の割合が96.0%となっています。平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 42 お子さんのお母さんは授乳中、習慣的にお酒を飲んでいましたか。（ひとつに○）

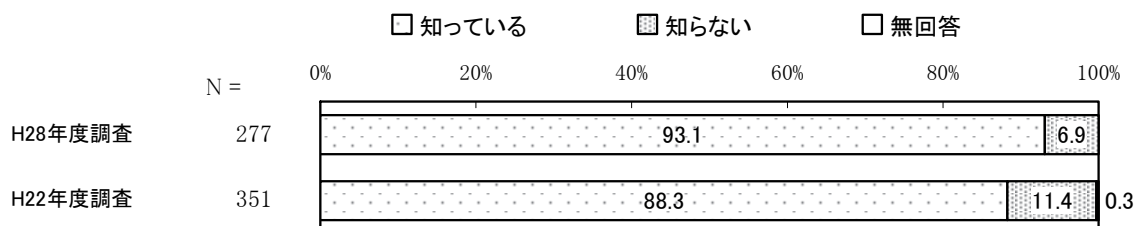
「飲んでいた」の割合が1.8%、「飲んでいなかった」の割合が96.8%、「母乳を与えなかった」の割合が1.4%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 43 あなたは、飲酒が妊娠中の体に及ぼす影響をご存知ですか。（どちらかに○）

「知っている」の割合が93.1%、「知らない」の割合が6.9%となっています。平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 小中学生

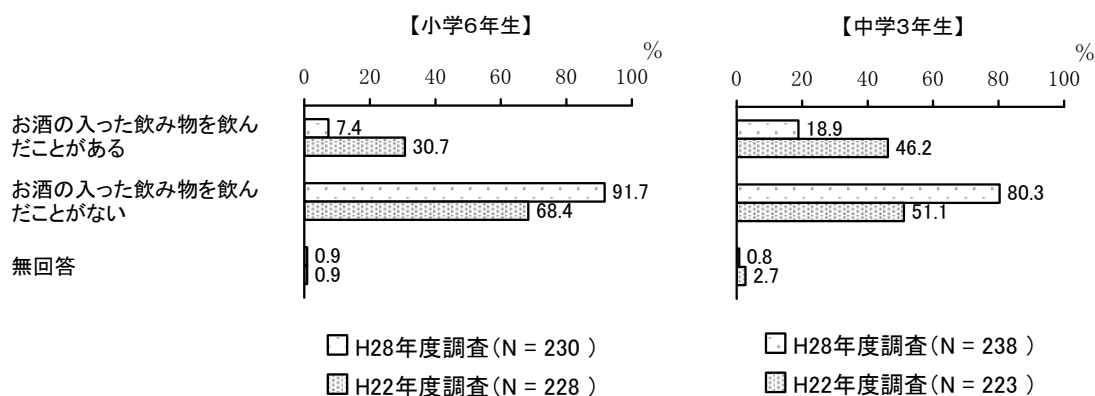
問 33 あなたは、お酒の入った飲み物を飲んだことがありますか。(どちらかに○)

小学6年生では、「お酒の入った飲み物を飲んだことがある」の割合が7.4%、「お酒の入った飲み物を飲んだことがない」の割合が91.7%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「お酒の入った飲み物を飲んだことがある」の割合が23.3ポイント減少し、「お酒の入った飲み物を飲んだことがない」の割合が23.3ポイント増加しています。

中学3年生では、「お酒の入った飲み物を飲んだことがある」の割合が18.9%、「お酒の入った飲み物を飲んだことがない」の割合が80.3%となっています。

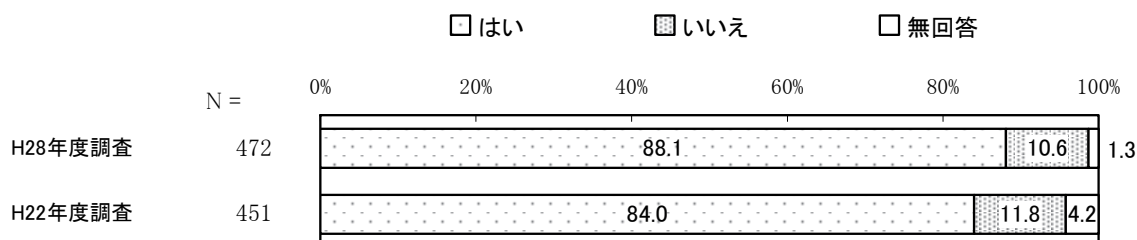
平成22年度調査と比較すると、「お酒の入った飲み物を飲んだことがある」の割合が27.3ポイント減少し、「お酒の入った飲み物を飲んだことがない」の割合が29.2ポイント増加しています。



問 34 あなたは、お酒の入った飲み物を飲みすぎると病気になることを知っていますか。(どちらかに○)

「はい」の割合が88.1%、「いいえ」の割合が10.6%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

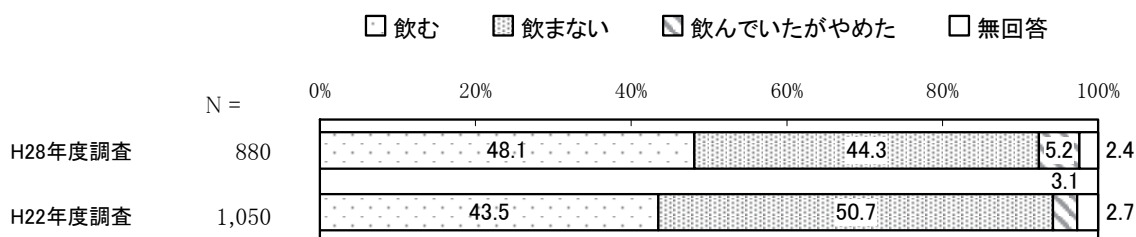


(3) 成人

問 50 あなたは、お酒を飲みますか。(ひとつに○)

「飲む」の割合が 48.1%、「飲まない」の割合が 44.3%、「飲んでいたがやめた」の割合が 5.2% となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「飲まない」の割合が 6.4 ポイント減少しています。

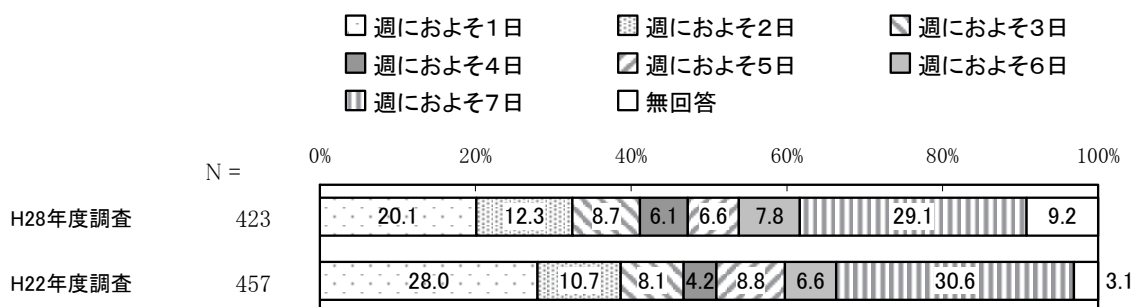


問 50 で「1. 飲む」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 50-1 ①どれくらいの割合で飲みますか。

「週におよそ 7 日」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「週におよそ 1 日」の割合が 20.1%、「週におよそ 2 日」の割合が 12.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「週におよそ 1 日」の割合が 7.9 ポイント減少しています。

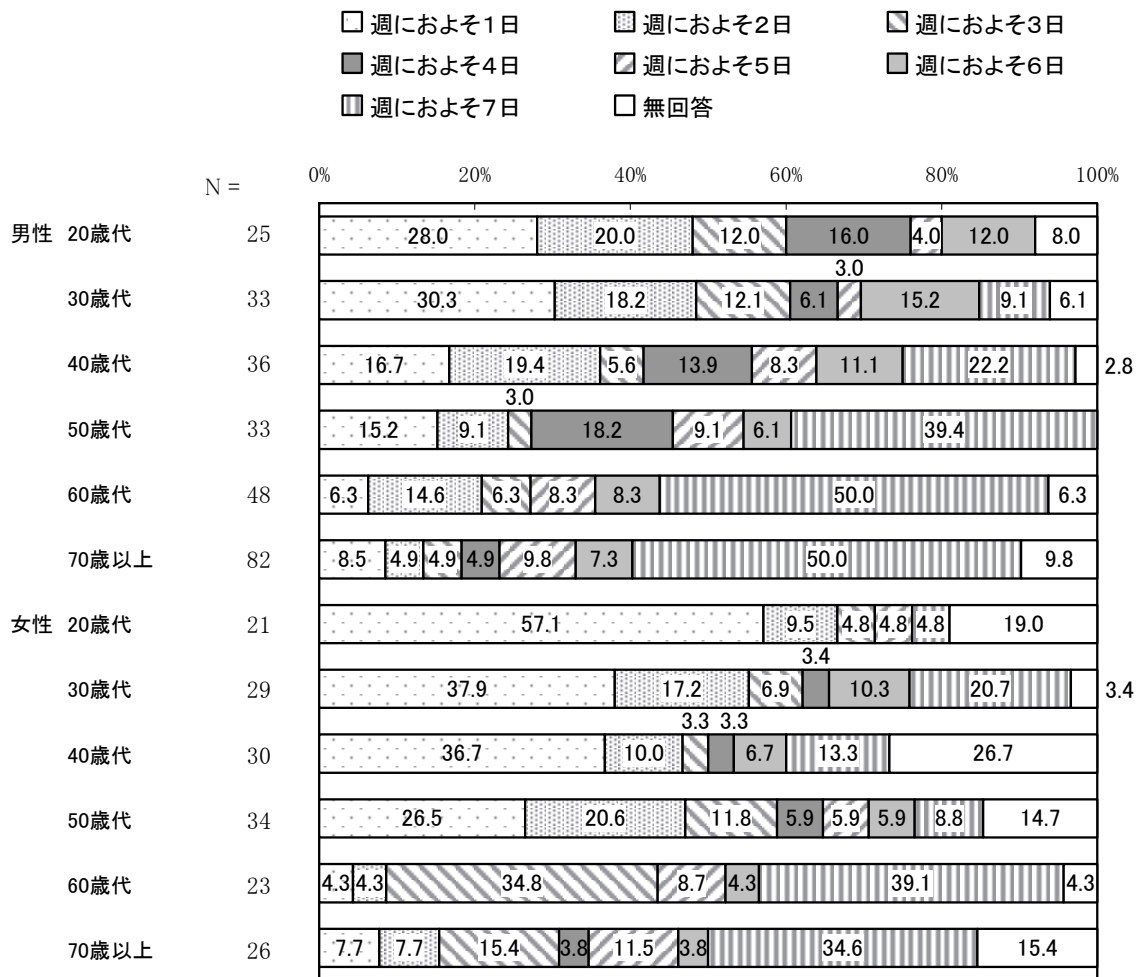


【性年齢別】

性年齢別でみると、他に比べ、男性の 50 歳以上で「週におよそ 7 日」の割合が高くなっています。

また、女性の 20 歳代で「週におよそ 1 日」(57.1%) の割合が最も高くなっています。

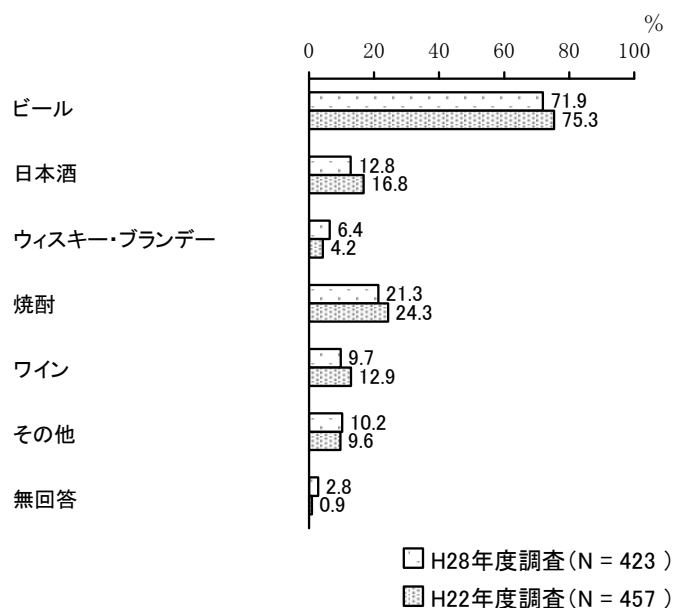
平成 22 年度調査と比較すると、「週におよそ 7 日」の割合が、男性の 20 歳代で 12.1 ポイント、30 歳代で 25.5 ポイント、男性の 40 歳代で 11.8 ポイント減少し、女性の 30 歳代で 12.6 ポイント、60 歳代で 10.5 ポイント増加しています。



問 50-1 ②主に何を飲みますか。(あてはまるものすべてに○)
また、() 内に1日に飲む量を記入してください。

「ビール」の割合が71.9%と最も高く、
次いで「焼酎」の割合が21.3%、「日本酒」
の割合が12.8%となっています。

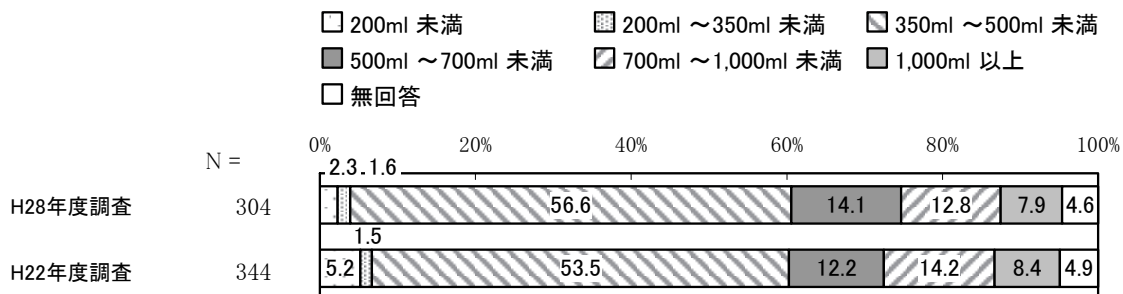
平成22年度調査と比較すると、大きな変
化はみられません。



①ビール

「350ml～500ml 未満」の割合が56.6%と最も高く、次いで「500ml～700ml 未満」の割合が14.1%、「700ml～1,000ml 未満」の割合が12.8%となっています。

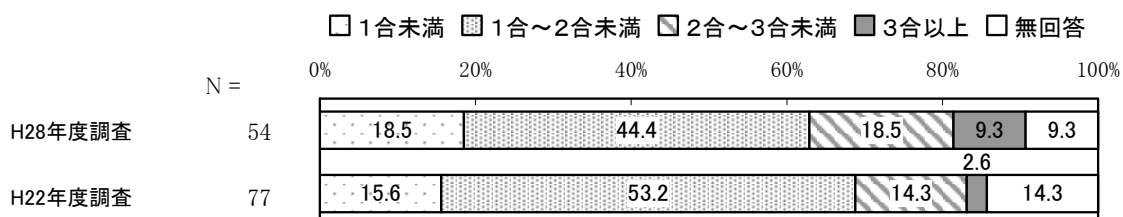
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②日本酒

「1合～2合未満」の割合が44.4%と最も高く、次いで「1合未満」、「2合～3合未満」の割合が18.5%となっています。

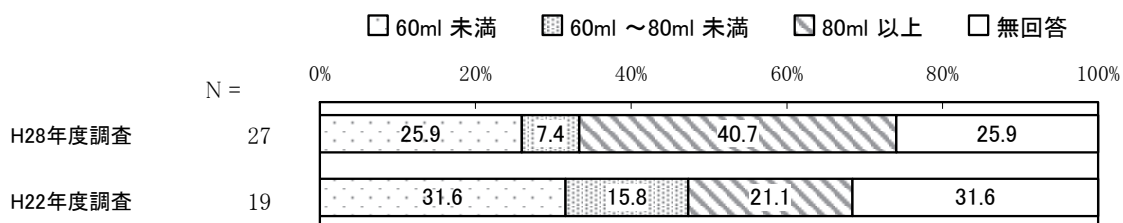
平成22年度調査と比較すると、「1合～2合未満」の割合が8.8ポイント減少しています。また、「3合以上」の割合が6.7ポイント増加しています。



③ウィスキー・ブランデー

「80ml 以上」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「60ml 未満」の割合が 25.9%となっています。

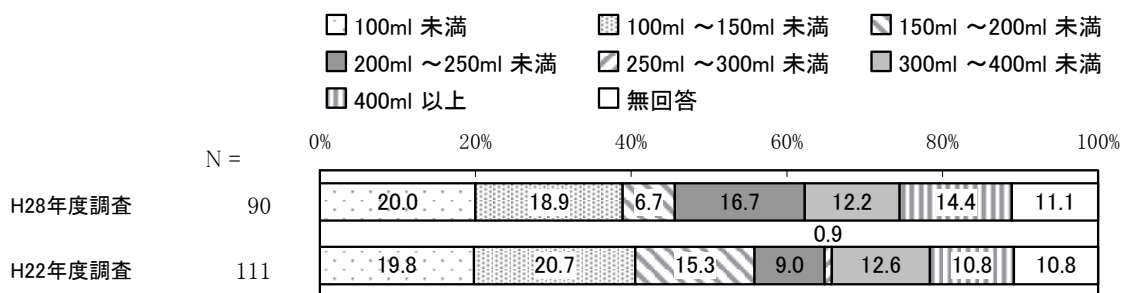
平成 22 年度調査と比較すると、「60ml～80ml 未満」の割合が 8.4 ポイント、「60ml 未満」で 5.7 ポイント減少しています。また、「80ml 以上」の割合が 19.6 ポイント増加しています。



④焼酎

「100ml 未満」の割合が 20.0%と最も高く、次いで「100ml～150ml 未満」の割合が 18.9%、「200ml～250ml 未満」の割合が 16.7%となっています。

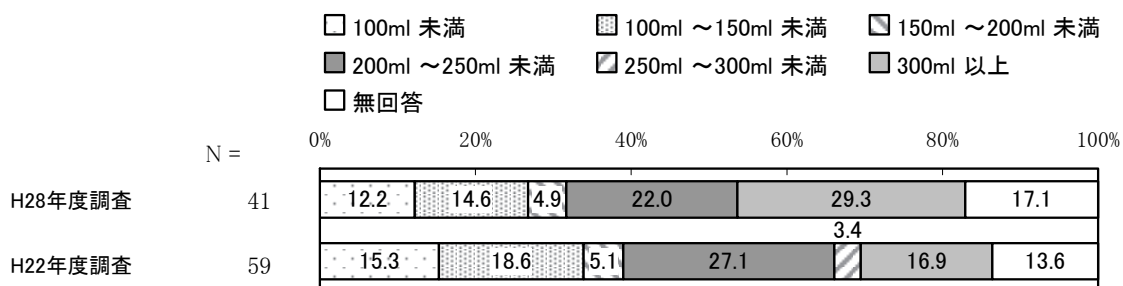
平成 22 年度調査と比較すると、「150ml～200ml 未満」の割合が 8.6 ポイント減少しています。また、「200ml～250ml 未満」の割合が 7.7 ポイント増加しています。



⑤ワイン

「300ml 以上」の割合が 29.3%と最も高く、次いで「200ml～250ml 未満」の割合が 22.0%、「100ml～150ml 未満」の割合が 14.6%となっています。

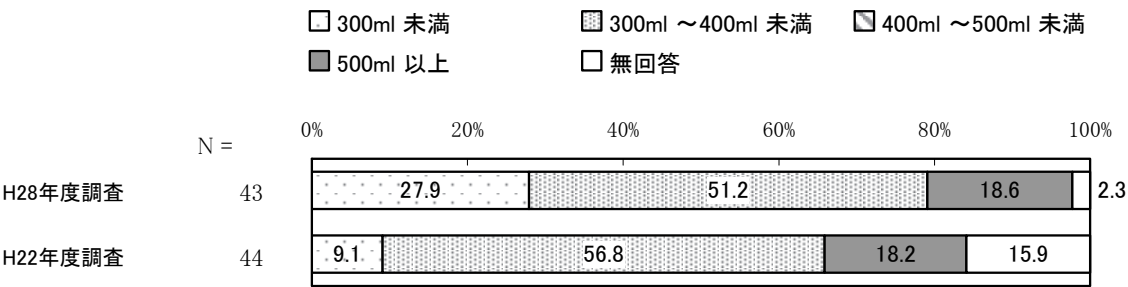
平成 22 年度調査と比較すると、「200ml～250ml 未満」の割合が 5.1 ポイント減少しています。また、「300ml 以上」の割合が 12.4 ポイント増加しています。



⑥その他

「300ml～400ml 未満」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「300ml 未満」の割合が 27.9%、「500ml 以上」の割合が 18.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「300ml 未満」の割合が 18.8 ポイント増加しています。



8 薬物について

小中学生

- ・薬物の使用による悪影響について、「知らない」と回答した割合は、小学6年生で15.7%、中学3年生で6.3%となっている。(P. 94～95-問38)
- ・小学6年生で、薬物の使用による悪影響について「1回使っただけでも死亡することがある」を知っている人が増加。(P. 94～95-問38)

(1) 小中学生

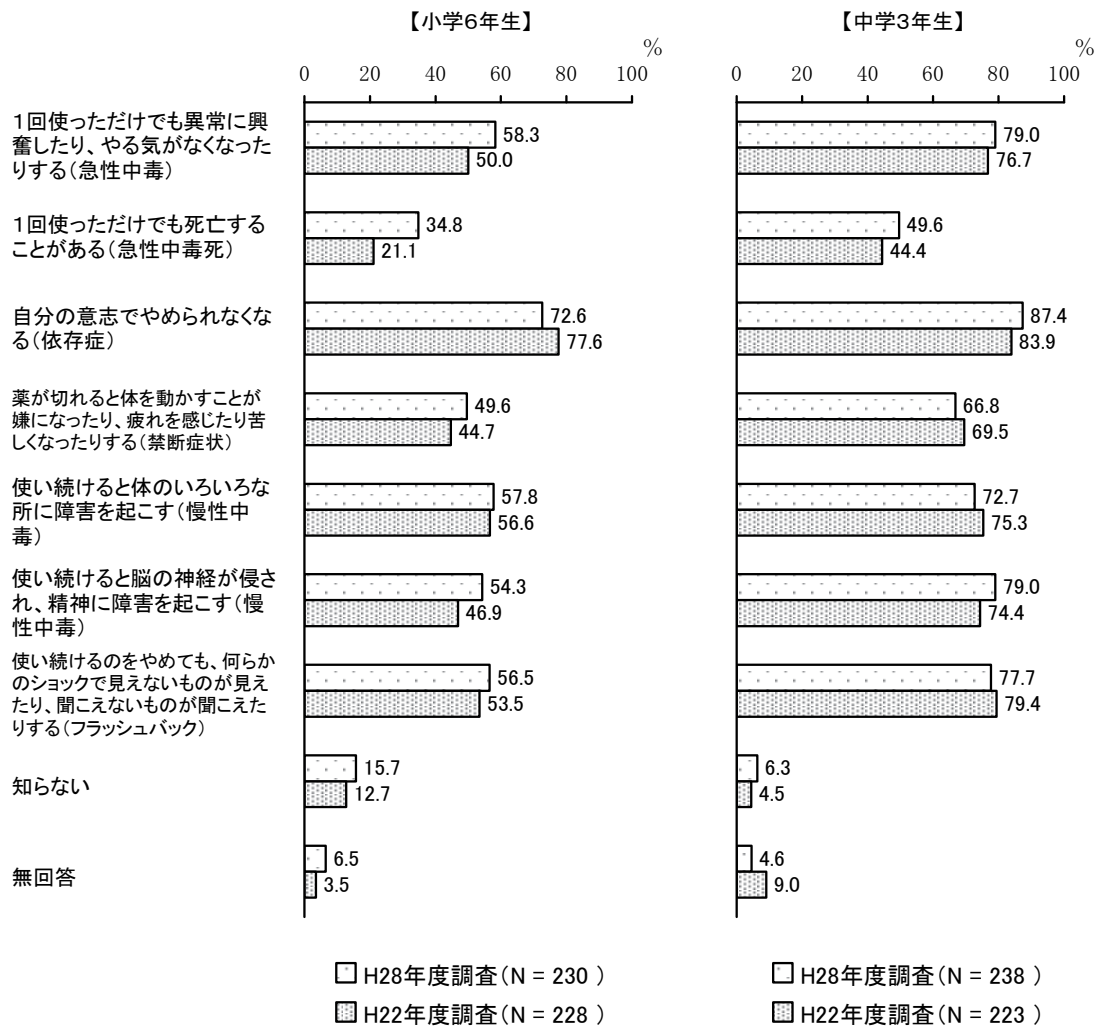
問38 シンナーや覚せい剤などの薬物の使用は法律で禁じられています。万が一、これらを使用した場合、心や体に与える悪影響で知っているものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

小学6年生では、「自分の意志でやめられなくなる(依存症)」の割合が72.6%と最も高く、次いで「1回使っただけでも異常に興奮したり、やる気がなくなったりする(急性中毒)」の割合が58.3%、「使い続けると体のいろいろな所に障害を起こす(慢性中毒)」の割合が57.8%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「1回使っただけでも死亡することがある(急性中毒死)」の割合が13.7ポイント増加しています。

中学3年生では、「自分の意志でやめられなくなる(依存症)」の割合が87.4%と最も高く、次いで「1回使っただけでも異常に興奮したり、やる気がなくなったりする(急性中毒)」の割合が79.0%、「使い続けると脳の神経が侵され、精神に障害を起こす(慢性中毒)」の割合が79.0%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「1回使っただけでも死亡することがある(急性中毒死)」の割合が5.2ポイント増加しています。



9 健康管理について

親子（1歳から5歳児）

- ・ヒヤとした経験がある割合は、「転落防止」が最も高く、4割半ば。（P. 97-問 44④）
- ・子どもの事故予防講習（研修）を受けたことがあるのは2割以上。（P. 98-問 46）
- ・かかりつけ医を決めているのは9割近く。（P. 99-問 48）
- ・母性健康管理指導事項連絡カードの認知度は2割半ば。（P. 100-問 50）

小中学生

- ・自分の健康に「関心がある」割合が4割以上。（P. 101-問 39）

成人（20歳以上）

- ・メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度が増加。（P. 102-問 51）
- ・定期健診の受診者が増加。（P. 103-問 53）
- ・健診において指導が必要と言われた人のうち、3割半ばがその後の指導を受けていない。（P. 104-問 53-2）
- ・市のがん検診受診者が増加。（P. 108-問 54-1）

（1）親子（1歳から5歳児）

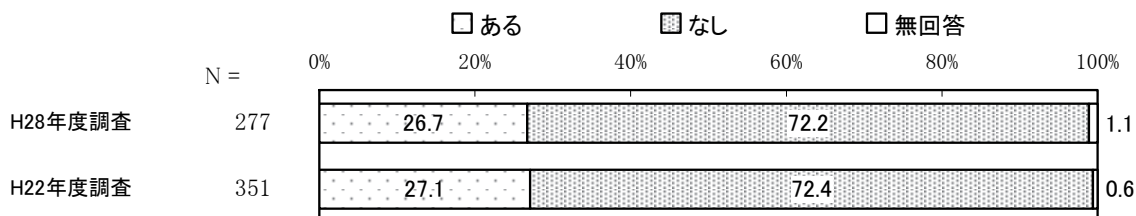
問 44 事故防止についてお答えください。

A ヒヤとした経験

①風呂場の事故防止

「ある」の割合が26.7%、「なし」の割合が72.2%となっています。

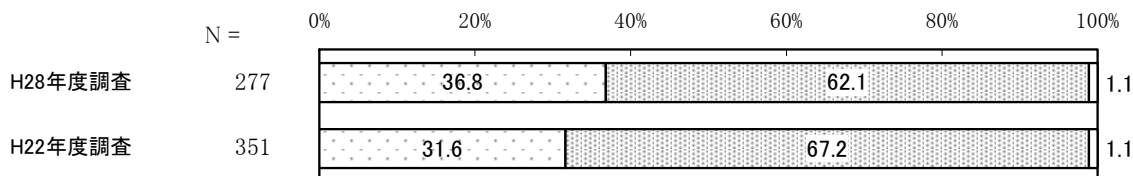
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②やけど防止

「ある」の割合が36.8%、「なし」の割合が62.1%となっています。

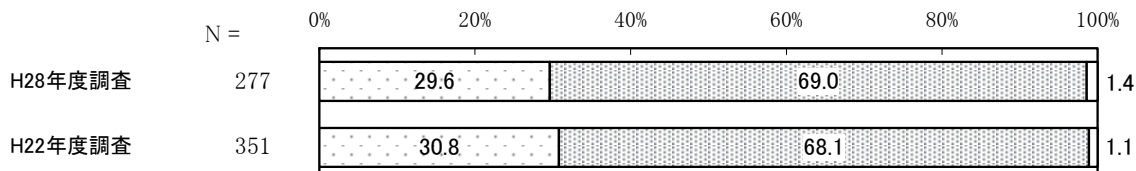
平成22年度調査と比較すると、「ある」の割合が5.2ポイント増加しています。



③誤飲防止

「ある」の割合が29.6%、「なし」の割合が69.0%となっています。

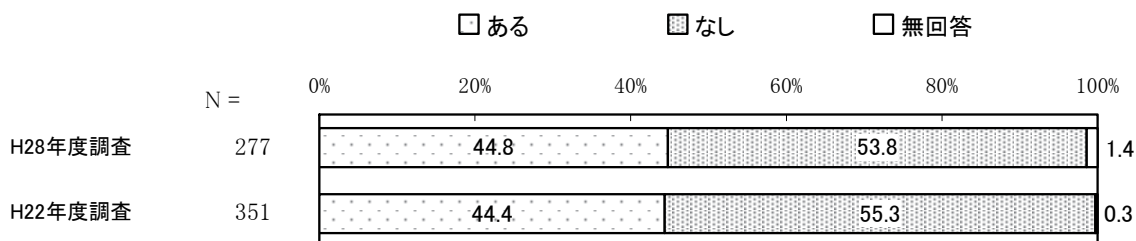
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④転落防止

「ある」の割合が44.8%、「なし」の割合が53.8%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

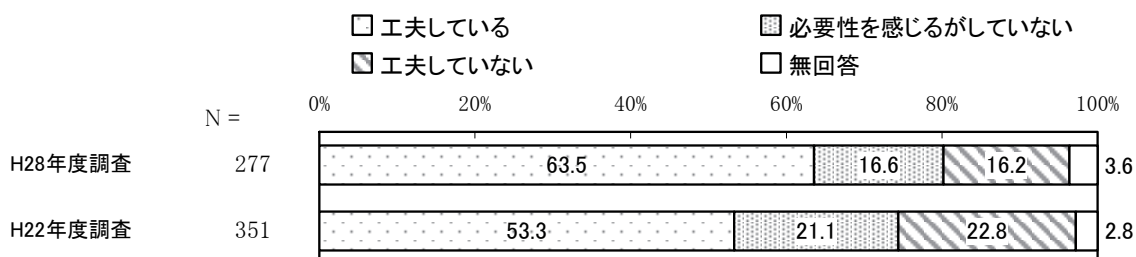


B 事故防止の工夫

①風呂場の事故防止

「工夫している」の割合が63.5%と最も高く、次いで「必要性を感じるがしていない」の割合が16.6%、「工夫していない」の割合が16.2%となっています。

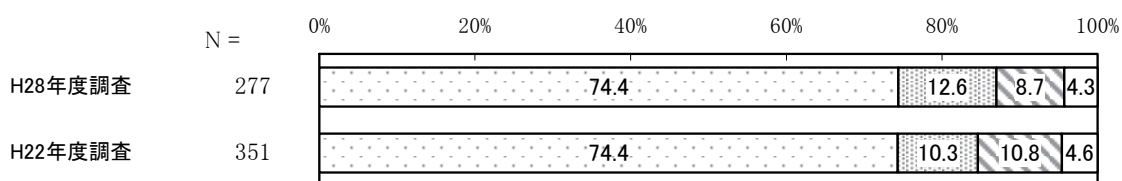
平成22年度調査と比較すると、「工夫している」の割合が10.2ポイント増加しています。



②やけど防止

「工夫している」の割合が74.4%と最も高く、次いで「必要性を感じるがしていない」の割合が12.6%となっています。

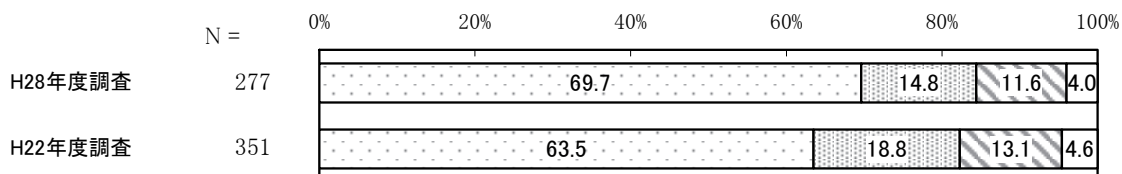
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



③誤飲防止

「工夫している」の割合が69.7%と最も高く、次いで「必要性を感じるがしていない」の割合が14.8%、「工夫していない」の割合が11.6%となっています。

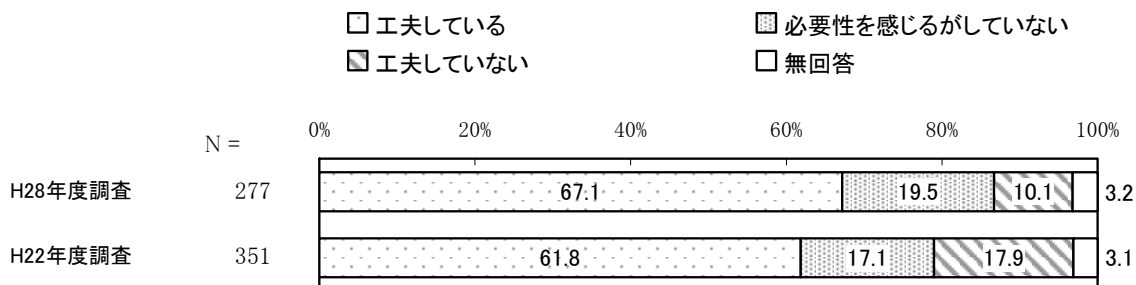
平成22年度調査と比較すると、「工夫している」の割合が6.2ポイント増加しています。



④転落防止

「工夫している」の割合が67.1%と最も高く、次いで「必要性を感じるがしていない」の割合が19.5%、「工夫していない」の割合が10.1%となっています。

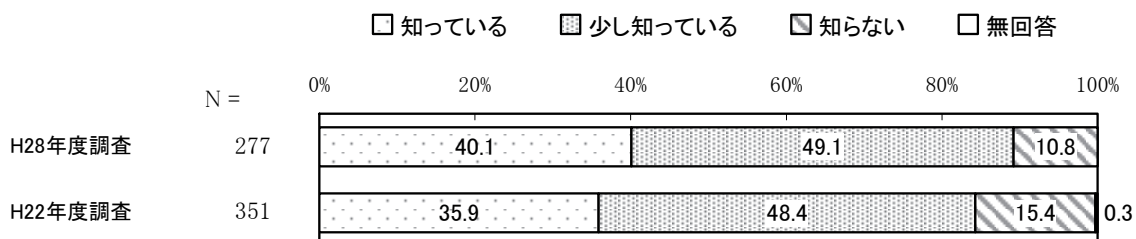
平成22年度調査と比較すると、「工夫している」の割合が5.3ポイント増加しています。



問 45 心肺蘇生法（人工呼吸法・心臓マッサージ等）をご存知ですか。（ひとつに○）

「知っている」と「少し知っている」を合わせた“知っている”の割合が89.2%、「知らない」の割合が10.8%となっています。

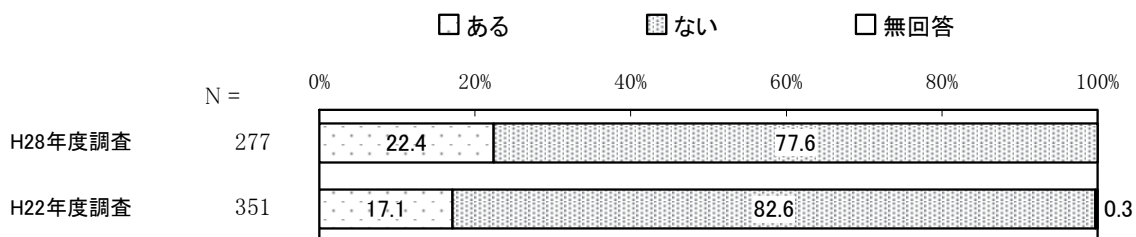
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 46 子どもの事故予防講習（研修）を受けたことがありますか。（どちらかに○）

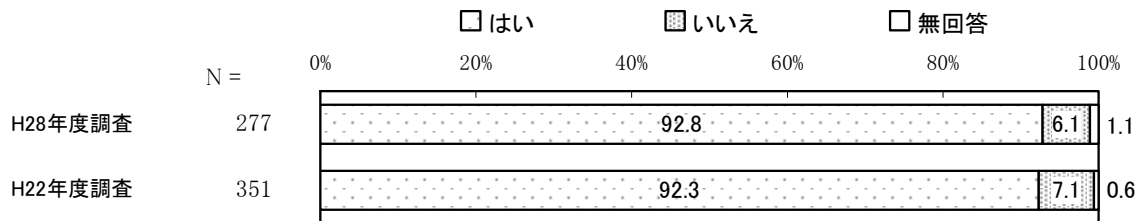
「ある」の割合が22.4%、「ない」の割合が77.6%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「ある」の割合が5.3ポイント増加しています。



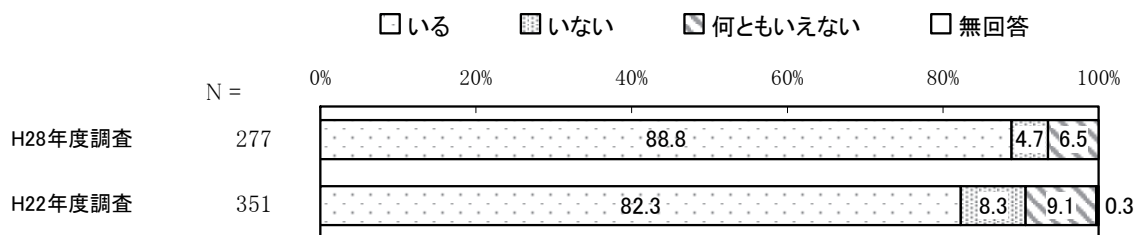
**問 47 京田辺市で実施している乳幼児健康診査を受けたことがありますか。
(どちらかに○)**

「はい」の割合が92.8%、「いいえ」の割合が6.1%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



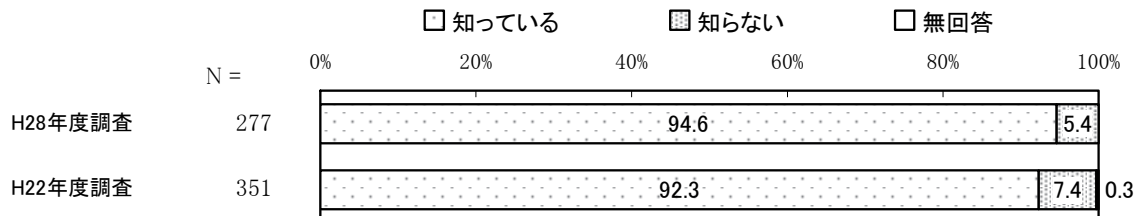
問 48 かかりつけ医を決めていますか。(ひとつに○)

「いる」の割合が88.8%、「いない」の割合が4.7%、「何ともいえない」の割合が6.5%となっています。
平成22年度調査と比較すると、「いる」の割合が6.5%増加しています。



問 49 休日・夜間小児救急医療機関をご存知ですか。(どちらかに○)

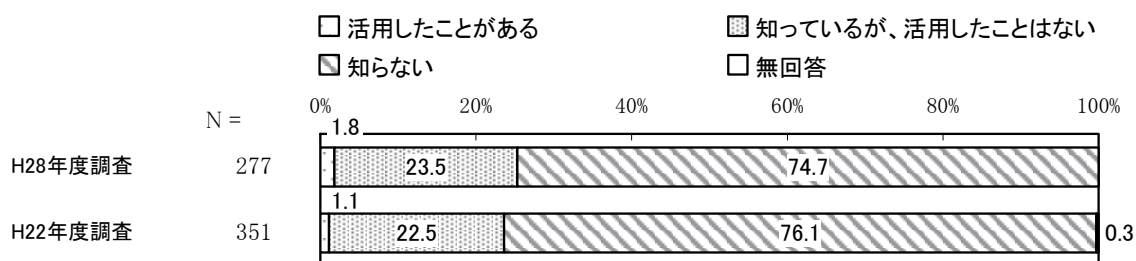
「知っている」の割合が94.6%、「知らない」の割合が5.4%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 50 母性健康管理指導事項連絡カード※を活用したことがありますか。(ひとつに○)

「知らない」の割合が 74.7%と最も高く、次いで「知っているが、活用したことはない」の割合が 23.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



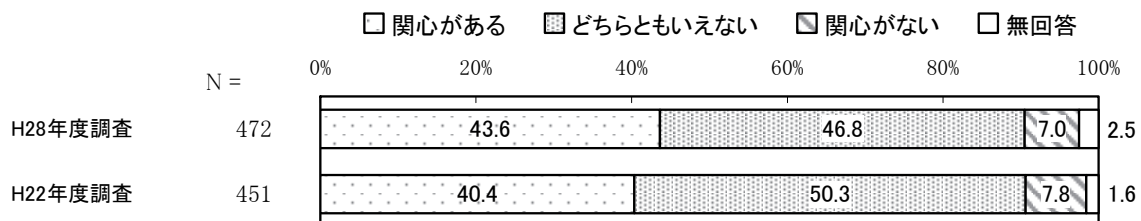
※母性健康管理指導事項連絡カード：働く妊婦の健康管理のために、医師の指導事項を的確に、職場に伝えるためのカードです。

(2) 小中学生

問 39 あなたは、自分の健康に関心がありますか。(ひとつに○)

「どちらともいえない」の割合が 46.8%と最も高く、次いで「関心がある」の割合が 43.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

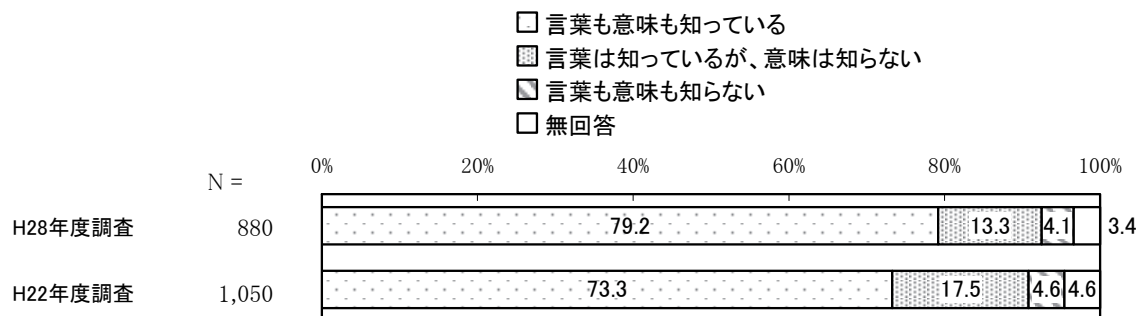


(3) 成 人

問 51 あなたは、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）という言葉やその意味を知っていますか。（ひとつに○）

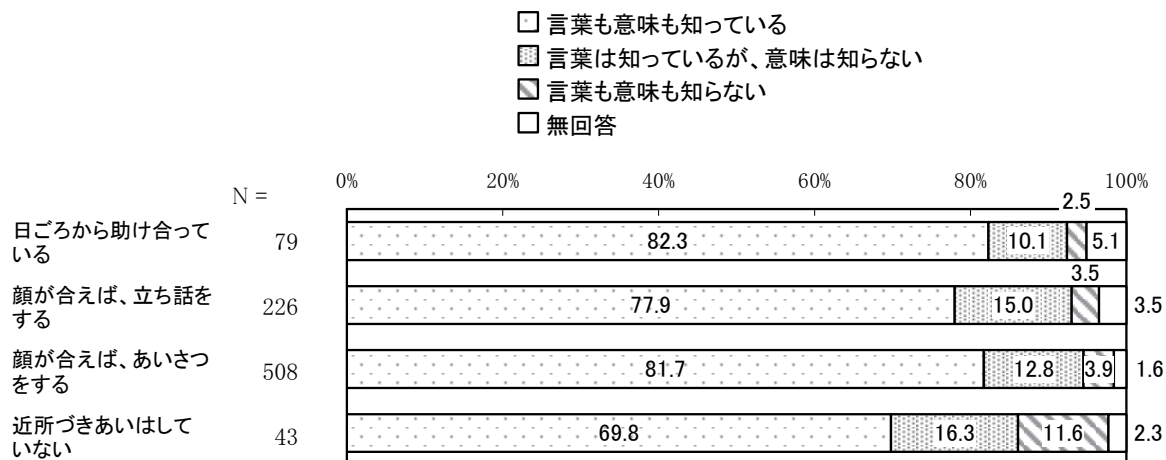
「言葉も意味も知っている」の割合が 79.2%と最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味は知らない」の割合が 13.3%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【近所付き合いの程度別】

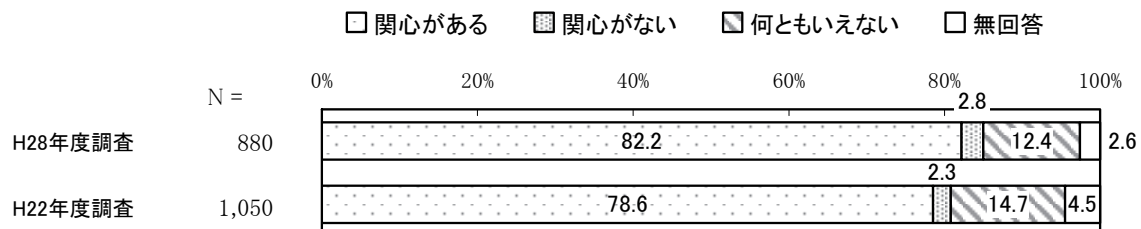
近所付き合いの程度別でみると、他に比べ、近所付き合いが親密である人ほど「言葉も意味も知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。



問 52 あなたは、自分の健康に関心がありますか。(ひとつに○)

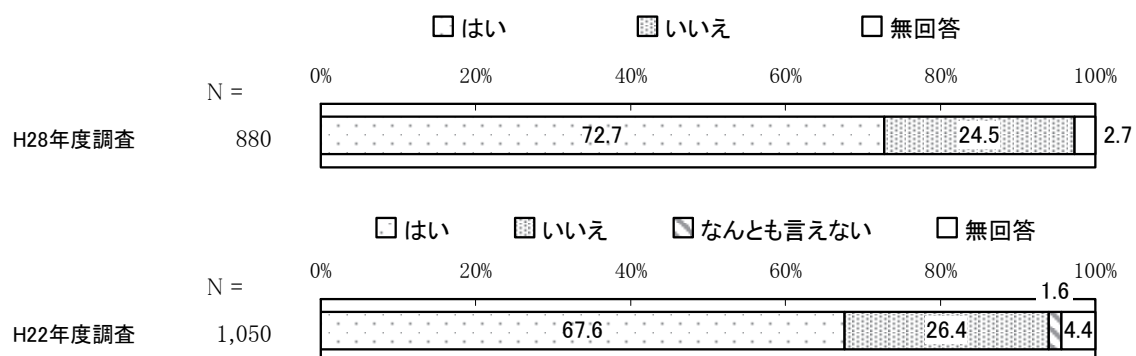
「関心がある」の割合が 82.2%、「関心がない」の割合が 2.8%、「何ともいえない」の割合が 12.4%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 53 あなたは、1 年以内に定期健診※を受けましたか。(ひとつに○)

「はい」の割合が 72.7%、「いいえ」の割合が 24.5%となっています。

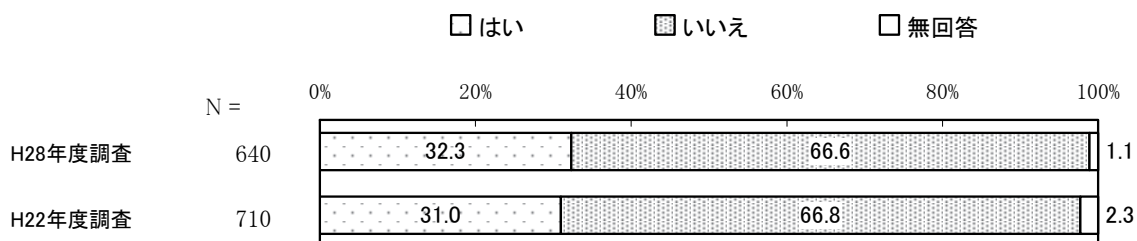


※定期健診：特定健診・職場健診・人間ドック・後期高齢者健診などのことです。

問 53-1 健診の結果、指導が必要と言われましたか。(どちらかに○)

「はい」の割合が 32.3%、「いいえ」の割合が 66.6%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

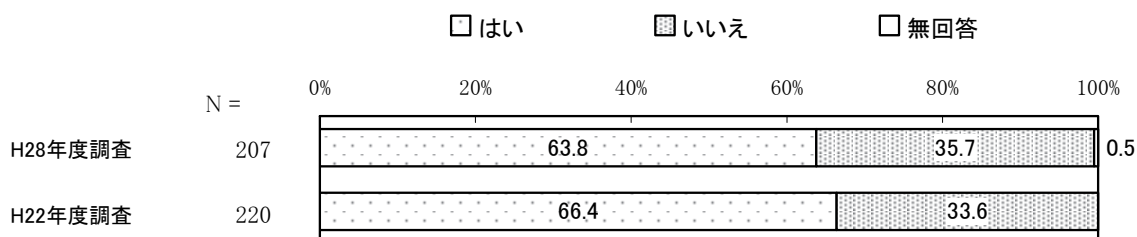


問 53-1 で、「1. はい」と回答した方は、以下の質問にお答えください。

問 53-2 その後、保健指導を受けましたか。(どちらかに○)

「はい」の割合が 63.8%、「いいえ」の割合が 35.7%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

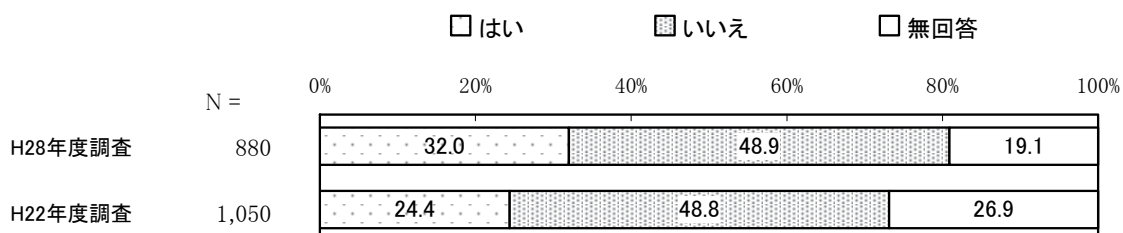


問 54 あなたは、1年以内に下記のがん検診（D 子宮がん検診、E 乳がん検診については2年以内）を受けましたか。
(それぞれの項目について、該当するものに○をつけてください。)

A 胃がん検診

「はい」の割合が 32.0%、「いいえ」の割合が 48.9%となっています。

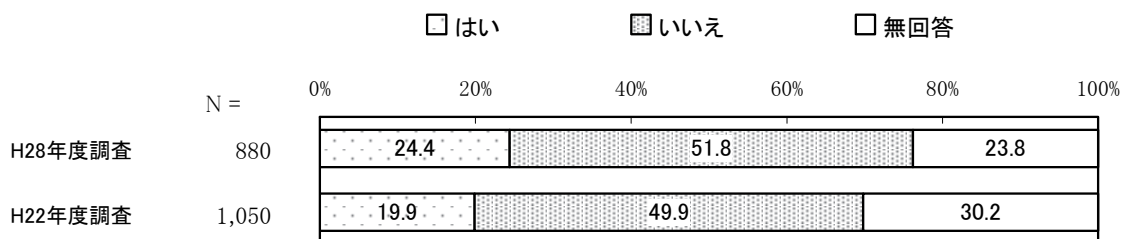
平成 22 年度調査と比較すると、「はい」の割合が 7.6 ポイント増加しています。



B 肺がん検診

「はい」の割合が24.4%、「いいえ」の割合が51.8%となっています。

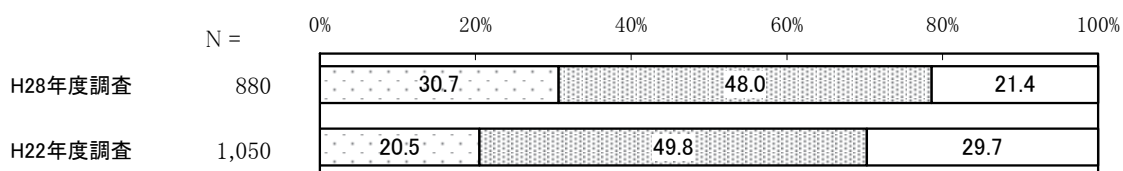
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



C 大腸がん検診

「はい」の割合が30.7%、「いいえ」の割合が48.0%となっています。

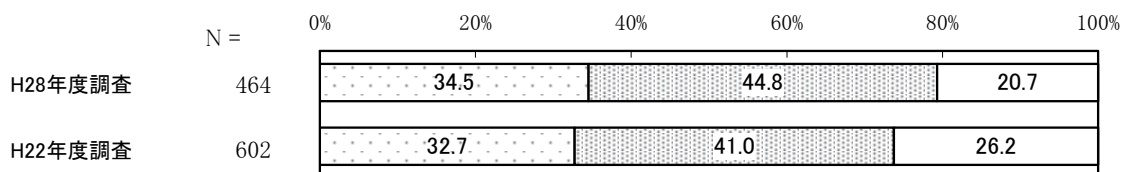
平成22年度調査と比較すると、「はい」の割合が10.2ポイント増加しています。



D 子宮がん検診（女性のみ）

「はい」の割合が34.5%、「いいえ」の割合が44.8%となっています。

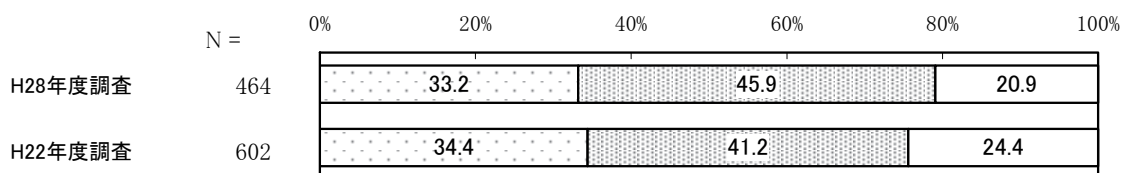
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



E 乳がん検診（女性のみ）

「はい」の割合が33.2%、「いいえ」の割合が45.9%となっています。

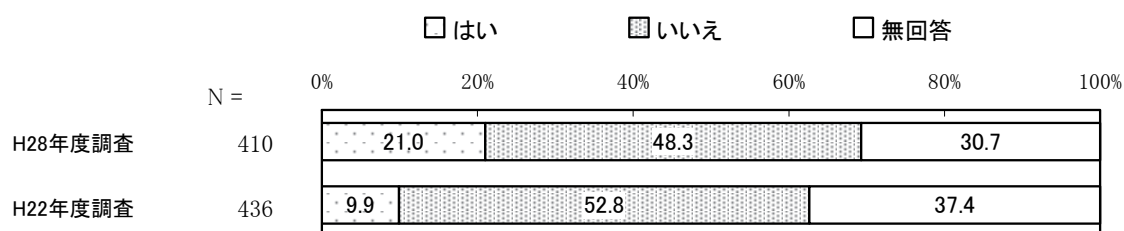
平成22年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F 前立腺がん検診（男性のみ）

「はい」の割合が21.0%、「いいえ」の割合が48.3%となっています。

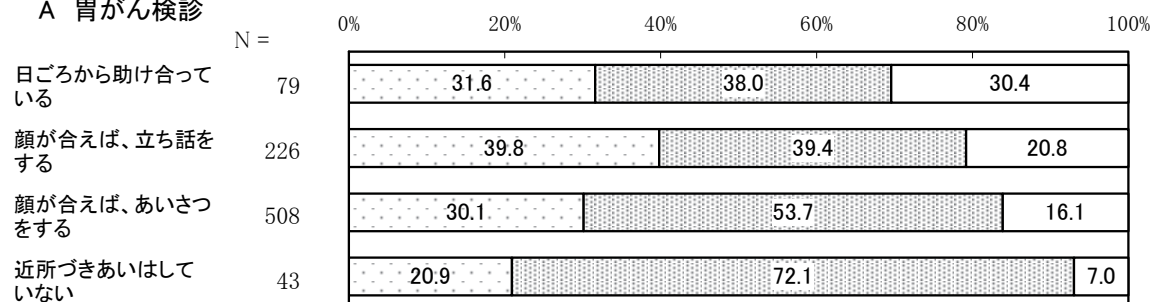
平成22年度調査と比較すると、「はい」の割合が11.1ポイント増加しています。



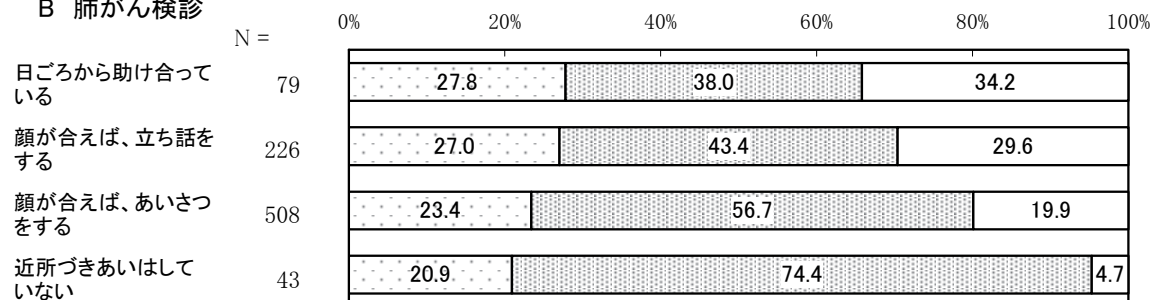
【近所付き合いの程度別】

近所付き合いの程度別でみると、すべての検診で、近所付き合いが薄くなるにつれ「いいえ」の割合が高くなっており、近所付き合いはしていない人では、すべての検診で「いいえ」の割合が高くなっています。

A 胃がん検診

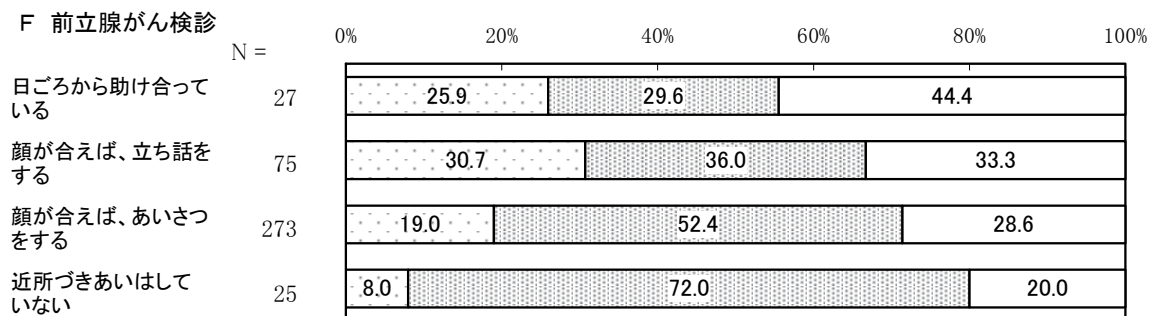
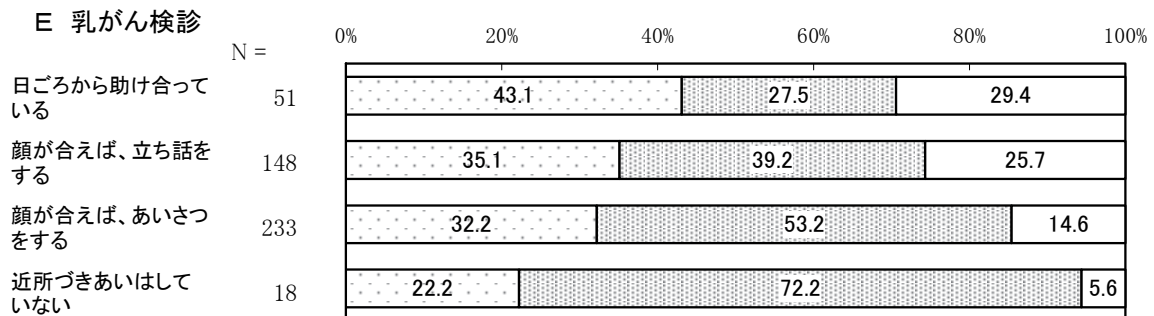
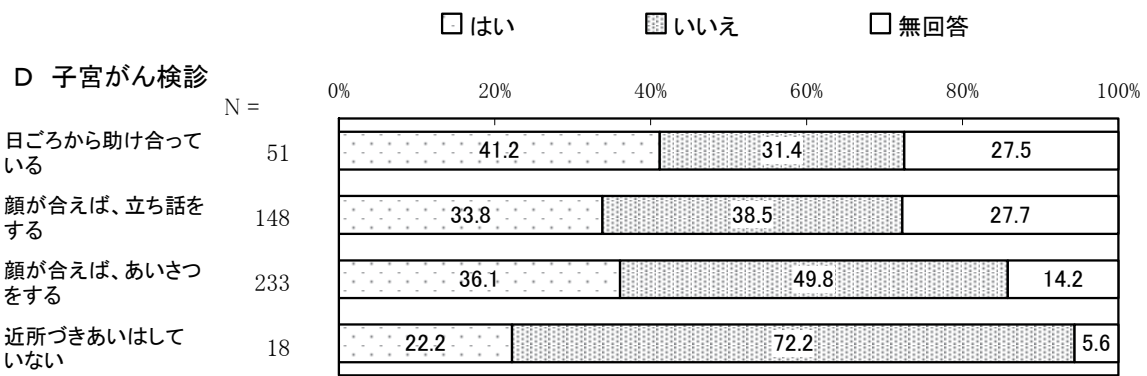


B 肺がん検診



C 大腸がん検診



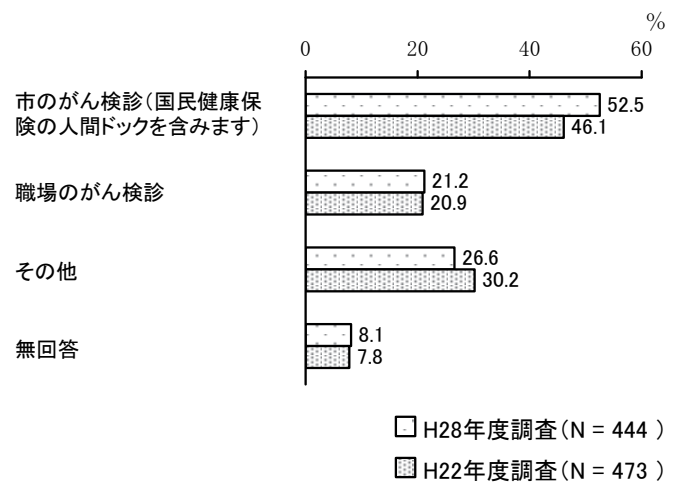


問 54 で、いずれかのがん検診を受けた方は、以下の質問にお答えください。

問 54-1 あなたは、がん検診をどの検診で受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

「市のがん検診(国民健康保険の人間ドックを含みます)」の割合が 52.5%、「職場のがん検診」の割合が 21.2%となっています。

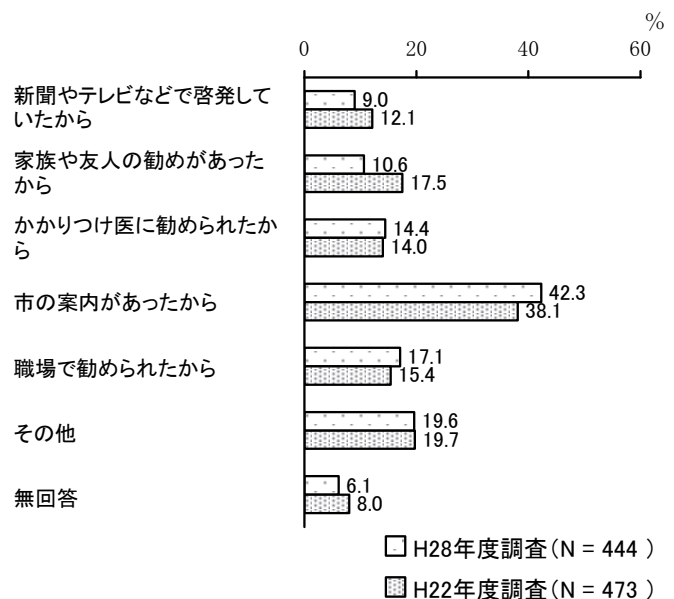
平成 22 年度調査と比較すると、「市のがん検診(国民健康保険の人間ドックを含みます)」の割合が 6.4 ポイント増加しています。



問 54-2 あなたが、がん検診を受けようとしたきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「市の案内があったから」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「職場で勧められたから」の割合が 17.1%、「かかりつけ医に勧められたから」の割合が 14.4%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「家族や友人の勧めがあったから」の割合が 6.9 ポイント減少しています。

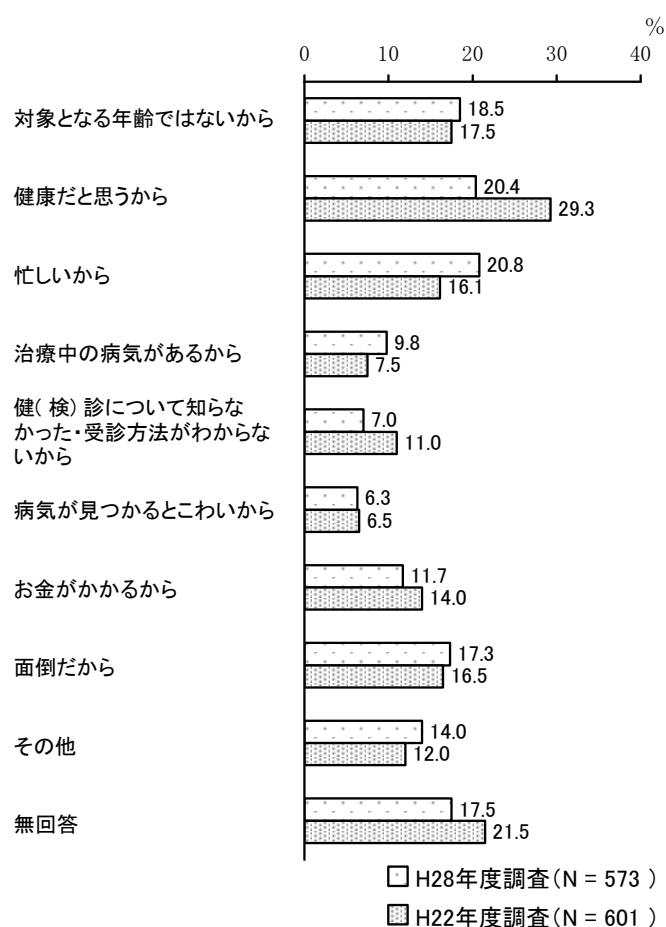


問 53、問 54 で、受けていない定期健診やがん検診がある方は、以下の質問にお答えください。

問 55 定期健診やがん検診等を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「忙しいから」の割合が 20.8%と最も高く、次いで「健康だと思うから」の割合が 20.4%、「対象となる年齢ではないから」の割合が 18.5%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「健康だと思うから」の割合が 8.9 ポイント減少しています。



問 56 あなたは次の事業を知っていますか。また、参加したことや利用したことはありますか。(該当するものすべてに○)

①認知度

「一休さんウォーク」の割合が 53.4%と最も高く、次いで「健幸パスポート」の割合が 20.1%、「歯のひろば」の割合が 17.0%となっています。

N = 880

一休さんウォーク

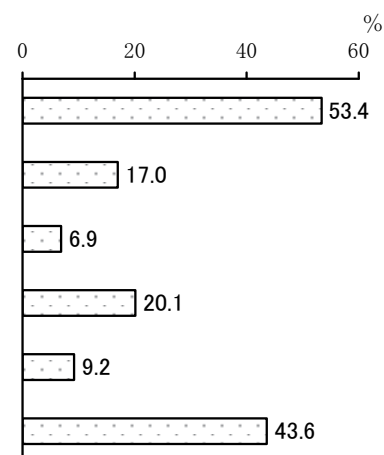
歯のひろば

水辺の散策路

健幸パスポート

いきいきレシピ

無回答



②参加度・利用度

「一休さんウォーク」の割合が 8.6%と最も高くなっています。

N = 880

一休さんウォーク

歯のひろば

水辺の散策路

健幸パスポート

いきいきレシピ

無回答

